

# 檀原市公共施設白書

平成28年3月

檀 原 市

# 目 次

1	はじめに	1
	公共施設白書作成の背景及び目的	1
2	檀原市の概要	2
2-1	位置・地勢、沿革	2
2-2	人口	3
2-3	財政	4
2-4	まちづくりの方向性	6
3	公共施設の概要	9
3-1	公共施設白書の対象となる施設	9
3-2	公共施設の概要	12
4	施設別の状況	15
4-1	各種指標等について	15
4-2	施設別の状況について	17
	(1) 市民文化・社会教育施設	17
	(2) スポーツ施設	39
	(3) 観光施設	42
	(4) 学校教育施設	46
	(5) 子育て支援施設	59
	(6) 保健・福祉施設	76
	(7) 行政施設	88
	(8) 市営住宅	94
	(9) 環境施設	99
	(10) その他施設	102
5	公共施設を取り巻く現状と課題	111
5-1	本市の公共施設の主な状況	111

## 本書の掲載データについての留意事項等

- 本施設白書は、「檀原市公共施設カルテ」に記載している施設を対象（但し、公園施設と企業会計資産は対象外）とし、建物状況・利用状況・コスト状況などを同一分類ごとに整理しています。なお、今後、継続的にデータを蓄積・精査していく中で、各種データについては修正する可能性があります。
- 特に説明があるものを除き、平成 27 年 3 月 31 日時点（平成 26 年度末）を基準としています。（ただし、コスト情報・サービス情報は平成 25 年度のデータを使用）
- 端数処理や按分などの関係で、「檀原市公共施設カルテ」の数値と一致しない場合があります。
- 同一の建物内に複数の異なる機能がある施設（複合施設）は、それぞれの機能を個別の対象施設として扱っています。なお、施設に係る費用を複合施設全体で管理している場合には、より施設の実態に近づけるため、それぞれの機能の延床面積で按分処理しています。ただし、人件費については按分せず、主施設に費用を一括して計上しています。

# 1 はじめに

## 1 公共施設白書作成の背景及び目的

全国的な少子・高齢化の進展による人口減少社会が到来し、社会情勢が急激に変化している中、本市においても、現在約 12.5 万人の人口が今後は減少していくことが予想されており、税金の減少と同時に高齢化に伴う社会福祉関連経費の増加に見舞われる時代が目前に迫っています。そのため、さまざまな市民の方が利用される公共施設において、改修や建替えを適切に実施し、安全性を確保するというあたりまえのことが困難になりつつあります。

一方、市民ニーズは多様化・高度化しており、今後より一層の効率的な行政サービスの提供やコスト削減が求められ、サービスを量から質の向上へ転換させることが重要となります。行政サービスを提供する場として、これまで積極的に整備してきた公共施設ですが、限られた財源の中で効率的・効果的な運営を行っていくことが求められます。また、地域づくりや地域福祉の拠点、広域観光の拠点、子育て世代や高齢者の活動拠点の提供など新たなサービスも提供していく必要があります。

本市においては、市が所有する公共施設の状況を把握し、限られた財源の中で総合的・長期的視点に立って適切な維持保全・企画・活用を行うため、平成 26 年度からファシリティマネジメントの取り組みに着手しており、情報の一元化を図るとともに、「施設の最適化」「経済性の向上」「財政負担の軽減化・平準化」といった視点から「量」と「質」の見直しについて検討を進めています。

本白書は、所有する公共施設について、機能や利用状況、運営状況などの実態を把握・整理し、市民共有の財産である公共施設の今後のあり方について具体的に検討していくための基礎資料として作成するものです。

## 2 橿原市の概要

### 2-1 位置・地勢、沿革

#### (1) 位置・地勢

本市は、奈良県のほぼ中央に位置し、東は桜井市、西は大和高田市、南は御所市・高取町・明日香村、北は田原本町・広陵町と接しています。

国道24号・165号・169号など、道路網も発達しています。また、市内にはJRと近鉄をあわせて13の駅があり、電車で大阪まで約40分、京都まで約1時間、名古屋まで約2時間と交通の便もよく、古代から交通の要となっています。

市域は東西7.5km、南北8.3kmの広がりがあり、総面積は39.56k㎡です。

全体的に起伏が少なく、市内の中央部には飛鳥川、西には曾我川が流れています。

また、市内には万葉の時代を偲ばせる大和三山（香具山：標高152m、畝傍山：199m、耳成山：139m）が鼎立しています。

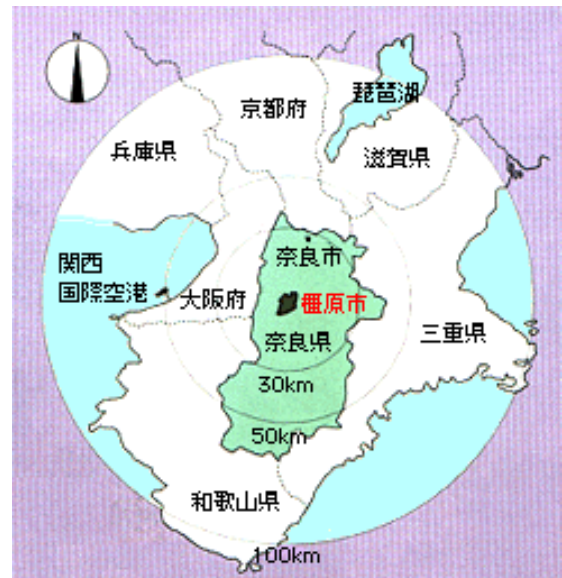


図 2-1-1 橿原市の位置

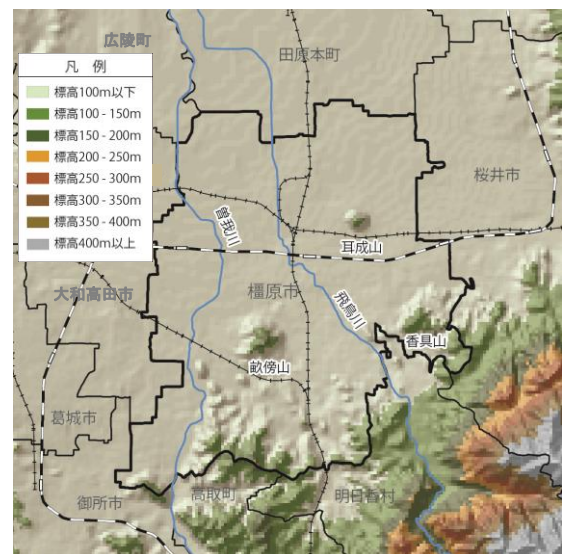


図 2-1-2 橿原市の地勢

#### (2) 沿革

本市は、昭和31年2月11日、奈良県内で5番目の市として発足しました。市制発足当時38,560人であった人口は3倍以上に増加しています。

## 2-2 人口

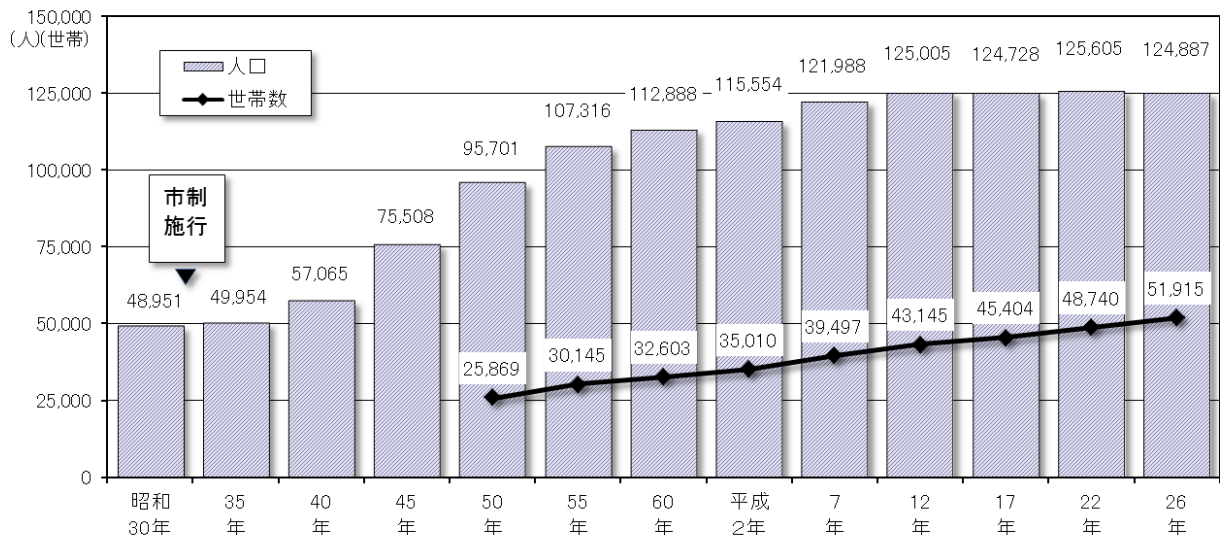
### (1) 人口・世帯数の推移

本市の人口は、昭和40年代から昭和50年代にかけて急増、平成12年以降はほぼ横ばいの傾向が続いており、平成26年には12万4,887人となっています。

世帯数は増加傾向が続いており、平成26年には51,915世帯となっています。

人口が横ばいで推移する一方で世帯数が増加しているため、1世帯あたりの人員は減少傾向にあり、昭和50年の3.70人/世帯が平成26年には2.41人/世帯まで減少しています。

図 2-2-1 人口・世帯数の推移



※昭和31年(1956年)2月11日、磯城郡耳成村、高市郡欽傍町、鴨公村、八木町、今井町、真菅村の6か町村が合併し、橿原市成立

資料：国勢調査(昭和30年は現在の市域での再集計値)／平成26年は住民基本台帳人口(平成26年10月1日現在)

## 2-3 財政

### (1) 普通会計決算額

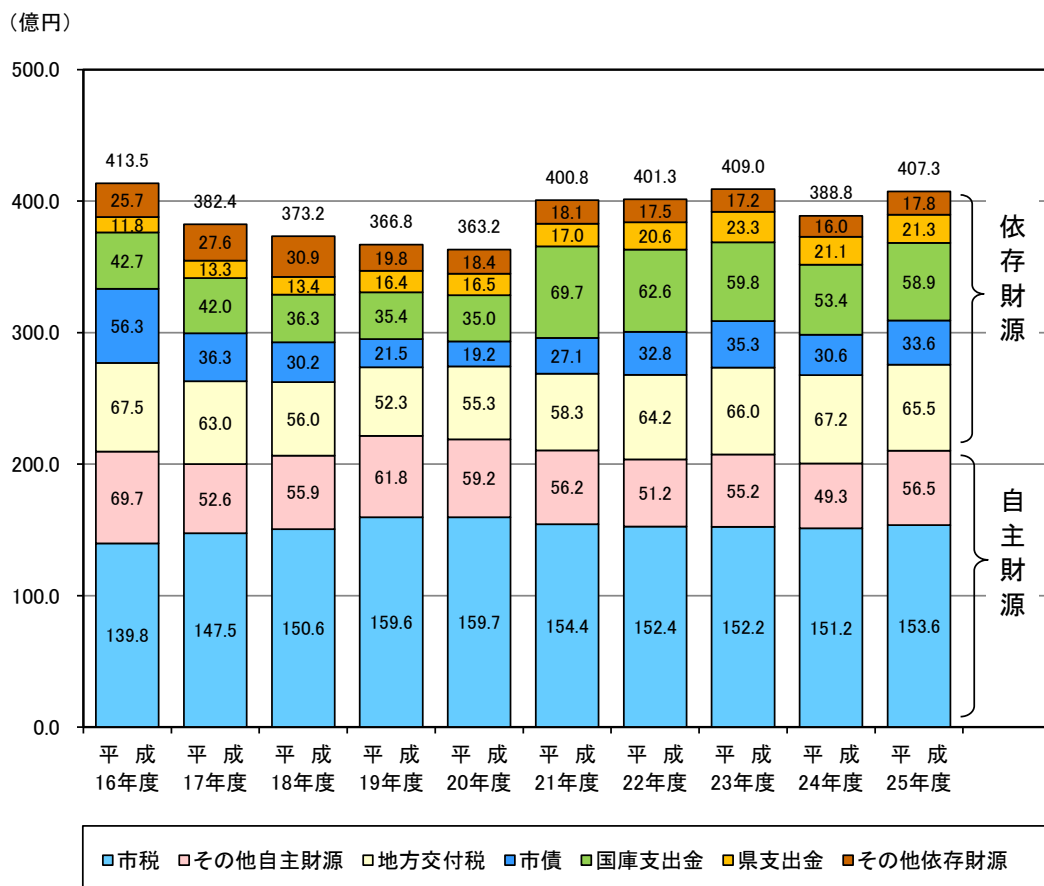
#### ① 歳入

歳入は、平成16年度の約414億円から平成20年度には約363億円まで減少したものの、その後、再び増加に転じ、近年は400億円程度で推移しています。

歳入の内訳をみると、本市の歳入は地方交付税、国庫支出金などに依存しており、非常に脆弱な構造となっていることがわかります。

市税などの自主財源は約200億円で推移しており、平成25年度は約210億円と歳入の約52%となっています。今後は、生産年齢人口の減少などにより、市税収入の大幅な増加が見込めないため、本市の財政運営は非常に厳しくなるものと推測されます。

図2-3-1 歳入の状況



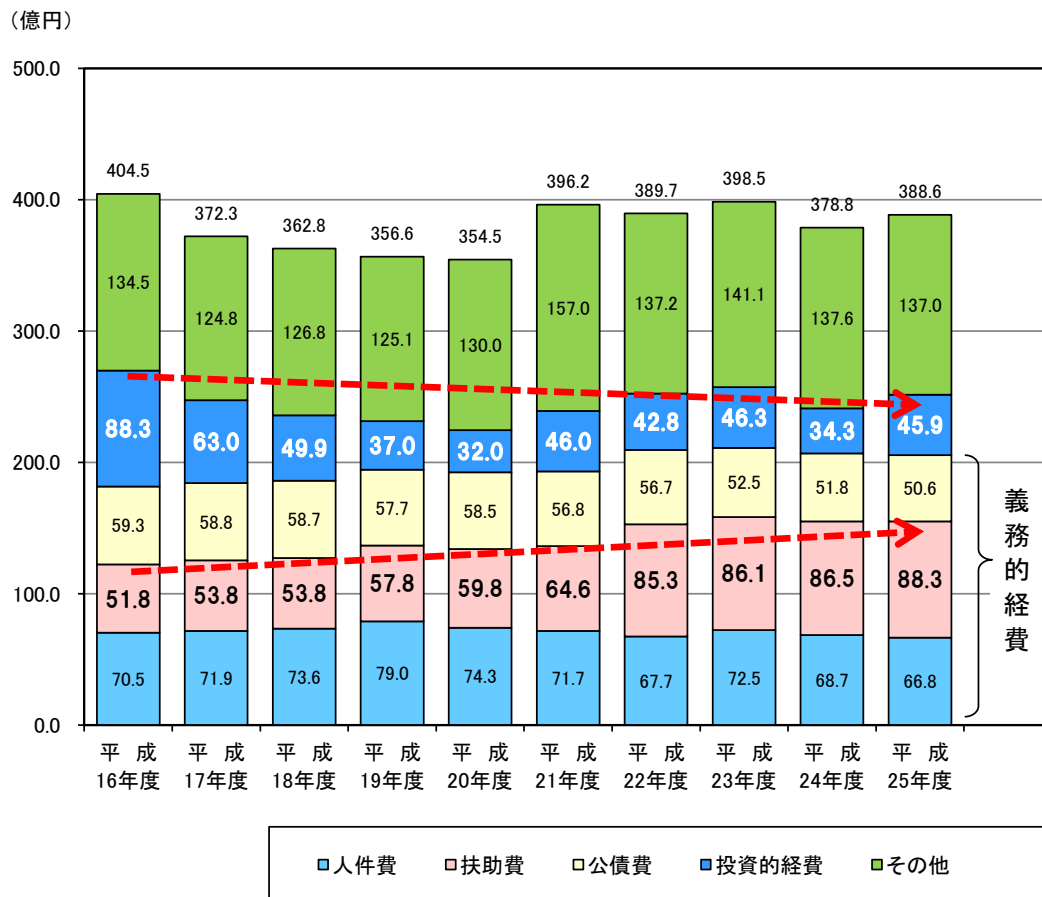
## ② 歳出

歳出は、平成 16 年度の約 405 億円から平成 20 年度には約 355 億円まで減少したものの、その後、再び増加に転じ、近年は 380～400 億円程度で推移しています。

歳出の内訳をみると、義務的経費（人件費、扶助費、公債費）は約 180～210 億円の間で推移しており、平成 25 年度歳出額の約 53%を占めています。その内、扶助費は、生活保護費や自立支援事業費、児童手当などの増加に伴い、この 10 年間で約 52 億円から 88 億円へと大幅に増加しています。人件費及び公債費は、近年減少傾向にあります。

また、投資的経費は、平成 25 年度歳出額の約 12%を占めているものの、約 88 億円から約 46 億円に減少しており、平成 18 年以降は扶助費の額を下回っています。

図 2-3-2 歳出の状況





## 2-4 まちづくりの方向性

### (1) まちづくりの方向性 — 檜原市第3次総合計画 —

#### ① 檜原市の目指すビジョン

##### <まちづくりの理念>

人とともに、歴史とともに、やさしく強いまち かしはら

##### <将来像>

歴史・文化と人がつくる交流都市

#### ② 将来像

檜原市基本構想では、檜原市の目指す姿として10の都市像が設定されており、その都市像実現のため、後期基本計画（平成25年4月策定）において施策や今後の取り組みを示しています。このうち、公共施設に関わる主なものを抜粋すると以下のようになります。

##### <安心・安全なまち>

- ・耐震対策の推進：倒壊危険度及び重要度を考慮した公共建築物の耐震化

##### <子どもの成長と学習を育むまち>

- ・子育て世帯への支援体制の強化：保育所と幼稚園を一体的に運営することも園の推進
- ・児童の健全育成の充実：学校の余裕教室を活用する等、学童保育の施設改善を検討  
児童センターや児童館のバリアフリー化の推進
- ・幼児教育の充実：幼保一体化と幼稚園の統廃合の推進
- ・学校教育の充実：幼稚園・学校の耐震化（平成27年度まで）

##### <市民の自立と個性を活かすまち>

- ・生涯スポーツの推進：体育施設の計画的な補修・改修の検討

##### <人と文化がふれあうまち>

- ・文化財の保護と活用：文化遺産をまちづくりの資源として活用

##### <快適な生活を育むまち>

- ・快適な住環境の整備：公営住宅のバリアフリー化・ライフサイクルコスト縮減に向けた予防保全的な改修工事等の実施
- ・歴史的町並み及び集落景観の保全：今井町や八木札の辻の周知啓発施設の更なる活用促進や適正管理を検討

##### <持続可能な環境をつくるまち>

- ・廃棄物の減量化と適正処理：廃棄物処理施設の計画的な保全
- ・斎場・墓園の維持管理：斎場の適正管理に努める

##### <信頼される行政を進めるまち>

- ・安心と信頼の市役所運営：庁舎建設に向けたあらゆる可能性の検討

## (2) 土地利用の基本的方針 — 橿原市都市計画マスタープラン —

橿原市都市計画マスタープランでは、まちづくりの目標及び将来都市構造を以下のよう定めています。

### ① まちづくりの目標

- 奈良県の中核的な拠点都市の一翼を担うまちづくり
- 歴史文化と自然を活かした交流と魅力あふれるまちづくり
- 市民が安全に安心して暮らすことのできる人にやさしいまちづくり

### ② 将来都市構造

将来都市構造は、以下の2点を重要な視点とし、設定しています。

- ・広域的な拠点性を高める都市構造
- ・豊かな歴史・自然環境を活かし、連携・交流を促す都市構造

図 2-4-1 将来都市構造図（橿原市都市計画マスタープランより引用）

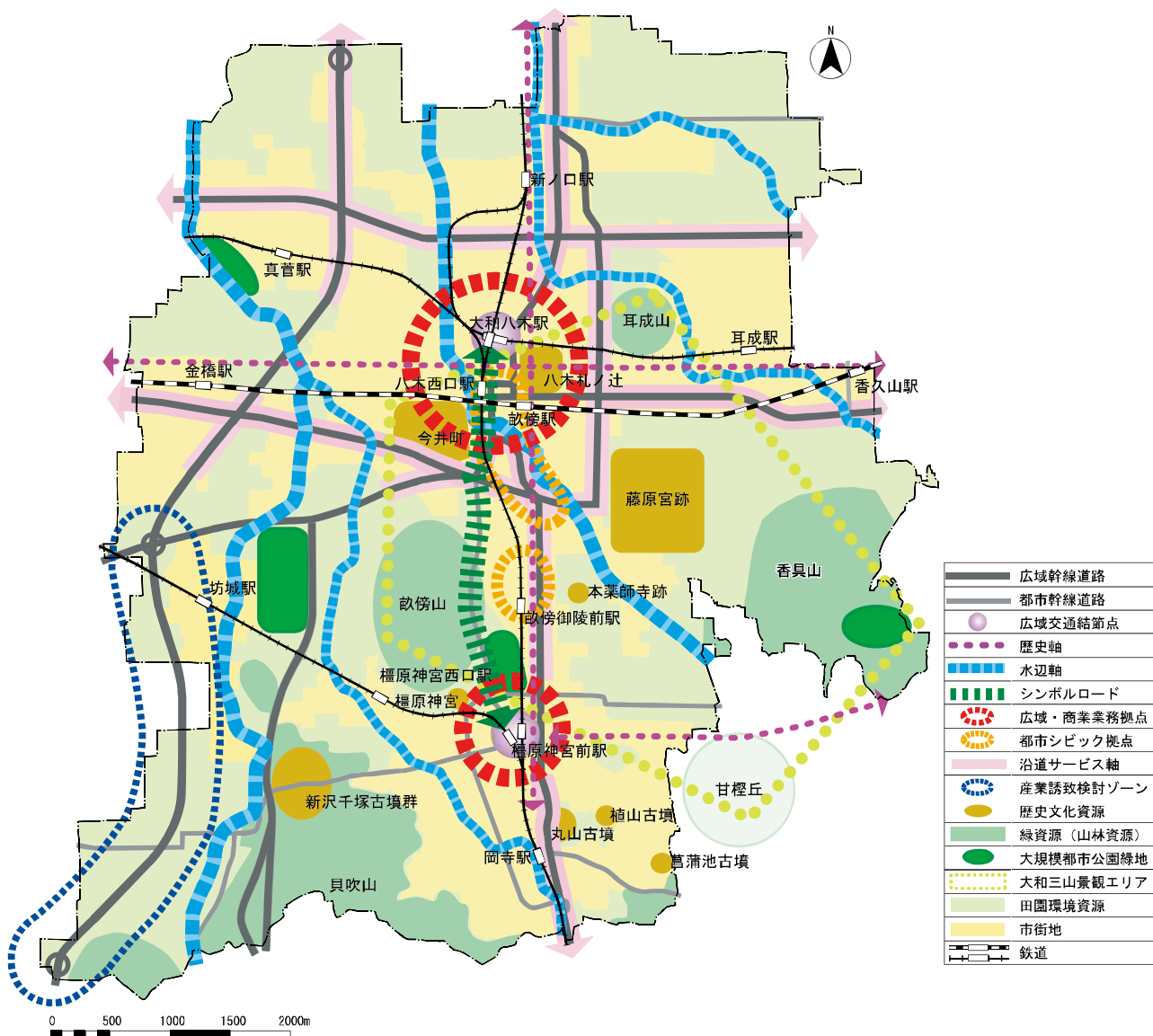


表 2-4-1 将来都市構造区分と整備の方針（橿原市都市計画マスタープランより引用）

区分	整備の方針
交通軸 (広域幹線道路) (都市幹線道路)	京奈和自動車道、南阪奈道路などの高速道路、都市間の広域的な交流・連携を担う都市計画道路奈良橿原線、橿原高取線、大和高田バイパス線、国道24号バイパス線、中和幹線、国道24号、165号、166号及び169号などの広域幹線道路、市内各地域間や拠点を相互に結ぶ県道大三輪十市線、多武峯見瀬線、戸毛久米線などの都市幹線道路など、都市活動を支える利便性と快適性を備えた交通ネットワークの形成を図ります。
広域交通結節点	大和八木駅及び橿原神宮前駅周辺地区は、公共交通利用の拠点として、すべての人が利用しやすい交通結節機能の強化及びバリアフリー化を図ります。
歴史軸 (古道)	下ツ道・横大路など歴史街道に位置づけられている道路及び阿部山田道は、特色ある歴史文化資源に親しめる環境づくりを図ります。
水辺軸 (河川)	曾我川、飛鳥川などの水辺は、水と緑のうらおいある環境を形成する軸として散策や回遊ができる環境の充実を図ります。
シンボルロード	本市の2大拠点である大和八木駅周辺と橿原神宮前駅周辺をつなぐ道路は、シンボルロードにふさわしい適正な維持管理と整備を推進し、落ち着きがあり、歴史を感じられる魅力あふれる景観形成を図ります。
広域・商業業務拠点	大和八木駅、八木西口駅及び畝傍駅を一体とした地区（中心核）と橿原神宮前駅周辺地区（サブ核）は、高次の商業・業務や各種サービス機能を担う拠点として、基盤整備と連動した土地の高度利用を推進し、既存の商業・サービス機能の再編・活性化及び賑わいと交流あふれる広域拠点づくりを図ります。
都市シビック拠点 (公共公益施設拠点)	市役所周辺からかしはら万葉ホールにかけての行政・医療・文化などの公共公益施設の集積する地域や畝傍御陵前駅周辺の公共公益施設の集積する地域は、中心核や今井町との一体的な利用に留意した、魅力ある歩行者回遊空間の形成を図ります。
沿道サービス軸	主要な広域幹線道路沿道は、周辺の住宅地環境との調和を図りながら、優れた交通条件を活かした沿道立地型の商業・サービスなど施設の立地誘導を図るとともに、都市景観の形成に資する緑の軸の創出を図ります。
産業誘致検討ゾーン	将来の広域幹線道路の整備効果を活かし、本市の産業基盤の強化を図る拠点として、周辺地域との環境調和に十分留意しつつ、産業施設の立地誘導の検討を図ります。
歴史文化資源	今井町地区や八木札の辻地区、藤原宮跡、橿原神宮、本薬師寺跡、新沢千塚古墳群、丸山古墳、植山古墳及び菖蒲池古墳などは、歴史文化遺産を保全継承する歴史文化の拠点として、歴史的景観の維持保全に努めるとともに、市民の学習、広域的な交流の場として整備を図ります。
緑資源 (山林資源)	本市の象徴的な景観を形づくっている香具山、畝傍山、耳成山及び貝吹山を「歴史的景観を有する山林資源」と位置づけ、緑の保全に努めるとともに、歴史遺産に人々がふれあえる市民の憩いの場として活用を図ります。
大規模都市公園緑地	大規模都市公園緑地である橿原運動公園、曾我川緑地、橿原公苑、香久山公園などは、市民交流や緑に親しむ広域的なスポーツ・レクリエーション拠点として、良好な環境の保全や防災機能の強化、バリアフリー化などを図ります。
大和三山景観エリア	藤原宮跡を中心とした香具山・畝傍山・耳成山からなる大和三山、甘樫丘及び今井町に囲まれた地域は、良好な眺望景観の確保に配慮しつつ、歴史的景観の保全と活用を図ります。
田園環境資源	市街地を取り囲む農地と周辺の集落地は、良好な農業基盤の保全と質的向上を図るとともに、田園景観や歴史的集落景観の保全を図ります。
市街地	現行の市街化区域を中心とする市街地は、計画的な都市基盤整備、土地利用の純化など、地域住民のニーズを踏まえつつ、快適でうらおいある居住環境の充実及び周辺の居住環境と調和のとれた産業などの就業環境の充実を図ります。

### 3 公共施設の概要

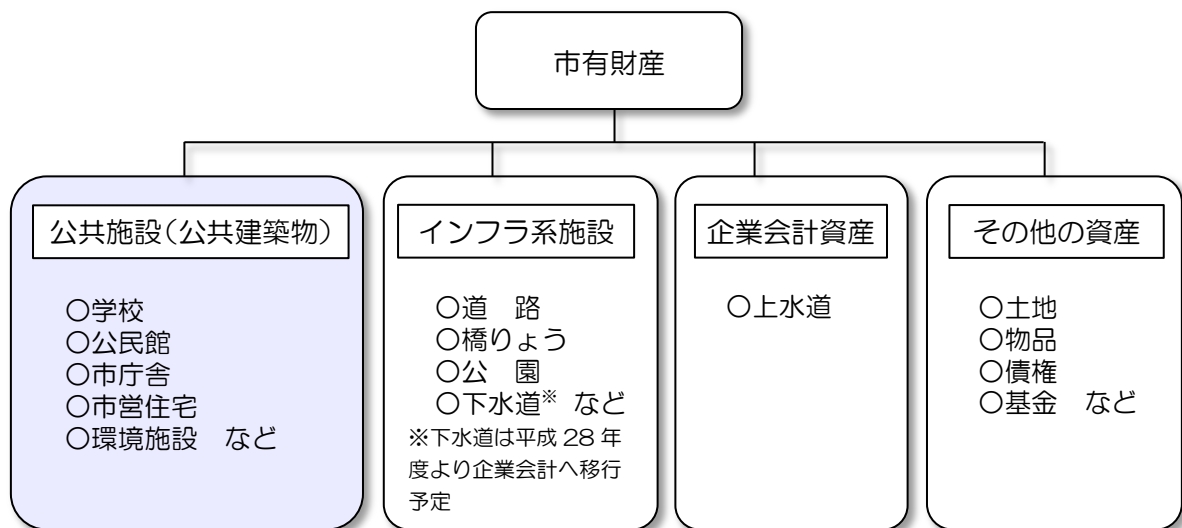
#### 3-1 公共施設白書の対象となる施設

##### (1) 対象となる市有財産

市が所有している財産には、学校や公民館などの「公共施設（公共建築物）」のほか、「インフラ系施設」（道路・橋りょう・公園・下水道などの社会基盤となる施設）、「企業会計資産」（上水道）、「その他の資産」（土地・物品・債権・基金など）があります。

本白書では、公共施設（公共建築物）を対象としています。

図 3-1-1 公共施設白書に掲載する市有財産の条件



## (2) 白書対象の公共施設

本白書で扱う公共施設は、203 施設（延床面積 400,093.39 m<sup>2</sup>）です。

ただし、同一の建物内に複数の異なる機能がある施設（複合施設）は、それぞれの機能を個別の対象施設として扱っています。

表 3-1-1 公共施設白書に掲載する施設（平成 27 年 3 月 31 日現在）

大分類	施設数	構成比	延床面積	構成比	中分類	小分類	施設数	構成比	延床面積	構成比	
市民文化・社会教育施設	40件	19.7%	40,040.87m <sup>2</sup>	9.9%	集会施設	地区公民館	11件	5.4%	7,103.68m <sup>2</sup>	1.8%	
						中央公民館	2件	1.0%	4,576.16m <sup>2</sup>	1.1%	
						集会施設	10件	4.9%	866.50m <sup>2</sup>	0.2%	
					社会福祉施設	コミュニティセンター	2件	1.0%	1,707.29m <sup>2</sup>	0.4%	
						文化施設	文化ホール	1件	0.5%	14,856.74m <sup>2</sup>	3.7%
						図書館	図書館	1件	0.5%	2,436.00m <sup>2</sup>	0.6%
						博物館・文化財施設	博物館等	3件	1.5%	6,404.55m <sup>2</sup>	1.6%
文化財施設	10件	4.9%	2,089.95m <sup>2</sup>	0.5%							
スポーツ施設	5件	2.5%	11,511.73m <sup>2</sup>	2.9%	スポーツ施設	体育館	5件	2.5%	11,511.73m <sup>2</sup>	2.9%	
観光施設	6件	3.0%	1,317.10m <sup>2</sup>	0.3%	観光案内所	観光案内所	1件	0.5%	854.40m <sup>2</sup>	0.2%	
						観光トイレ	観光トイレ	5件	2.5%	462.70m <sup>2</sup>	0.1%
学校教育施設	43件	21.1%	174,348.33m <sup>2</sup>	43.6%	学校	小学校	16件	7.9%	98,970.20m <sup>2</sup>	24.7%	
						中学校	7件	3.4%	70,925.00m <sup>2</sup>	17.7%	
					その他教育施設	給食室等	19件	9.3%	3,477.82m <sup>2</sup>	0.9%	
						子ども総合支援センター	1件	0.5%	975.31m <sup>2</sup>	0.3%	
子育て支援施設	43件	21.1%	24,425.47m <sup>2</sup>	6.2%	幼稚園・こども園	幼稚園	10件	4.9%	9,092.00m <sup>2</sup>	2.3%	
						こども園 ※1	10件	4.9%	10,407.48m <sup>2</sup>	2.6%	
					児童施設	児童館	3件	1.5%	1,581.91m <sup>2</sup>	0.4%	
						放課後児童健全育成施設	18件	8.8%	2,740.62m <sup>2</sup>	0.7%	
					子育て施設	子育て施設	2件	1.0%	603.46m <sup>2</sup>	0.2%	
保健・福祉施設	11件	5.5%	9,160.51m <sup>2</sup>	2.4%	高齢者福祉施設	デイサービス	3件	1.5%	1,466.71m <sup>2</sup>	0.4%	
						その他福祉施設	3件	1.5%	2,366.42m <sup>2</sup>	0.6%	
					障がい者福祉施設	障がい者福祉施設	1件	0.5%	158.26m <sup>2</sup>	0.1%	
					レクリエーション施設	レクリエーション施設	1件	0.5%	2,787.50m <sup>2</sup>	0.7%	
					保健施設	保健施設	1件	0.5%	1,662.63m <sup>2</sup>	0.4%	
						その他保健施設	2件	1.0%	718.99m <sup>2</sup>	0.2%	
行政施設	19件	9.4%	15,368.36m <sup>2</sup>	3.8%	庁舎等	庁舎等	4件	2.0%	12,522.59m <sup>2</sup>	3.1%	
						消防施設	消防施設	11件	5.4%	1,712.62m <sup>2</sup>	0.4%
						倉庫	倉庫	4件	2.0%	1,133.15m <sup>2</sup>	0.3%
市営住宅	10件	4.9%	57,388.36m <sup>2</sup>	14.3%	市営住宅	公営住宅	7件	3.4%	46,627.09m <sup>2</sup>	11.7%	
						改良住宅	3件	1.5%	10,761.27m <sup>2</sup>	2.6%	
環境施設	3件	1.5%	32,134.13m <sup>2</sup>	8.0%	環境施設	環境施設	3件	1.5%	32,134.13m <sup>2</sup>	8.0%	
その他施設	23件	11.3%	34,398.53m <sup>2</sup>	8.6%	駐車場・駐輪場	駐車場	3件	1.5%	22,091.34m <sup>2</sup>	5.5%	
						自転車駐車場	8件	3.9%	4,514.14m <sup>2</sup>	1.1%	
					斎場・墓園	斎場・墓園	4件	2.0%	5,001.03m <sup>2</sup>	1.3%	
					その他施設	その他施設	8件	3.9%	2,792.02m <sup>2</sup>	0.7%	
公共施設計	203件	100%	400,093.39m <sup>2</sup>	100%			203件	100%	400,093.39m <sup>2</sup>	100%	

※1：こども園には、保育所（5園）及び、保育所と一体的に運用している幼稚園（5園）を含む

### (3) 市民 1 人あたり公共施設延床面積の他都市比較

総務省「公共施設状況調」の平成 25 年度の値によると、本市の公共施設の延床面積は 404,741 m<sup>2</sup>（平成 26 年 3 月 31 日現在）となっています。

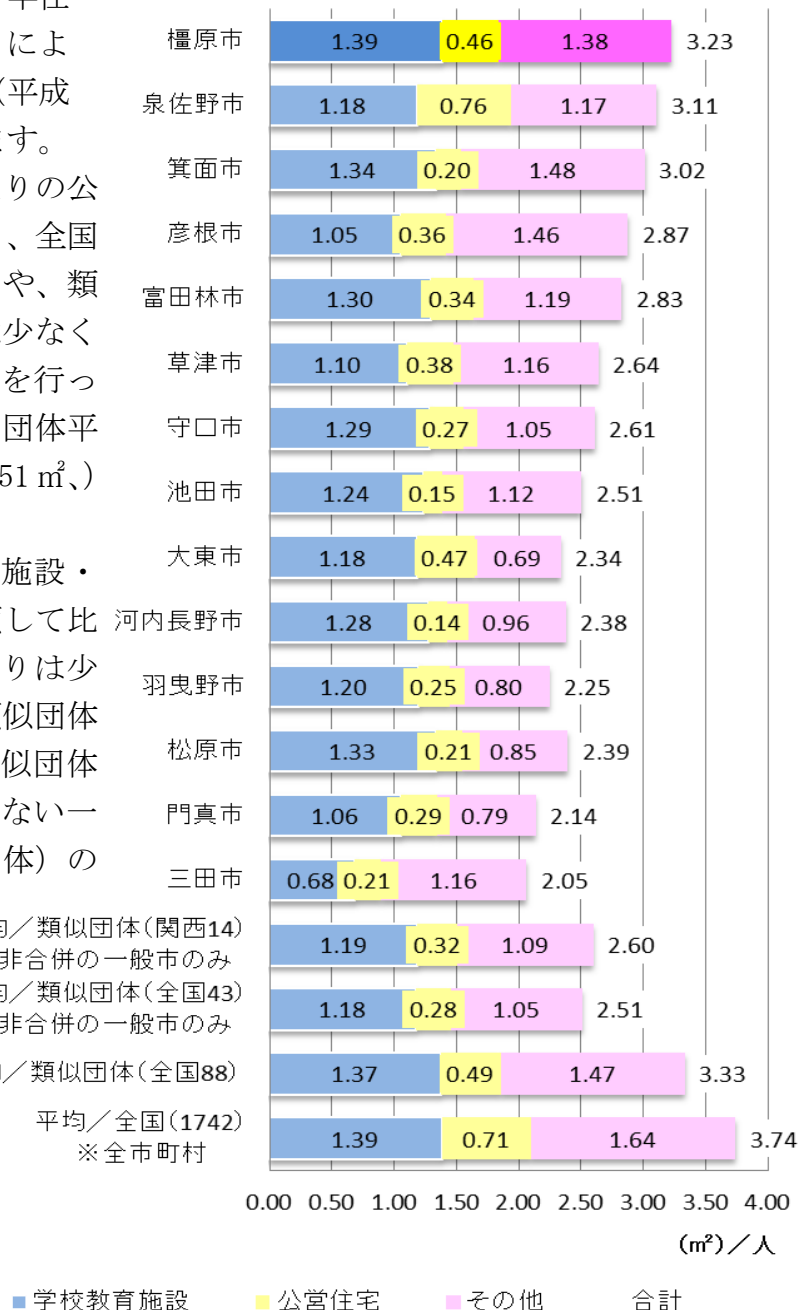
また、総務省「【総計】平成 26 年住民基本台帳人口（市区町村別）」によると、本市の人口は 125,288 人（平成 26 年 1 月 1 日現在）となっています。

よって、本市の市民 1 人あたりの公共施設延床面積は 3.23 m<sup>2</sup>となり、全国 1,742 自治体の平均（3.74 m<sup>2</sup>）や、類似団体の平均（3.33 m<sup>2</sup>）よりは少なくなっていますが、平成の大合併を行っていない類似団体平均（関西 14 団体平均 2.60 m<sup>2</sup>、全国 43 団体の平均 2.51 m<sup>2</sup>）と比べると多くなっています。

また、公共施設を、学校教育施設・公営住宅・その他の 3 つに分類して比較すると、いずれも全国平均よりは少なくなっていますが、全国 88 類似団体の平均とほぼ同程度であり、類似団体のうち平成の大合併を行っていない一般市（関西 14 団体、全国 88 団体）の平均より多くなっています。

平均／類似団体(関西14)  
※非合併の一般市のみ  
平均／類似団体(全国43)  
※非合併の一般市のみ  
平均／類似団体(全国88)  
平均／全国(1742)  
※全市町村

図 3-1-2 市民 1 人あたり公共施設延床面積の比較



※類似団体：類型「Ⅲ-1」（人口 10 万人以上 15 万人未満、産業構造Ⅱ次・Ⅲ次 95%未満かつⅢ次 55%以上）  
 ※延床面積は、総務省「公共施設状況調経年比較表 市町村経年比較表」の平成 25 年度の値  
 ※人口は、総務省「【総計】平成 26 年住民基本台帳年齢階級別人口（市区町村別）」による値（平成 26 年 1 月 1 日現在）

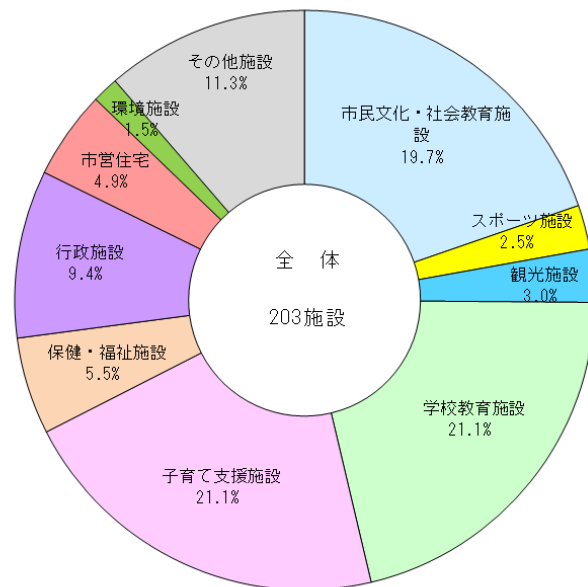
## 3-2 公共施設の概要

### (1) 施設大分類別の状況

#### ① 施設数

施設大分類別に施設数の構成比をみると、学校教育施設と子育て支援施設が21.1%（各43施設）と最も多く、次いで市民文化・社会教育施設が19.7%（40施設）となっています。

図 3-2-1 施設大分類別の施設数構成比

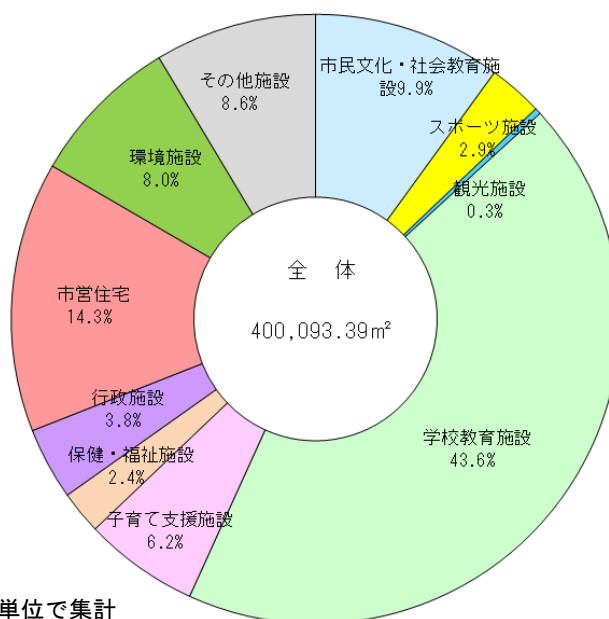


※施設単位で集計

#### ② 延床面積

施設大分類別に延床面積の構成比をみると、学校教育施設が43.6%（174,348.33㎡）で全体の約4割以上を占めており、次いで市営住宅が14.3%（57,388.36㎡）となっています。

図 3-2-2 施設大分類別の延床面積構成比

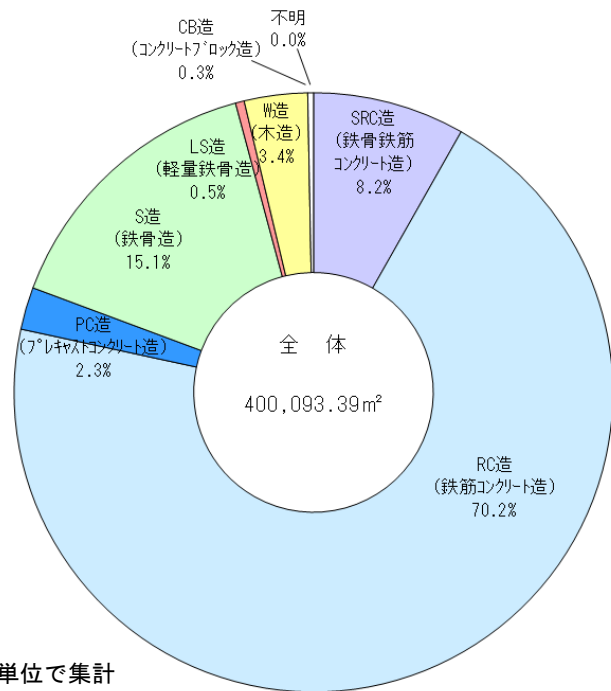


※施設単位で集計

### ③ 構造

構造別に延床面積の構成比をみると、鉄筋コンクリート造が70.2% (280,784.63 m<sup>2</sup>) と全体の2/3以上を占めており、次いで鉄骨造が15.1% (60,544.48 m<sup>2</sup>)、鉄骨鉄筋コンクリートが8.2% (約32,846.35 m<sup>2</sup>) となっています。

図 3-2-3 構造別の延床面積構成比

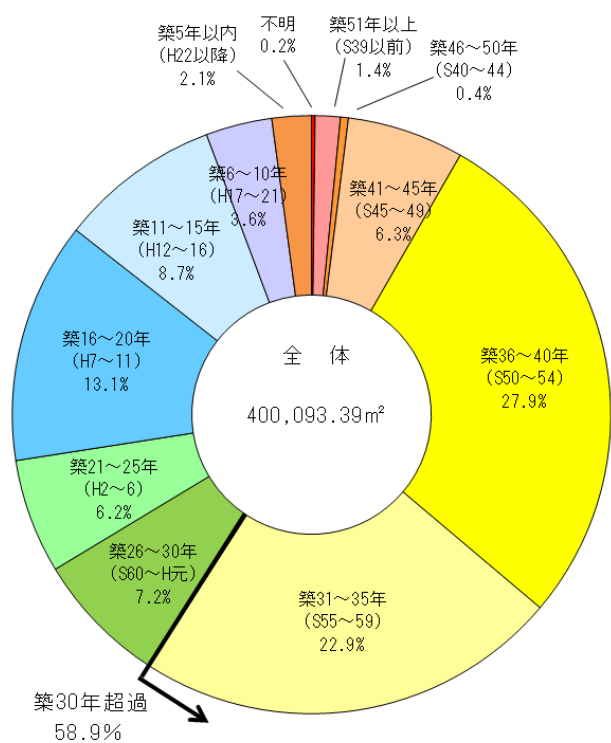


### ④ 築後年数

築後年数別に延床面積の構成比をみると、築36～40年が最も多く27.9% (111,578.93 m<sup>2</sup>) を占めており、次いで築31～35年が22.9% (91,802.36 m<sup>2</sup>)、築16～20年が13.1% (52,193.76 m<sup>2</sup>) となっています。

一般に築20～30年が経過すると大規模改修が必要とされますが、築30年を超過している施設が58.9% (235,750.72 m<sup>2</sup>) を占めています。

図 3-2-4 築後年数別の延床面積構成比







## 4 施設別の状況

### 4-1 各種指標等について

本章では、本市の公共施設について、前章で取りまとめた小分類に基づき、「概要」、「建物の状況」、「利用の状況」、「施設に関する総費用の状況」、比較可能な分類については「単位あたりのコストの状況」について整理しています。

#### 1) 概要について

当該分類に含まれる施設について、基礎情報（施設名、所在、建築年度、構造・階数、延床面積）及びコスト情報（維持管理にかかる経費、運営にかかる経費、人件費）、収入について一覧表で整理します。

複数の建物（棟）で一つの施設を構成している場合は、延床面積が最大の建物の建築年度、構造・階数を代表値としています（延床面積は全ての建物の合計面積です）。

収入については、使用料などを計上しています。

#### 2) 建物の状況について

建物の状況について、建築年度や耐震化の状況などで特徴的な点について整理します。

#### 3) 利用の状況について

施設の利用状況について、類似施設間で比較可能な項目を指標として設定します。

表 4-1-1 利用状況の主な指標

指標	説明
利用者数、利用台数、処理量など	各年度における利用数の総数 (1人が3回利用した場合は利用者数3)
在籍者（生徒、児童、園児）数、定員数	各々の基準日時点での在籍者数及び定員数
貸出冊数	図書資料及び視聴覚資料の貸出延べ件数 (1人が一度に図書を3冊借りた場合は3冊として計算)
稼働率 (利用コマ数、 利用可能コマ数)	利用可能なコマ数に対する実際の利用コマ数の割合 ※貸室が3室あり午前と午後の2区分で予約可能であれば、1日あたりの利用可能コマ数は6コマ。 ※利用コマ数は、主催事業の開催状況やサークルや個別活動が実際に利用した数（午前と午後で利用予約可能な貸室を1団体が終日利用した場合は2コマ）。

## 4) 施設に関する総費用の状況について

平成25年度決算額に基づき、当該施設に関わる費用について、「維持管理にかかる経費」と「運営にかかる経費」、「人件費」の3種類に区分し、整理します。グラフ化においては、経費の内訳がわかるように整理します。また、現状のそれぞれの考え方と具体的な費用項目は下表のとおりです。

表 4-1-2 施設に関する費用に計上する費用

区分	項目	説明	備考	
コスト情報	維持管理にかかる経費	光熱水費	電気料金、ガス料金、水道料金	概要の表では合計値、グラフでは内訳を記載しています
		修繕費	施設の維持補修のために執行したもの	
		維持管理に関する委託料	建物管理業務、清掃業務、各種設備保守点検業務など	
		その他	燃料費、使用料・賃借料（下水道使用料、土地借上料など）、保険料、維持管理にかかる消耗品費、手数料など	
	運営にかかる経費	運営にかかる委託料等	警備業務、受付業務、指定管理業務、運営補助金など	表・グラフでは合計値で記載しています
		その他	備品・消耗品・使用料など	
	人件費		当該施設を管理している人数×職員（市職員・臨時職員など）の平均給与で算出	表・グラフでは合計値で記載しています

※ 施設自体を維持するための経費は「維持管理にかかる経費」、施設としての機能を維持するための費用は「運営にかかる経費」、施設を維持するための職員の費用である「人件費」に区分けしています。

例えば、本庁舎の場合、「維持管理にかかる経費」は光熱水費、修繕費、清掃業務などが該当し、「運営にかかる経費」には警備業務・受付業務などが該当し、本庁舎内での各課の事業といった純粋な事業運営費については対象外ですが、不可分な施設については運営にかかる経費も対象とします。

※ 指定管理施設、補助金での運営施設については、市の支出・収入という視点で整理しているため、指定管理料や運営補助金、市が直接実施している修繕などに限定して整理しています。また、指定管理業者などが得た使用料などの収入などは計上されていません。

※ 大規模改修・耐震化工事・長寿命化工事などの一時的な工事費用は白書からは除いています。

## 5) 単位あたりのコストの状況について

各施設の延床面積や利用状況の指標などを活用し、比較可能な分類について各施設の単位あたりのコストを下記のとおり円単位で計算し、グラフ化します。

なお、端数処理の関係で、図表の数値は個々の数値の計算結果と一致していません。

表 4-1-3 単位あたりのコストの考え方

単位あたりのコスト	説明
延床面積 1 m <sup>2</sup> あたり	施設に関する総費用を該当施設の延床面積で除した値
利用数 1 単位あたり	施設に関する総費用を利用数（利用者数など）で除した値

## 4-2 施設別の状況について

### (1) 市民文化・社会教育施設

#### 1) 集会施設（地区公民館）

##### ① 概要

本市では、集会施設（地区公民館）を11箇所に設置しており、それぞれ指定管理者によって運営されています。

集会施設（地区公民館）では、地区住民を対象に、実生活に即した教育・学術及び文化に関する各種事業を行っており、住民の教養の向上・健康の増進・情操の純化を図り、生活文化の振興・社会福祉の増進に寄与しています。

また、災害時の避難場所に指定されています。



< 白檀地区公民館 >

表 4-2-1 集会施設（地区公民館）の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
1	香久山地区公民館	膳夫町477	1981	RC3	549.82	128	264	0	0
2	八木地区公民館	北八木町2-1-6	1982	RC2	461.06	118	331	0	0
3	今井地区公民館	今井町2-3-23	1982	RC2	646.44	152	227	0	0
4	新沢地区公民館	川西町612	1984	RC2	584.34	150	218	0	0
5	耳成地区公民館	葛本町593	1984	RC2	773.61	203	236	0	0
6	畝傍地区公民館	見瀬町202-1	1985	RC2	582.17	210	234	0	0
7	金橋地区公民館	雲梯町927	1985	RC2	709.61	235	236	0	0
8	白檀地区公民館	白檀町2-32-11	1978	RC2	1,125.00	344	265	0	0
9	真菅地区公民館	曾我町1281-18	1997	RC2	753.77	668	236	0	0
10	鴨公地区公民館	醍醐町42-2	2000	RC2	419.99	216	245	0	0
11	多地区公民館	新口町244-2	2006	RC1	497.87	144	236	0	0

##### ② 建物の状況

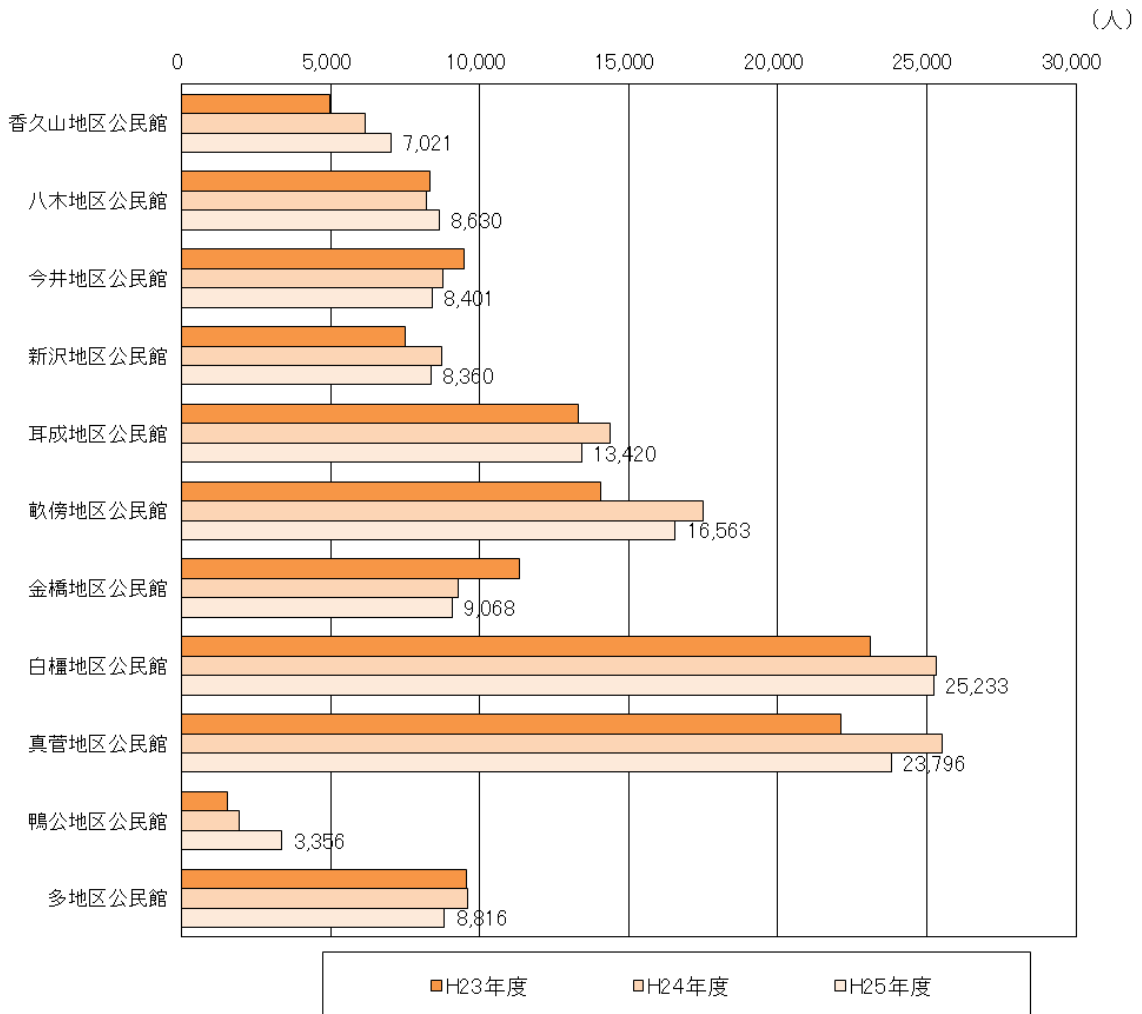
延床面積をみると、白檀地区公民館が1,125 m<sup>2</sup>でやや大きくなっていますが、他の施設では約400~800 m<sup>2</sup>となっています。老朽化している施設については施設の長寿命化の検討がなされています。

### ③ 利用の状況

平成 25 年度の利用者数をみると、白樫地区公民館が 25,233 人と多く、次いで真菅地区公民館 23,796 人、畝傍地区公民館 16,563 人、耳成地区公民館 13,420 人となっています。一方で、鴨公地区公民館は 3,356 人と最も少なくなっています。

平成 23 年度からの推移をみると、香久山地区、新沢地区、畝傍地区、白樫地区、真菅地区、鴨公地区では増加傾向がみられます。

図 4-2-1 利用者数の推移



平成 25 年度の貸室の稼働率をみると、施設によってばらつきがみられますが、講堂・大会議室などでは平均 30.0%、実習室・和室などでは平均 10.0%となっています。

図 4-2-2 貸室（講堂・大会議室など）の稼働率の推移

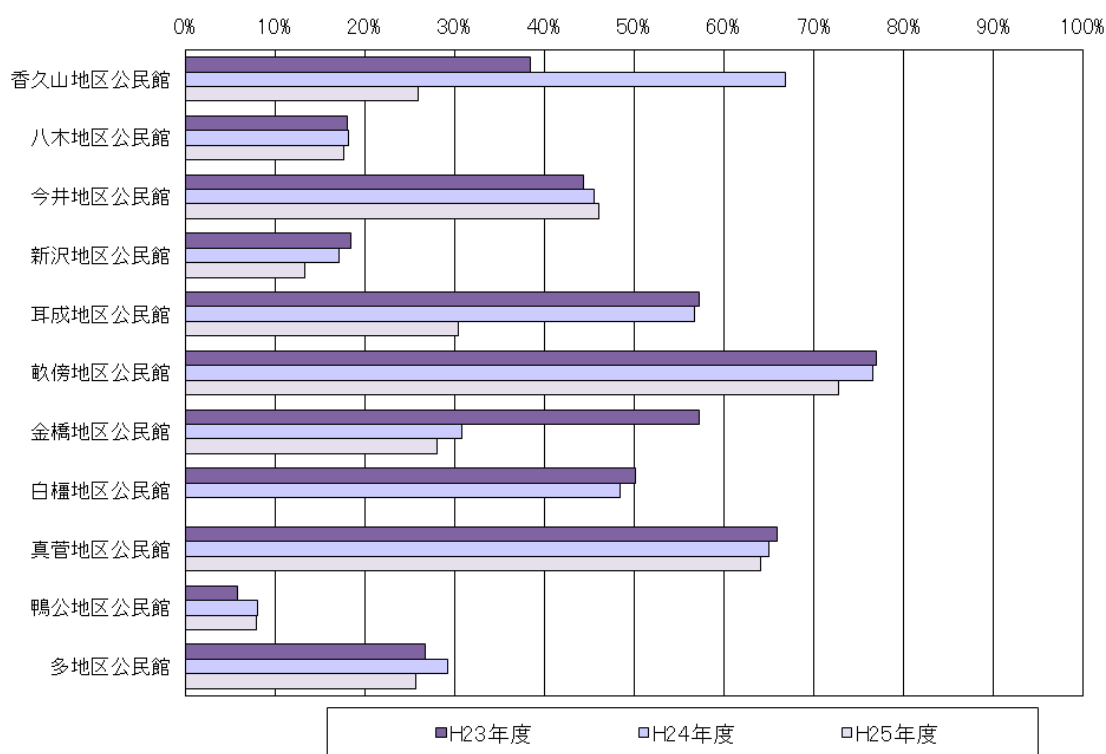
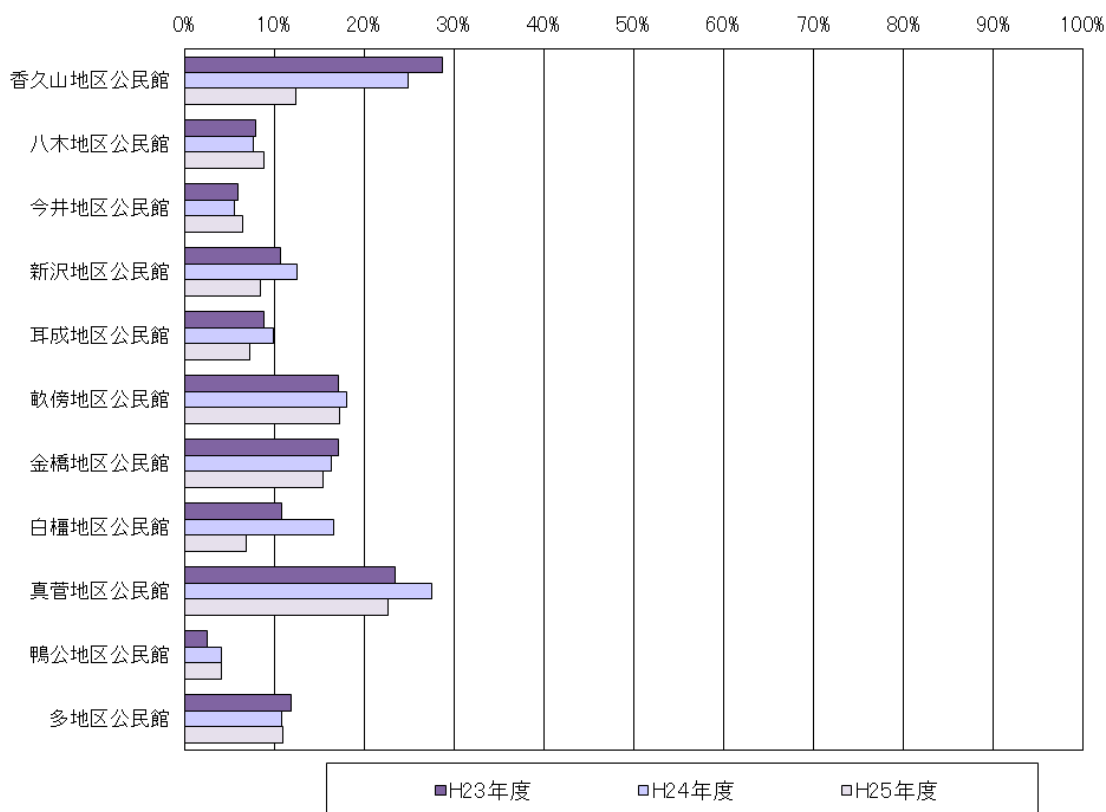


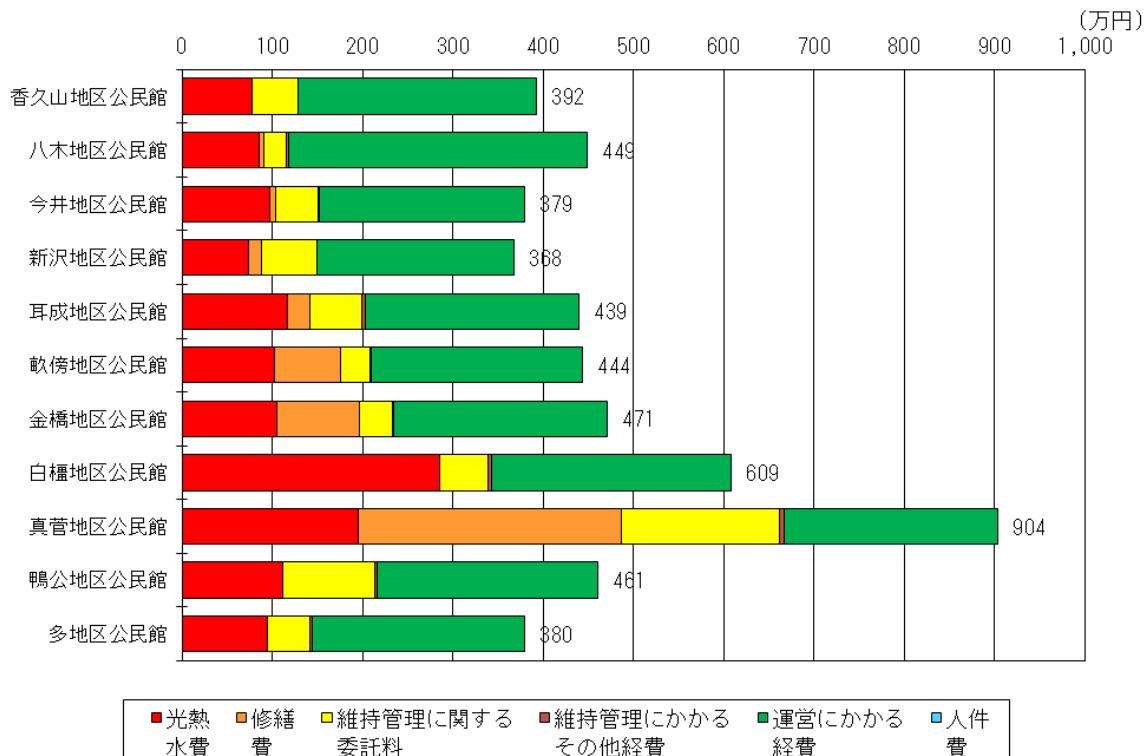
図 4-2-3 貸室（実習室、和室など）の稼働率の推移



#### ④ 施設に関する総費用の状況

平成 25 年度における施設に関する費用をみると、一時的な修繕費用が発生した真菅地区公民館が 904 万円と最も高くなっていますが、他の施設では概ね 400 万円から 600 万円の範囲となっています。

図 4-2-4 施設に関する費用と内訳（平成 25 年度）



## ⑤ 単位あたりのコストの状況

平成 25 年度の施設管理コストを延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりで見ると、全施設の平均では 7,458 円となっていますが、最も高い真菅地区公民館 (11,990 円) は、最も低い白檀地区公民館 (5,412 円) の約 2.2 倍となっています。

利用者 1 人あたりで見ると、全施設の平均では 399 円となっていますが、平成 25 年度の利用者数が最も多い白檀地区公民館で 241 円と最も低く、利用者数が最も少ない鴨公地区公民館で 1,373 円と最も高くなっており、その差は約 5.7 倍と、施設によって大きく差がみられます。

図 4-2-5 延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの施設管理コスト (平成 25 年度)

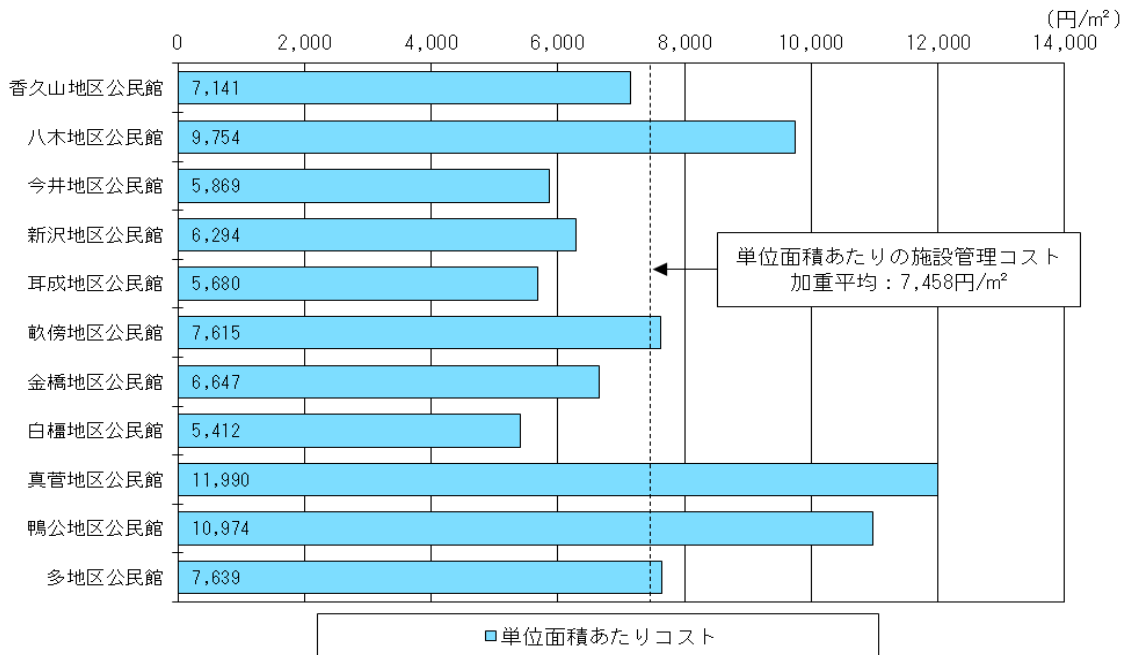
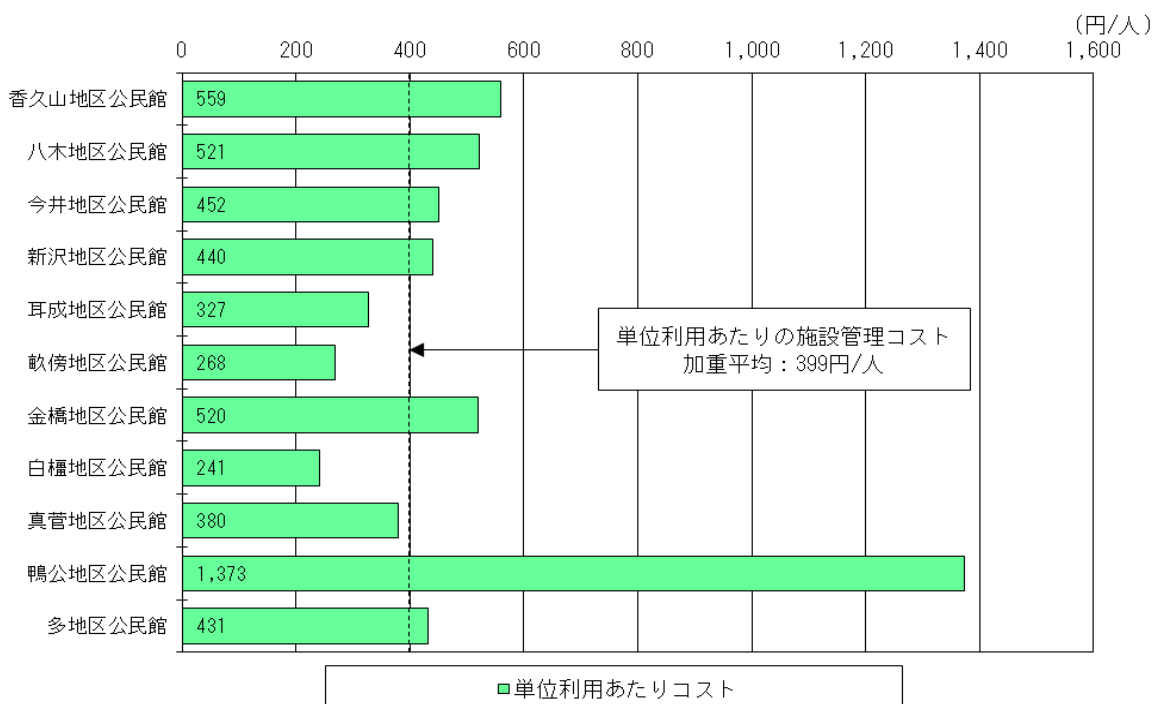


図 4-2-6 利用者 1 人あたりの施設管理コスト (平成 25 年度)





## 2) 集会施設（中央公民館）

### ① 概要

本市では、集会施設（中央公民館）として、中央公民館と中央公民館分館の2箇所を設置しています。

中央公民館は、地区公民館同様に、市民の教養の向上、健康の増進・情操の純化を図り、生活文化の振興・社会福祉の増進に寄与するため、教育・学術及び文化に関する各種の事業を行っています。

また、災害時の避難場所に指定されています。



＜ 中央公民館 ＞

表 4-2-2 集会施設（中央公民館）の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
12	中央公民館	小房町11-1	1971	RC3	2,735.88	925	96	540	378
13	中央公民館分館	小房町11-4	1979	RC4	1,840.28	1,340	96	540	332

### ② 建物の状況

昭和46年度建築の中央公民館、昭和54年度建築の中央公民館分館とも、耐震診断の結果、耐震性が確保されていません。また、施設の老朽化も進んでいます。

### ③ 利用の状況

平成 25 年度の利用件数をみると、中央公民館で 3,726 件、中央公民館分館で 5,373 件となっています。

平成 23 年度からの推移をみると、両施設とも増加傾向がみられます。

平成 25 年度の貸室の稼働率をみると、講堂・大会議室などでは平均 49.8%、集会室などでは平均 21.3%となっています。

図 4-2-7 利用件数の推移

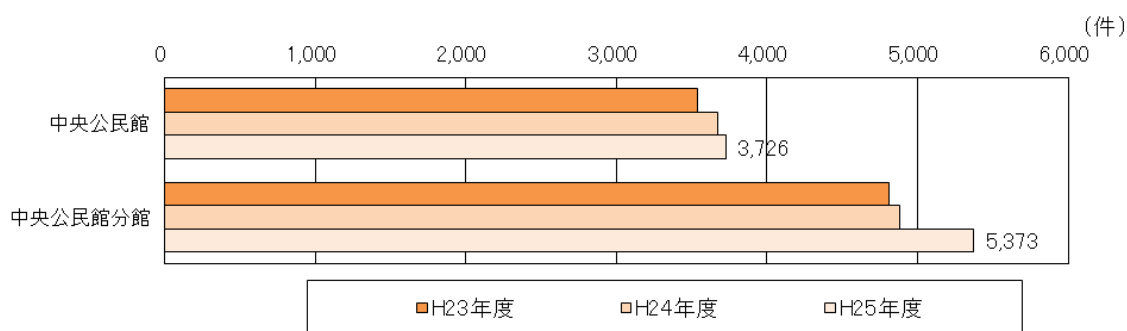


図 4-2-8 貸室（講堂・大会議室など）の稼働率の推移

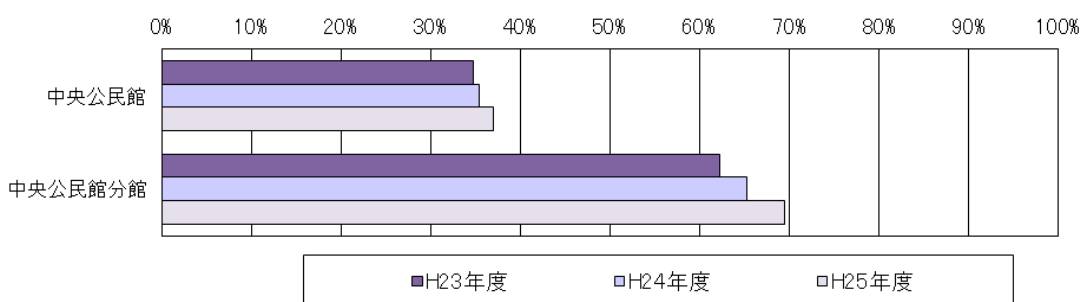
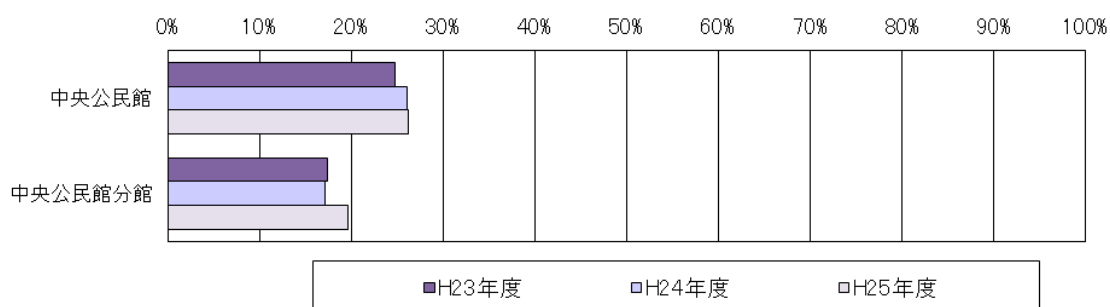


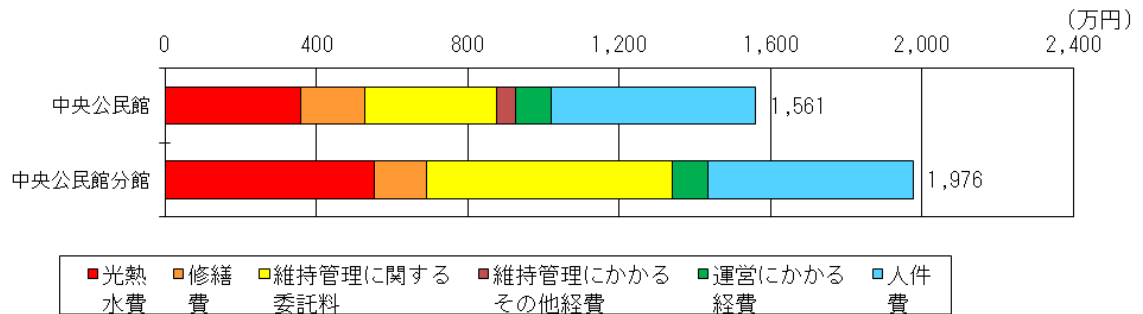
図 4-2-9 貸室（集会室など）の稼働率の推移



#### ④ 施設に関する総費用の状況

平成 25 年度における施設に関する費用をみると、いずれの施設も概ね 1,500 万円から 2,000 万円の範囲となっています。

図 4-2-10 施設に関する費用と内訳（平成 25 年度）



#### ⑤ 単位あたりのコストの状況

平成 25 年度の施設管理コストを延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりでみると、平均は 7,731 円となっており、中央公民館分館（10,737 円）は、中央公民館（5,708 円）の約 1.9 倍となっています。利用件数 1 件あたりでみると、平均は 3,888 円となっており、差はみられません。

図 4-2-11 延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）

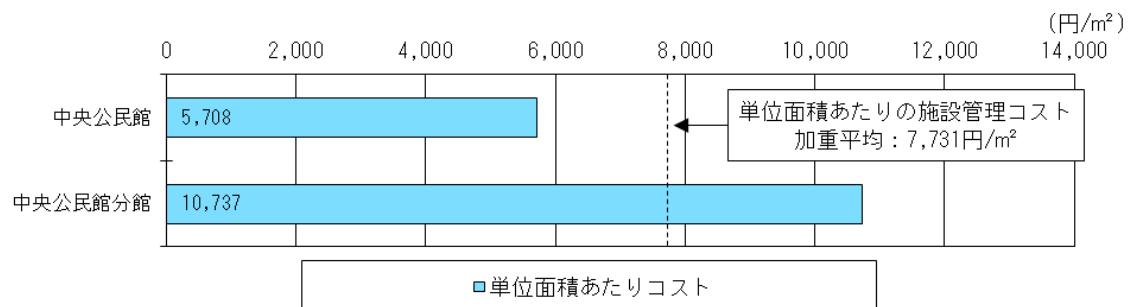
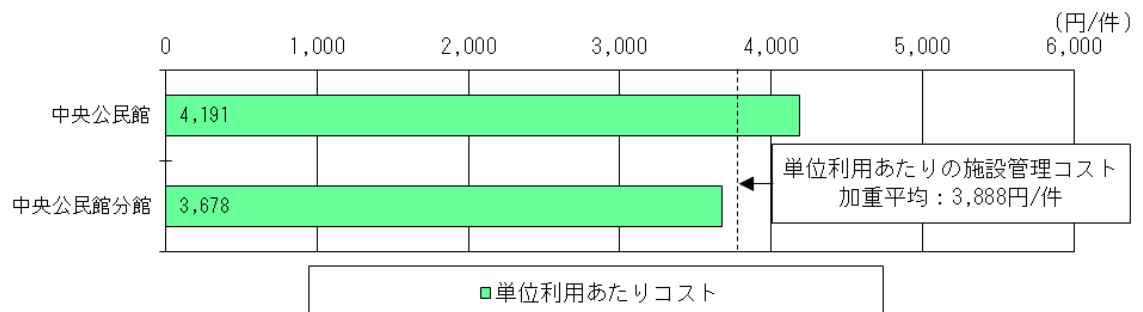


図 4-2-12 利用件数 1 件あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）



### 3) 集会施設

#### ① 概要

本市では、集会施設を9箇所に設置しています。  
公営住宅などの整備に伴い、地域の集会の場として整備されています。

なお、管理・運営については、地元が行っています。ただし、旧大久保地区事務所については、平成26年5月より市が管理しています。



< 大久保第2集会所 >

表 4-2-3 集会施設の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
14	四分集会所	四分町291	1993	W1	69.56	6	0	0	0
15	朱雀会館	上飛驒町153-6	1986	RC1	114.10	16	0	0	0
16	薬師寺会館	城殿町53-12	1997	RC1	83.60	5	0	0	0
17	大久保第1集会所	四条町241-1	1980	PC1	77.19	3	0	0	0
18	大久保第2集会所	四条町10-1	1983	RC1	112.00	3	0	0	0
19	大久保第3集会所	四条町256-1	1989	RC1	65.66	4	0	0	0
20	生國魂会館	大久保町31-56	1994	W1	76.08	3	0	0	0
21	大久保第4集会所	大久保町3-1	1997	RC1	68.05	3	0	0	0
22	飛驒地区事務所	飛驒町75-4	1986	RC2	124.80	10	0	0	0
23	旧大久保地区事務所	大久保町20-1	1976	PC1	75.46	1	0	0	0

#### ② 建物の状況

延床面積をみると概ね100 m<sup>2</sup>程度で、多くが平屋建てです。

旧大久保地区事務所が築38年で最も古く、次いで大久保第一集会所で築34年となっています。

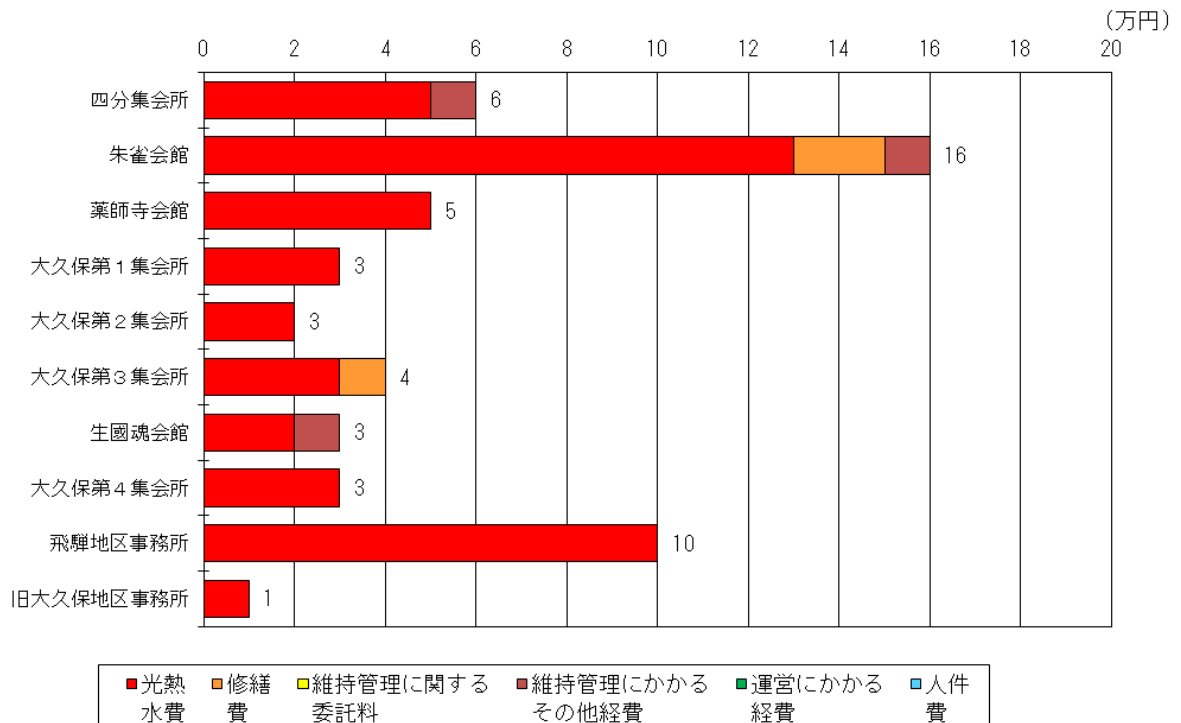
#### ③ 利用の状況

利用状況は把握していません。

#### ④ 施設に関する総費用の状況

平成 25 年度における施設に関する費用をみると、朱雀会館と飛騨地区事務所を除いて概ね 2 万円から 6 万円の範囲となっており、光熱水費などの維持管理費用が費用全体のほとんどを占めています。

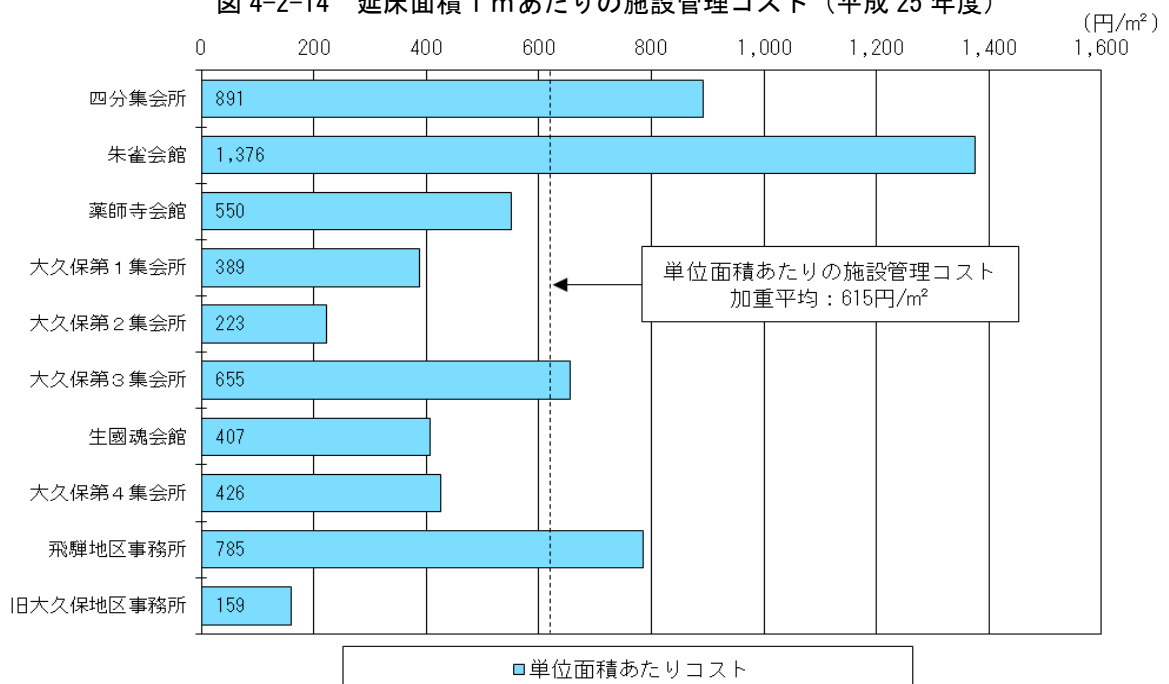
図 4-2-13 施設に関する費用と内訳（平成 25 年度）



#### ⑤ 単位あたりのコストの状況

平成 25 年度の施設管理コストを延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりでみると、全施設の平均では 615 円となっていますが、最も高い朱雀会館 (1,376 円) は、最も低い旧大久保地区事務所 (159 円) の約 8.7 倍となっています。

図 4-2-14 延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）



## 4) 社会福祉施設（コミュニティセンター）

### ① 概要

本市では、社会福祉施設（コミュニティセンター）として、ふれあいセンターふじわらと大久保ふれあいセンターの2箇所に設置しています。

基本的人権の尊重と社会福祉の精神に基づき、人権啓発と福祉の向上のための住民交流の拠点として設置しています。

両施設とも災害時の避難場所に指定されています。



< ふれあいセンターふじわら >

表 4-2-4 社会福祉施設（コミュニティセンター）の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
24	ふれあいセンターふじわら	飛騨町94-2	1980	RC2	883.38	163	48	157	0
25	大久保ふれあいセンター	大久保町15-1	1973	RC2	823.91	161	84	429	0

### ② 建物の状況

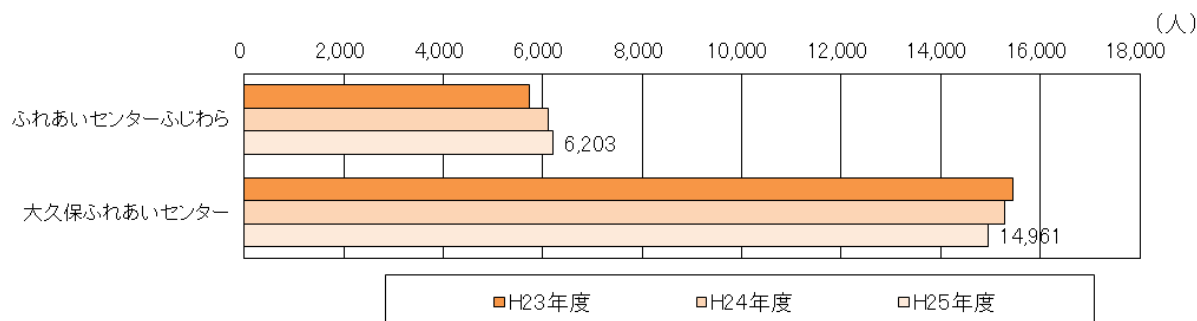
両施設とも、平成 27 年度中の耐震診断の実施を予定しています。

### ③ 利用の状況

平成 25 年度の利用者数をみると、ふれあいセンターふじわらで 6,203 人、大久保ふれあいセンターで 14,961 人となっています。

平成 23 年度からの推移をみると、ふれあいセンターふじわらは増加傾向、大久保ふれあいセンターでは減少傾向となっています。

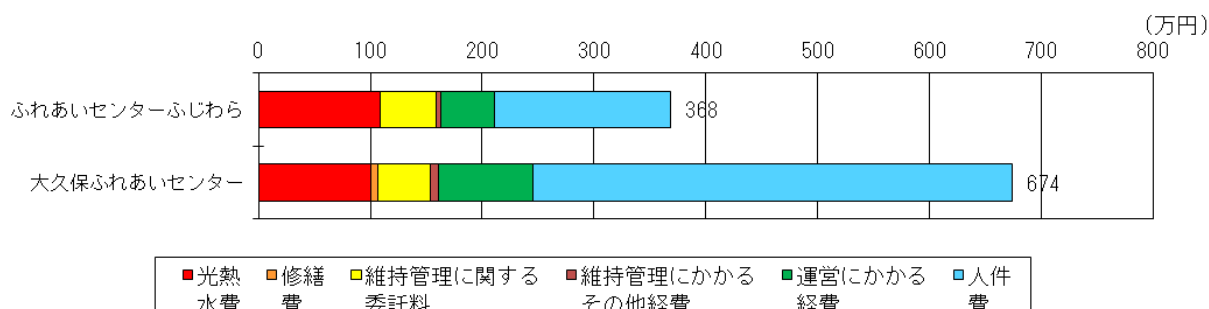
図 4-2-15 利用者数の推移



#### ④ 施設に関する総費用の状況

平成 25 年度における施設に関する費用をみると、大久保ふれあいセンター（674 万円）は、ふれあいセンターふじわら（368 万円）の約 1.8 倍となっています。また、いずれの施設も施設管理の人件費が多くを占めていますが、ふれあいセンターふじわらは児童館との複合施設になっているため、費用が按分された結果安くなっています。

図 4-2-16 施設に関する費用と内訳（平成 25 年度）



#### ⑤ 単位あたりのコストの状況

平成 25 年度の施設管理コストを延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりでみると、平均では 6,090 円となっており、大久保ふれあいセンターで 8,164 円、ふれあいセンターふじわらで 4,156 円と、大久保ふれあいセンターが約 2.0 倍となっています。

利用者 1 人あたりでみると、平均では 491 円となっていますが、ふれあいセンターふじわら（592 円）は、大久保ふれあいセンター（450 円）の約 1.3 倍となっています。

図 4-2-17 延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）

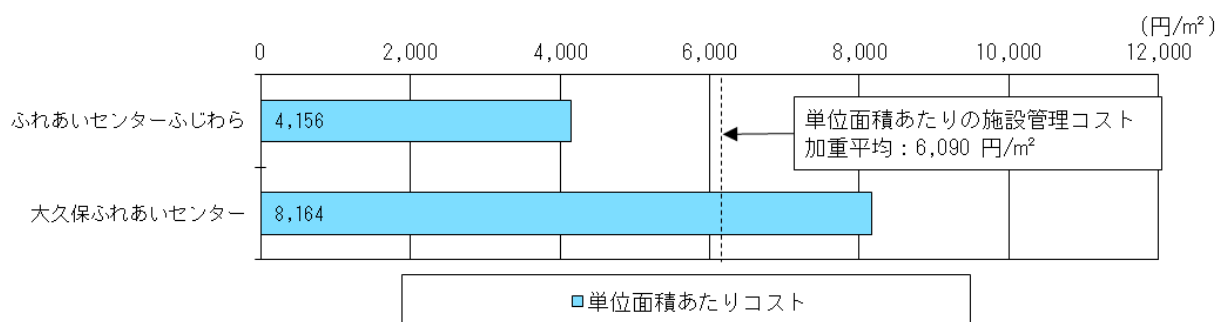
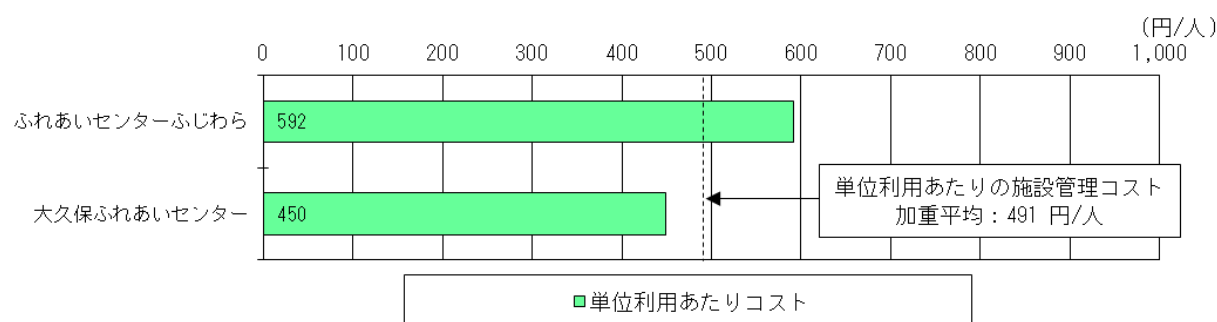


図 4-2-18 利用者 1 人あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）



## 5) 文化施設（文化ホール）

### ① 概要

本市には、文化施設（文化ホール）を1箇所設置しています。

かしはら万葉ホールは、市民の交流の場及び市民の文化活動の場であり、芸術文化、科学及び情報の拠点として市民福祉の増進や豊かな地域社会づくりに寄与することを目的に、こども科学館や図書館、教育委員会事務所との複合施設として設置しています。



< かしはら万葉ホール >

表 4-2-5 文化施設（文化ホール）の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
26	かしはら万葉ホール(文化ホール)	小房町11-5	1995	SRC5	14,856.74	12,147	7,103	1,466	4,500

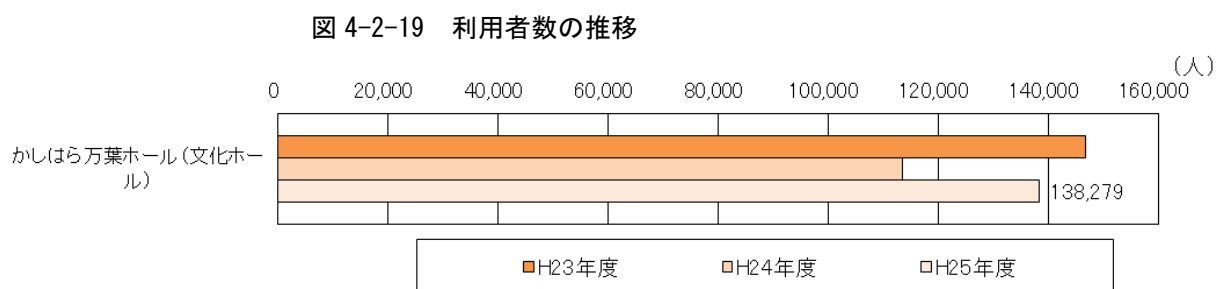
### ② 建物の状況

複合施設であるかしはら万葉ホールのうち、文化施設（文化ホール）部分の延床面積は14,856.74 m<sup>2</sup>です。

平成7年度の建築で耐震性は確保されているほか、建物全体でバリアフリー化もされています。

### ③ 利用の状況

平成25年度の利用者数を138,279人となっており、平成23年度からの推移をみると減少傾向がみられます。





平成 25 年度の主な貸室の稼働率をみると、ロマンピアホールでは 24.8%、レセプションホールでは 39.6%となっています。

図 4-2-20 貸室（ロマンピアホール）の稼働率の推移

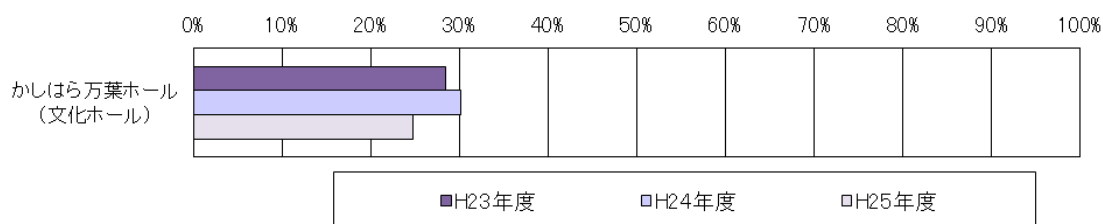
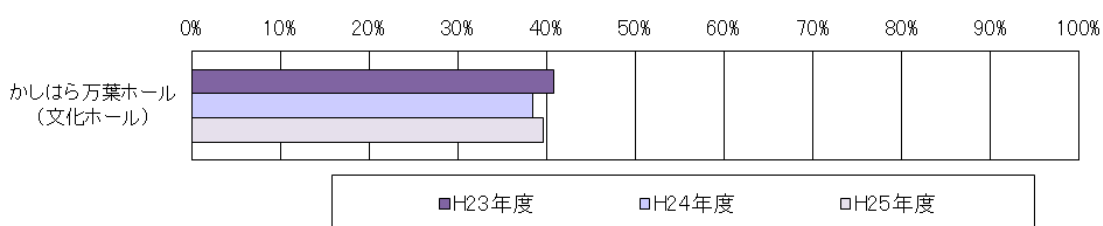


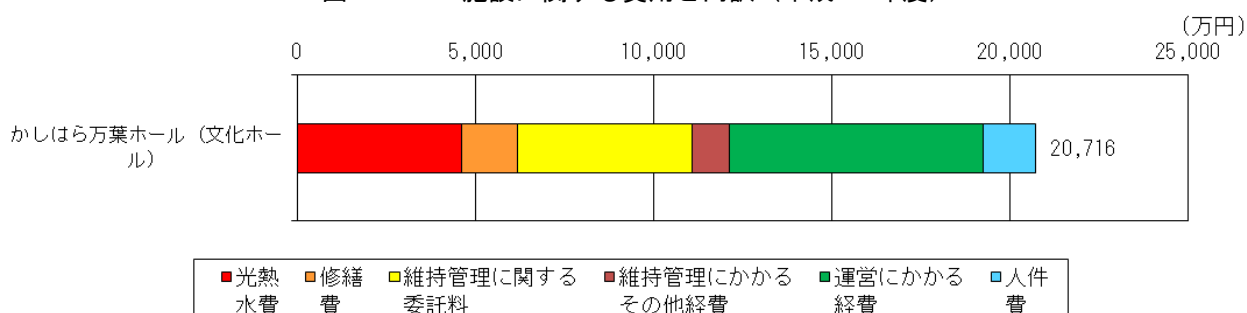
図 4-2-21 貸室（レセプションホール）の稼働率の推移



#### ④ 施設に関する総費用の状況

平成 25 年度における施設に関する費用をみると、運営にかかる経費が最も多くを占めており、次いで設備管理業務などの維持管理に関する委託料、光熱水費となっています。

図 4-2-22 施設に関する費用と内訳（平成 25 年度）



## ⑤ 単位あたりのコストの状況

平成 25 年度の施設管理コストを延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりで見ると、13,944 円となっています。利用者 1 人あたりで見ると、1,498 円となっています。

図 4-2-23 延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）

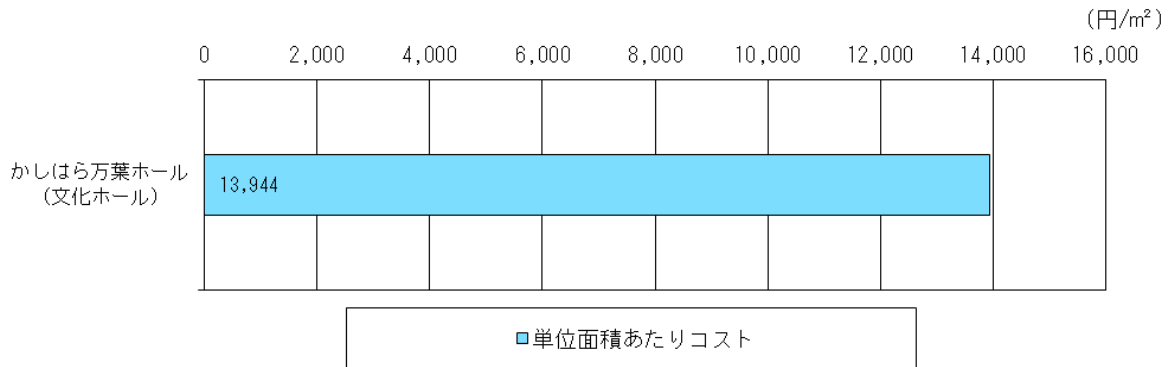
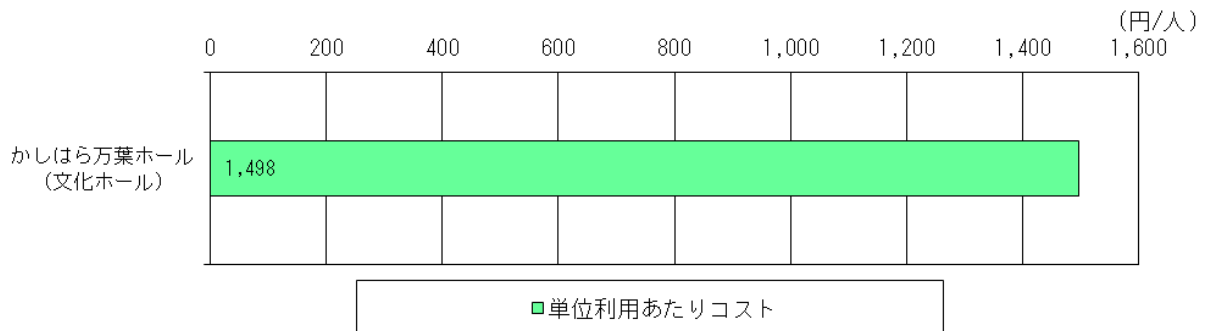


図 4-2-24 利用者 1 人あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）



## 6) 図書館

### ① 概要

本市では図書館を1箇所設置しており、文化ホールやこども科学館、教育委員会事務所との複合施設としてかしはら万葉ホール内にて運営しています。

平成25年度末時点の蔵書数は約30万8千冊となっています。



< 図書館 >

表 4-2-6 図書館の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
27	図書館	小房町11-5	1995	SRC5	2,436.00	1,985	4,083	0	17

### ② 建物の状況

複合施設であるかしはら万葉ホールのうち、図書館部分の延床面積は2,436 m<sup>2</sup>です。

平成7年度の建築で耐震性は確保されているほか、建物全体でバリアフリー化もされています。

### ③ 利用の状況

平成25年度の貸出者数をみると138,097人となっており、貸出冊数でみると471,725冊となっています。

平成23年度からの推移をみると、貸出者数、貸出冊数とも減少傾向がみられます。

図 4-2-25 貸出者数の推移

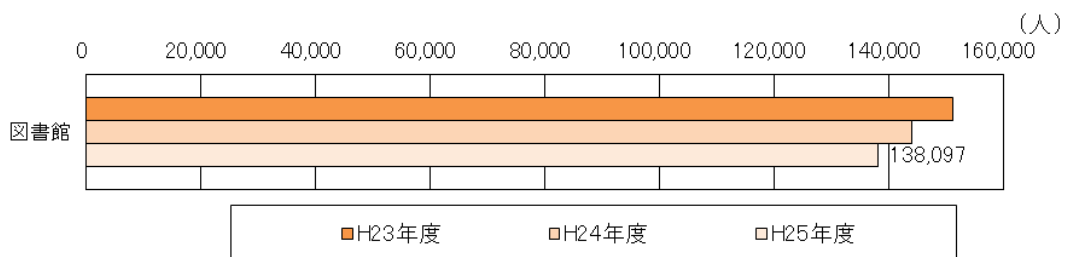
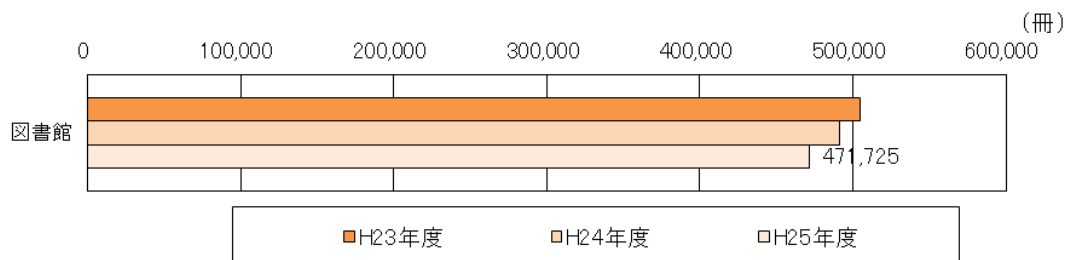


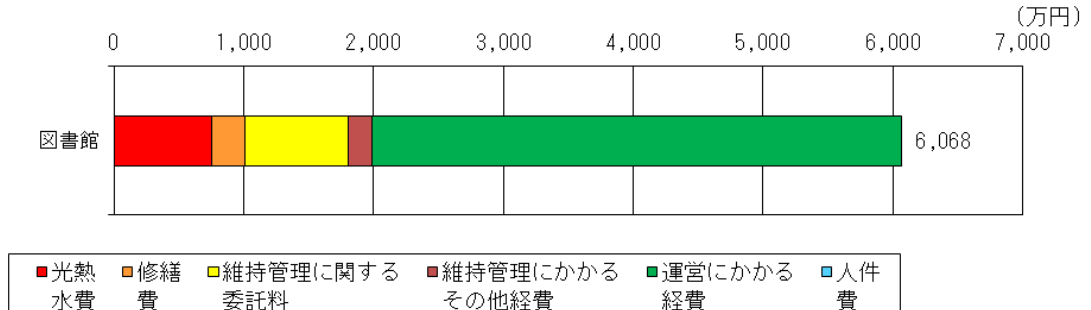
図 4-2-26 貸出冊数の推移



#### ④ 施設に関する総費用の状況

平成 25 年度における施設に関する費用をみると、受付業務や図書システムなど運営にかかる費用が最も多く、全体の約 7 割を占めています。

図 4-2-27 施設に関する費用と内訳（平成 25 年度）



#### ⑤ 単位あたりのコストの状況

平成 25 年度の施設管理コストを延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりで見ると、24,911 円となっています。貸出者数 1 人あたりで見ると、439 円となっています。

図 4-2-28 延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）

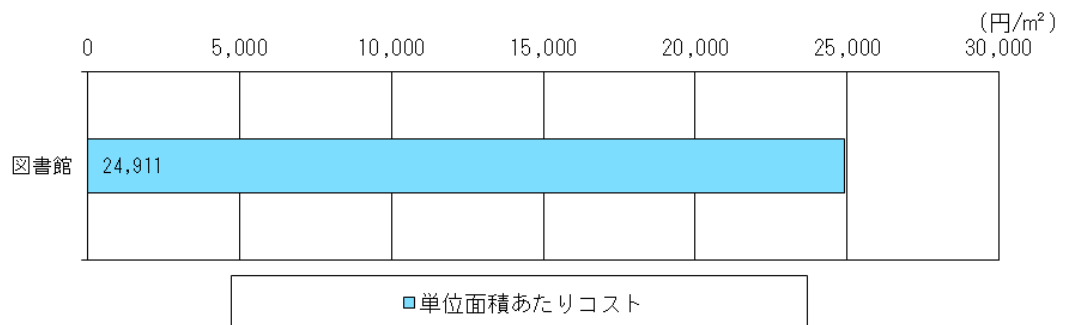
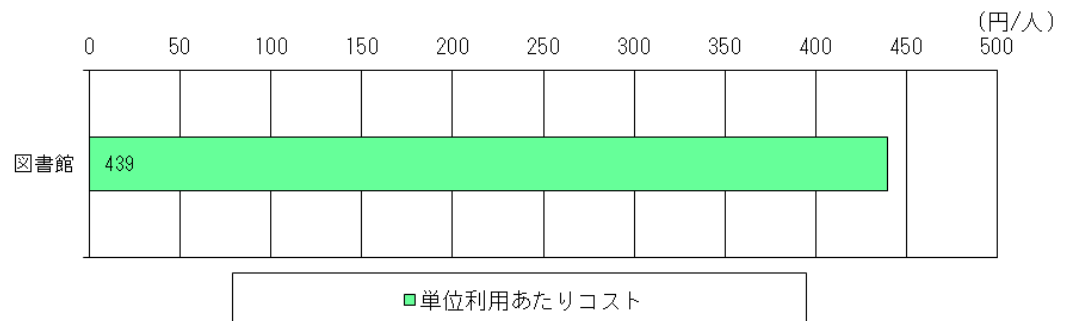


図 4-2-29 貸出者数 1 人あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）



## 7) 博物館等

### ① 概要

本市では、博物館等を3箇所設置しています。

こども科学館は、科学及び科学技術に関する知識の普及や啓発を図り、創造性豊かな子供を育成するため、文化ホールや図書館、教育委員会事務所との複合施設としてかしはら万葉ホール内に設置しています。

昆虫館は、自然史に関する資料の収集・保管・調査研究・展示などを行っており、子ども達が自然の生態を知り、命の大切さを学ぶための体験学習や研修、さらには生きものに関する情報の発信を行っています。

歴史に憩う橿原市博物館は、旧千塚資料館をリニューアルして平成26年度から供用開始され、市民の郷土に対する理解と知識を深めるために郷土の歴史資料の保存や展示などを行っています。



< 昆虫館 >

表 4-2-7 博物館等の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
28	こども科学館	小房町11-5	1995	SRC5	1,200.00	977	2,152	750	744
29	昆虫館	南山町624	1988	RC2	3,933.45	3,479	493	1,841	2,179
30	歴史に憩う橿原市博物館	川西町858-1	1977	RC2	1,271.10	0	0	0	0

### ② 建物の状況

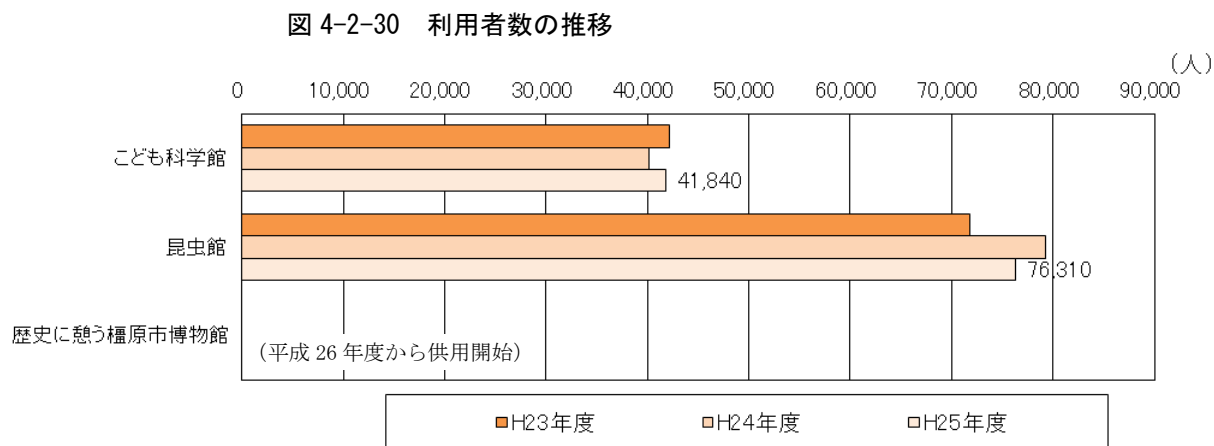
複合施設であるかしはら万葉ホールのうち、こども科学館部分の延床面積は約1,200 m<sup>2</sup>です。

歴史に憩う橿原市博物館は昭和56年以前の建築(旧耐震)ですが、大規模改修工事の際に耐震改修も実施し、耐震性は確保されています。

### ③ 利用の状況

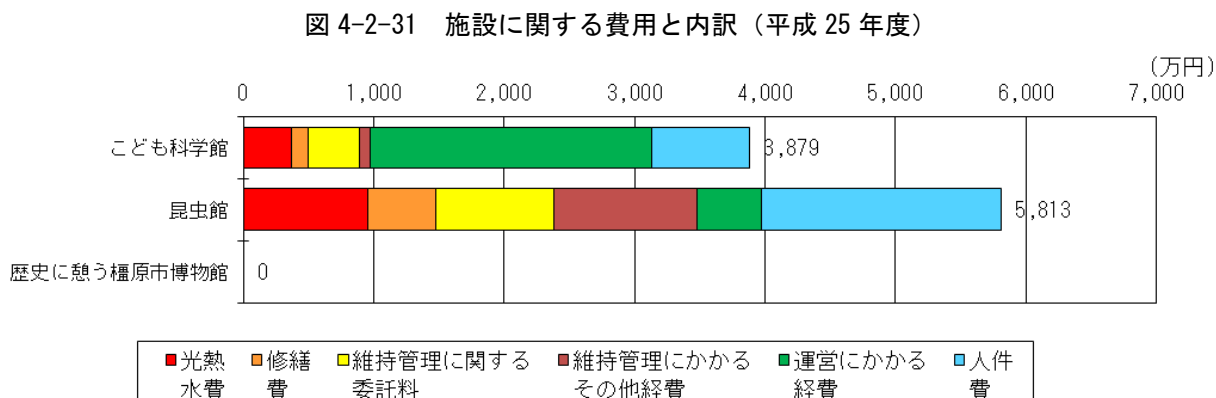
平成 25 年度の利用者数をみると、昆虫館が 7 万 6,310 人と多く、こども科学館が 4 万 1,840 人となっています。歴史に憩う榎原市博物館は平成 26 年度から供用開始された施設であるため、比較できるデータがありません。

平成 23 年度からの推移をみると、こども科学館は横ばい、昆虫館は増加傾向がみられます。



### ④ 施設に関する総費用の状況

平成 25 年度における施設に関する費用をみると、昆虫館では光熱水費や施設管理の人件費などが最も多くなっていますが、こども科学館では運營業務委託などの運営にかかる経費が多くを占めています。



## 8) 文化財施設

### ① 概要

本市では、文化財施設を 10 箇所所有しています。

八木札の辻交流館は、郷土に対する知識や誇りそして愛着を深める、また、地域のふれあいや賑わいを創出する拠点として、東の平田家（旧旅籠）を改修し、平成 24 年度に供用開始しています。

おおくぼまちづくり館は、大久保地区におけるまちづくりの歩みを伝え、地区の歴史を学び、ふれあいと豊かな地域社会づくりに寄与するため、資料の展示などを行っています。

今井まちなみ交流センターをはじめとする今井町の各施設は、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されている今井町に対する理解を深め、ふれあいと豊かな地域社会づくりに寄与するため、情報発信の拠点や住民のまちづくり活動の拠点となっています。



< 今井まちなみ交流センター「華葦」 >

表 4-2-8 文化財施設の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
31	八木札の辻交流館	北八木町2-160	不明	W2	349.51	124	230	136	7
32	今井まちなみ交流センター	今井町2-3-5	1903	W2	522.86	437	186	205	551
33	今井景観支援センター	今井町1-565	1857	W2	353.15	137	1	205	0
34	今井まちづくりセンター	今井町3-358-1	1801	W2	133.95	81	109	205	1
35	今井まちや館	今井町3-1-22	1801	W2	147.05	33	109	205	0
36	おおくぼまちづくり館	大久保町40-59	不明	W2	276.44	163	5	41	9
37	中町筋防災小屋	今井町1-11	1997	RC2	79.84	25	1	116	0
38	旧北町防災小屋	今井町4-3-16	1998	RC2	98.71	24	1	116	0
39	旧西町防災小屋	今井町3-304	2005	W2	89.64	2	1	116	0
40	南町生活広場	今井町3-336-8	2001	W1	38.80	25	1	116	0

### ② 建物の状況

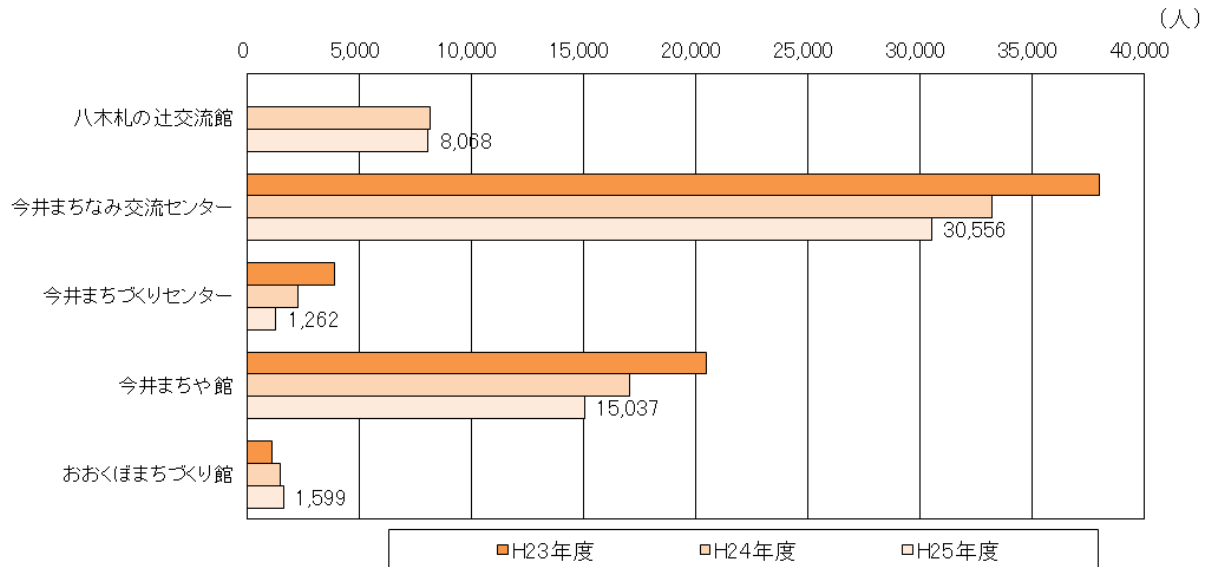
今井まちなみ交流センターは奈良県指定文化財、八木札の辻交流館は橿原市指定文化財に登録されています。また、今井景観支援センター、今井まちづくりセンター、今井まちや館は古い町家などの伝統的建造物を活用しています。

### ③ 利用の状況

平成 25 年度の利用者数をみると、今井まちなみ交流センターが 30,556 人となっており、次いで今井まちや館の 15,037 人となっています。今井景観支援センター、各防災小屋、南町生活広場については、無人解放のため利用状況は把握していません。

平成 23 年度からの推移をみると、おおくぼまちづくり館を除き、減少傾向がみられます。

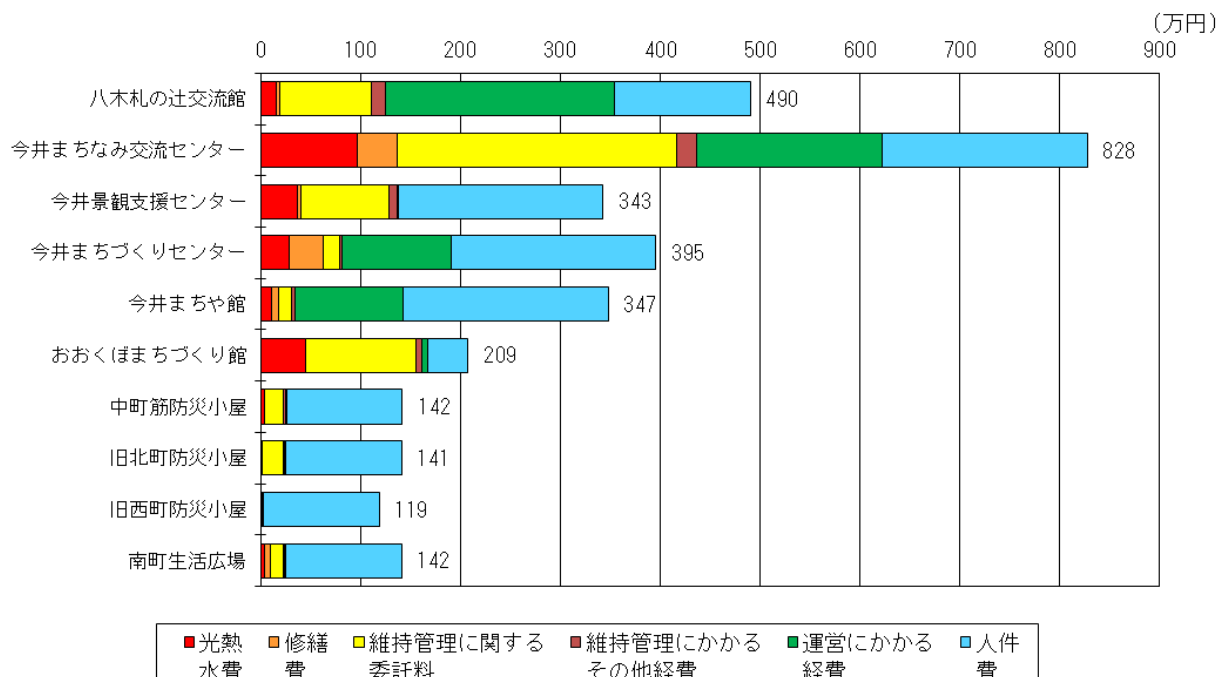
図 4-2-32 利用者数の推移



### ④ 施設に関する総費用の状況

平成 25 年度における施設に関する費用をみると、今井まちなみ交流センター（828 万円）が最も高く、旧西町防災小屋（119 万円）が最も低くなっています。

図 4-2-33 施設に関する費用と内訳（平成 25 年度）

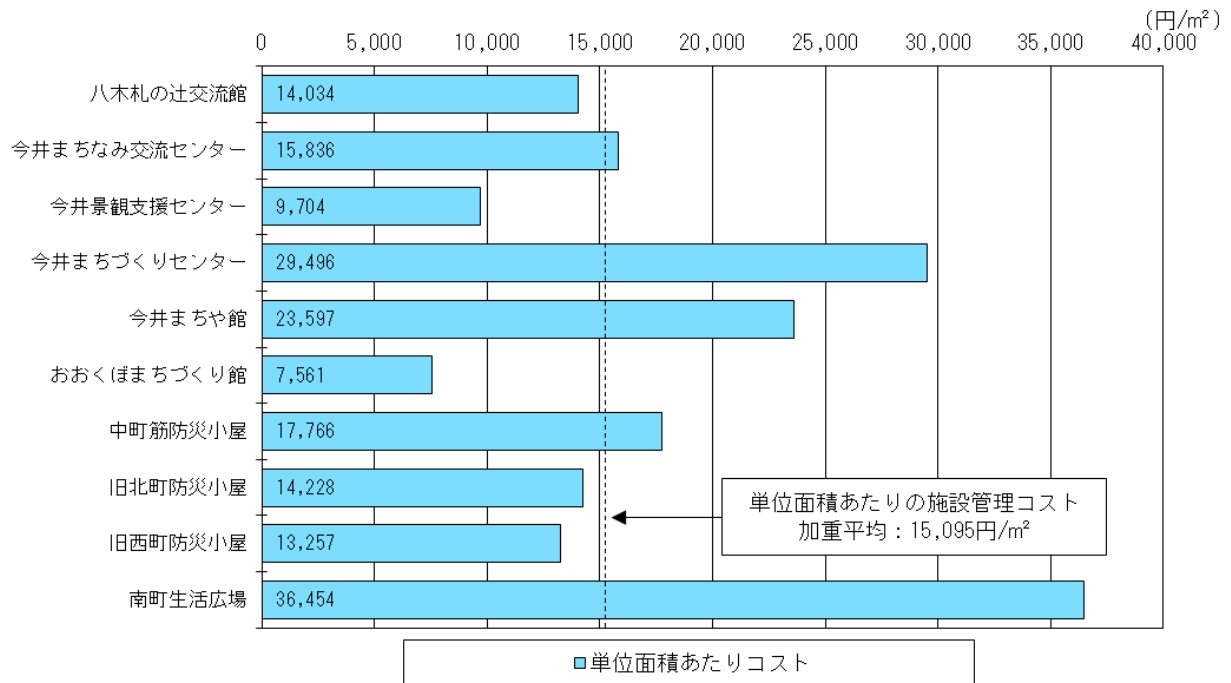




## ⑤ 単位あたりのコストの状況

平成 25 年度の施設管理コストを延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりで見ると、全施設の平均では 15,095 円となっており、施設の延床面積によって差がみられます。

図 4-2-34 延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）



## (2) スポーツ施設

### 1) 体育館

#### ① 概要

本市では、市民の体育、レクリエーション活動を促し、健康増進及び体力の維持向上に寄与するため、体育館を5箇所に設置しています。

香久山体育館と曾我川緑地体育館では通常のアリーナだけでなくスポーツジムが併設されており、指定管理者によって運営されています。

ひがしたけだドームでは、アリーナ内に人工芝が敷かれた室内球技場が設置されています。

ひがしたけだドームを除き、災害時の避難所に指定されています。



< 中央体育館 >

表 4-2-9 体育館の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
41	中央体育館	小房町11-1	1971	RC3	3,653.71	952	5	266	229
42	ひがしたけだドーム	東竹田町124-1	2009	S1	1,465.21	230	456	375	316
43	香久山体育館	南山町642	1992	RC2	2,745.37	1,008	3,141	0	0
44	曾我川緑地体育館	曾我町1212	2000	SRC2	3,038.85	163	3,512	0	0
45	飛驒体育館	飛驒町94-2	1980	S1	608.59	82	1	102	0

#### ② 建物の状況

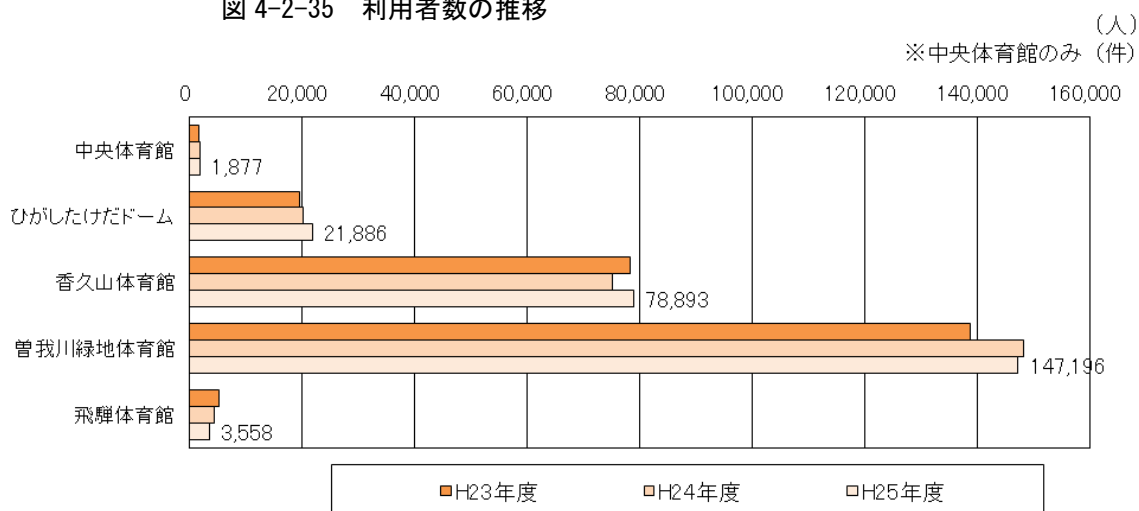
昭和46年度建築の中央体育館は、耐震改修工事により耐震性が確保されています。

昭和55年度建築の飛驒体育館については、平成27年度中の耐震診断の実施を予定しています。

### ③ 利用の状況

平成 25 年度の利用者数をみると、曾我川緑地体育館（14 万 7,196 人）が最も多く、次いで香久山体育館（7 万 8,893 人）となっていますが、この 2 施設にはスポーツジムが設置されているため、定期利用者がいることが主な理由と考えられます。中央体育館（1,877 件）については、人数ではなく件数で集計しているため少なく表れています。平成 23 年度からの推移をみると、概ね横ばい傾向となっています。

図 4-2-35 利用者数の推移

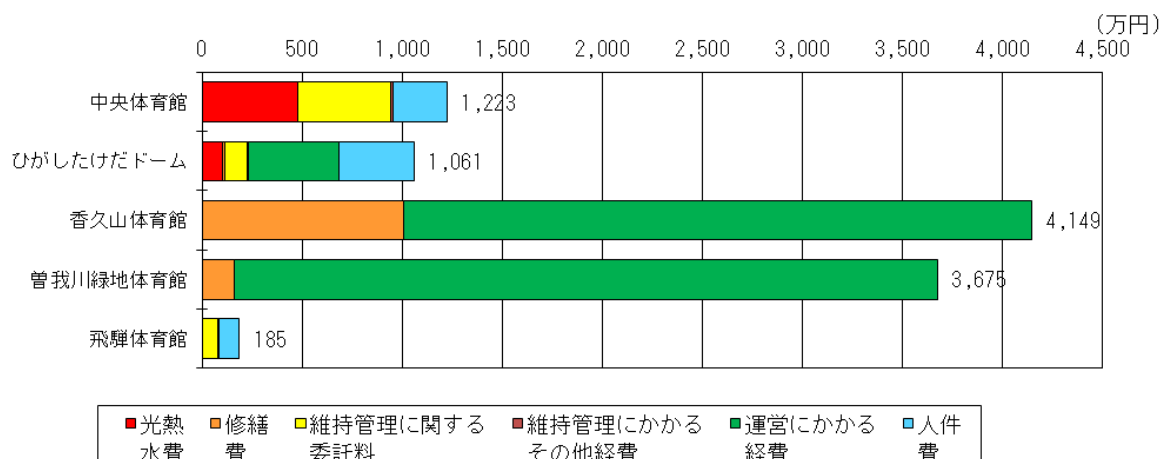


### ④ 施設に関する総費用の状況

平成 25 年度における施設に関する費用をみると、香久山体育館（4,149 万円）が最も高く、次いで曾我川緑地体育館（3,675 万円）となっていますが、いずれも指定管理料が多くを占めています。他の施設は 1,500 万円以下となっています。

香久山体育館と曾我川体育館の指定管理施設については、施設の維持管理以外の事業の運営費が不可分であるため、スポーツジムのトレーナーの人件費などが含まれていることや、施設の利用者が多いことなどから、他の直営施設と比べると高く表れています。

図 4-2-36 施設に関する費用と内訳（平成 25 年度）



## ⑤ 単位あたりのコストの状況

平成 25 年度の施設管理コストを延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりで見ると、全施設の平均では 8,942 円となっていますが、空調機などの修繕費が大きかった香久山体育館（15,113 円）が最も高く、次いで曾我川緑地体育館（12,092 円）となっています。一方で、他の施設は 8,000 円以下と、施設によって差がみられます。

利用者 1 人あたりの施設管理コストをみると、中央体育館は 6,518 円と高くなっていますが、利用単位を人数ではなく利用件数にしているため他の施設と差がでています。他の施設は人数で計算しています。

図 4-2-37 延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）

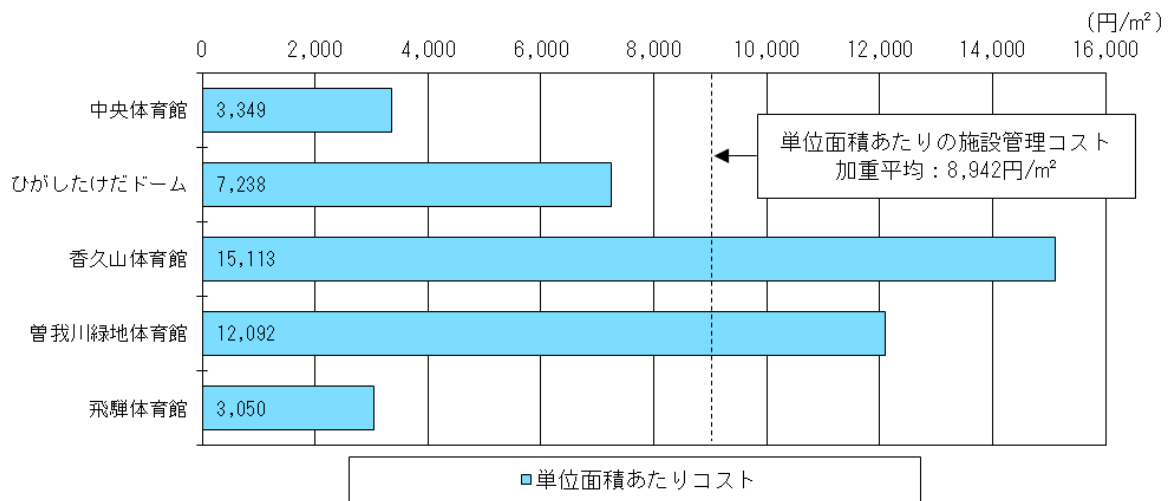
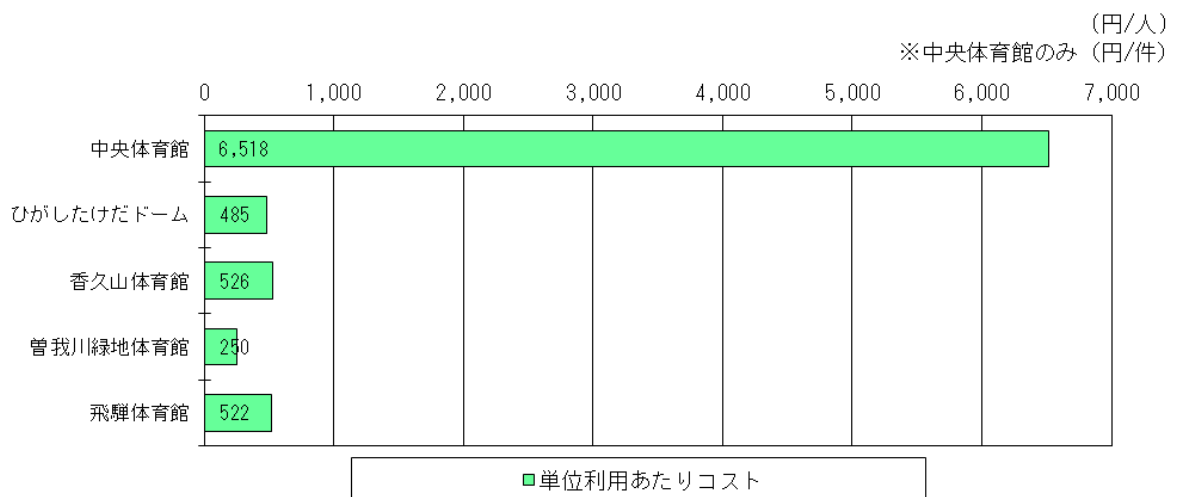


図 4-2-38 利用者 1 人あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）



## (3) 観光施設

### 1) 観光案内所

#### ① 概要

本市では、観光案内所を1箇所設置しています。

橿原市観光交流センターは、本市を中心に近隣市町村を含めた広域的な観光情報を発信し、かつ、地域福祉の向上につながる市民などの自主的な活動を支援する機能も持った複合施設です。全館の維持管理及び、観光センター（1,2階部分）の事業運営については、指定管理者によって運営されています。



< 橿原市観光交流センター >

表 4-2-10 観光案内所の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
46	橿原市観光交流センター(観光センター)	内膳町1-6-8	2010	RC5	854.40	0	4,866	0	0

#### ② 建物の状況

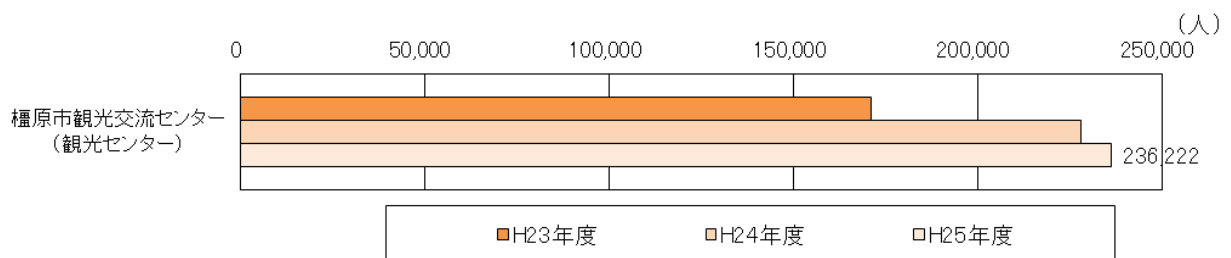
平成 22 年度に建築された新しい建物で、こども広場、市民相談広場・男女共同参画広場・橿原市消費生活センター・市民活動交流広場との複合施設であり、観光センター部分の延床面積は約 854 m<sup>2</sup>です。

#### ③ 利用の状況

平成 25 年度の利用者数をみると、23 万 6,222 人となっています（問い合わせ、物産販売、イベントスペース、観光トイレ、奈良交通の利用者の計）。

平成 23 年度からの推移をみると、利用者数は増加傾向がみられます。

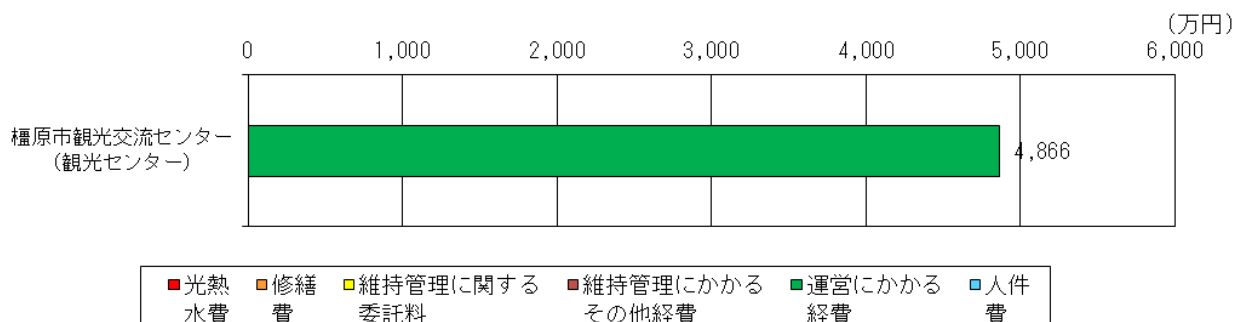
図 4-2-39 利用者数の推移



#### ④ 施設に関する総費用の状況

平成 25 年度における施設に関する費用をみると、観光センターは 4,866 万円となっており、指定管理料（全館の維持管理費及び事業運営費）が大半を占めています。

図 4-2-40 施設に関する費用と内訳（平成 25 年度）



## 2) 観光トイレ

### ① 概要

本市では、本市を訪れた観光客の利便性の向上を図るため、主要な観光スポットの周辺に、観光トイレを5箇所設置しています。

第1・第2 檀原観光トイレは檀原神宮の敷地内に、残り3箇所の観光トイレは大和三山（香具山・畝傍山・耳成山）の麓にそれぞれ設置しています。



< 第1 檀原観光トイレ >

表 4-2-11 観光トイレの概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
47	第1檀原観光トイレ	久米町934	1994	RC1	162.62	61	0	75	0
48	第2檀原観光トイレ	畝傍町63	2005	RC1	141.00	84	0	75	9
49	香久山観光トイレ	木之本町59-5	2006	RC1	79.80	127	9	75	9
50	耳成山観光トイレ	木原町107-1	2008	RC1	66.08	179	6	75	0
51	畝傍山観光トイレ	大谷町151-1	2012	W1	13.20	88	2	75	0

### ② 建物の状況

延床面積をみると、第1 檀原観光トイレ (162.62 m<sup>2</sup>) と第2 檀原観光トイレ (141.00 m<sup>2</sup>) の延床面積が大きい一方で、畝傍山観光トイレは13.20 m<sup>2</sup>と小規模なトイレです。

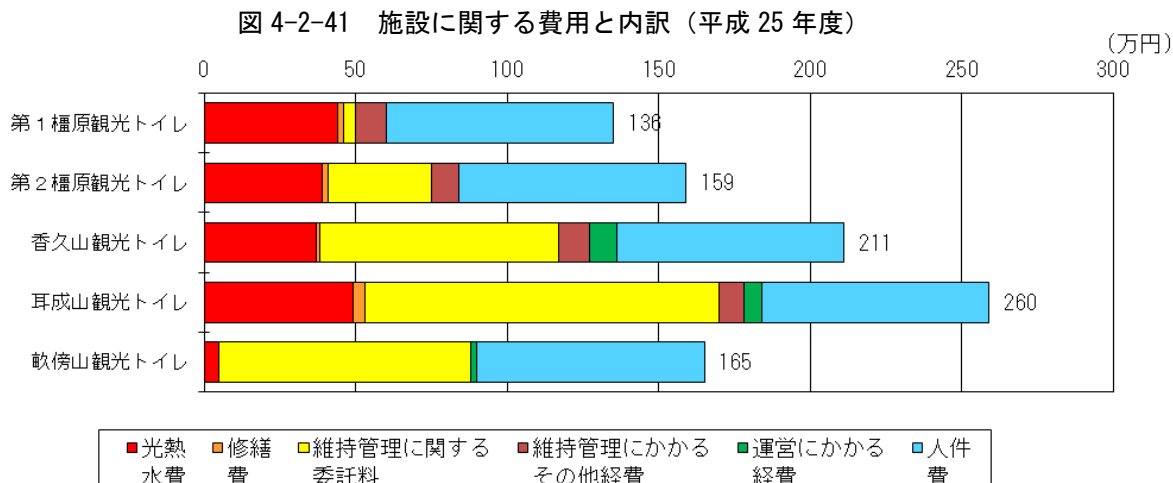
最も古い第1 観光トイレは築20年を経過していますが、それ以外の施設は築10年以下と比較的新しい建物です。

### ③ 利用の状況

利用状況は把握していません。

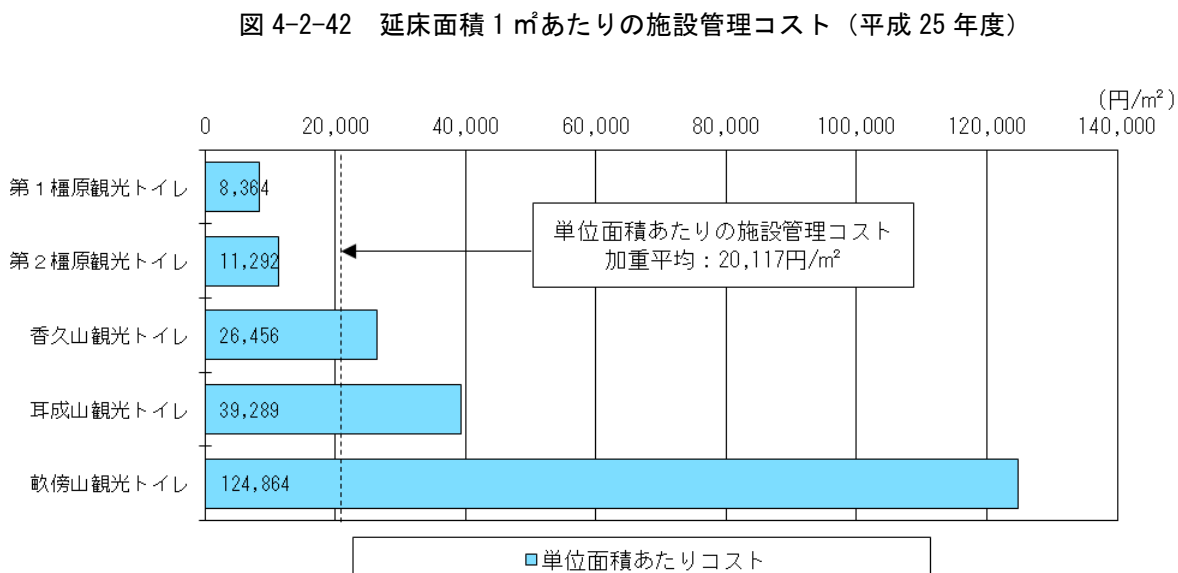
#### ④ 施設に関する総費用の状況

平成 25 年度における施設に関する費用をみると、耳成山観光トイレ(260 万円)が最も高く、最も低い第 1 榎原観光トイレ(136 万円)の約 1.9 倍となっており、施設によって差がみられます。ほとんどの施設で維持管理に関する委託料が多くを占めていますが、第 1 榎原観光トイレと第 2 榎原観光トイレの清掃業務及び消耗品の交換については、榎原神宮で行っています。



#### ⑤ 単位あたりのコストの状況

平成 25 年度の施設管理コストを延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりで見ると、全施設の平均では 20,117 円となっています。畷傍山観光トイレが 124,864 円と突出して高くなっていますが、建物の延床面積が小さいことが原因と考えられます。





## (4) 学校教育施設

### 1) 小学校

#### ① 概要

本市では、小学校を 16 校設置しています。

各小学校は、児童の心身の発達に応じて行われる義務教育を支える教育機能に加え、大規模災害時における避難所としての機能や地域のコミュニティの活動拠点としての機能を有しています。



< 畝傍南小学校 >

表 4-2-12 小学校の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
52	畝傍南小学校	見瀬町164	1996	RC3	8,112.00	1,220	175	257	1
53	畝傍東小学校	大軽町283	1976	RC3	6,344.00	1,217	449	257	0
54	畝傍北小学校	大久保町156	1973	RC3	6,287.00	1,113	381	257	0
55	鴨公小学校	縄手町324	1974	RC2	6,206.00	1,341	505	257	0
56	晩成小学校	小房町1-54	1977	RC4	6,319.00	1,035	458	257	1
57	今井小学校	今井町3-4-46	1971	RC3	3,823.00	848	385	257	1
58	真菅小学校	曾我町710	1978	RC3	7,062.00	1,427	402	257	1
59	真菅北小学校	大垣町220-1	1975	RC3	7,205.00	1,323	432	257	0
60	耳成小学校	葛本町625	1976	RC3	6,593.00	1,800	466	257	0
61	耳成南小学校	常盤町3	1973	RC3	7,603.20	1,361	406	257	1
62	耳成西小学校	上品寺町455-1	1980	RC3	6,451.00	1,582	412	743	2
63	金橋小学校	雲梯町216-1	1980	RC3	7,016.00	1,294	392	257	130
64	香久山小学校	膳夫町98-1	1982	RC3	3,723.00	756	389	257	0
65	新沢小学校	一町1296	1977	RC3	5,724.00	1,114	400	257	1
66	白檀南小学校	白檀町8-19-1	1974	RC3	4,399.00	901	112	257	0
67	白檀北小学校	白檀町3-10-2	1982	RC3	6,103.00	845	137	257	0

※人件費は施設管理をしている市費職員分を計上しています(学校の先生は奈良県の職員ですので計上していません)。

#### ② 建物の状況

延床面積をみると 3,723~8,112 m<sup>2</sup>まで幅があります。

平成 8~9 年に建替えを実施した畝傍南小学校を除き、昭和 40 年代半ばから昭和 50 年代後半にかけて集中して建築しており、築 30~40 年程度が経過していることから、今後の修繕などの費用が増加することが想定されます。

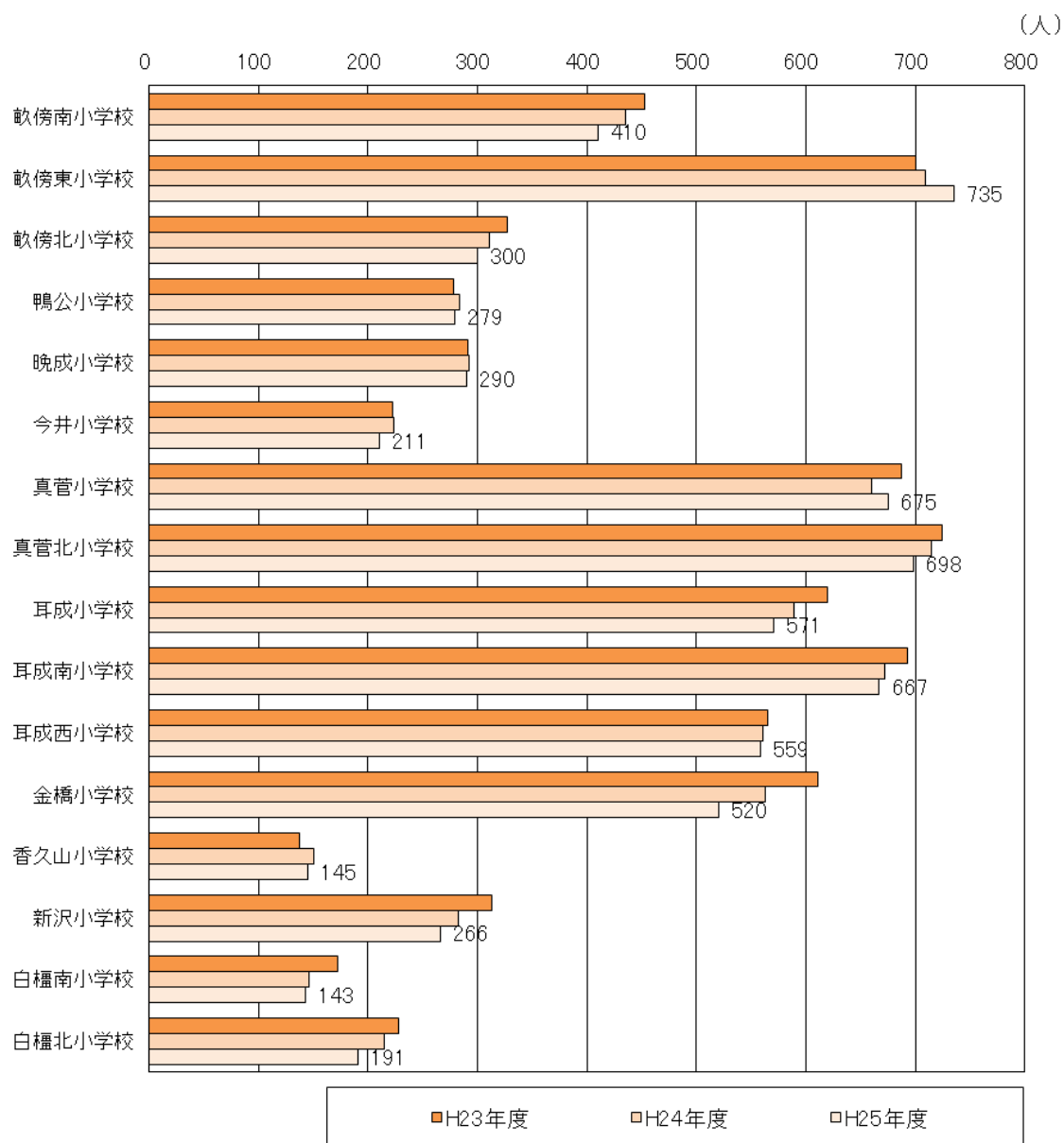
耐震性が不足すると判定された校舎などについては、耐震改修により全て耐震性が確保されています。

### ③ 利用の状況

平成 25 年度の児童数をみると、畝傍東小学校が 735 人と多く、次いで真菅北小学校 698 人、真菅小学校 675 人、耳成南小学校 667 人となっています。一方で、200 人に満たない小学校が 3 校あるなど、児童数に偏りがみられます。

平成 23 年度からの推移をみると、多くの小学校で減少傾向にあるものの、畝傍東小学校など一部の小学校では増加傾向がみられます。

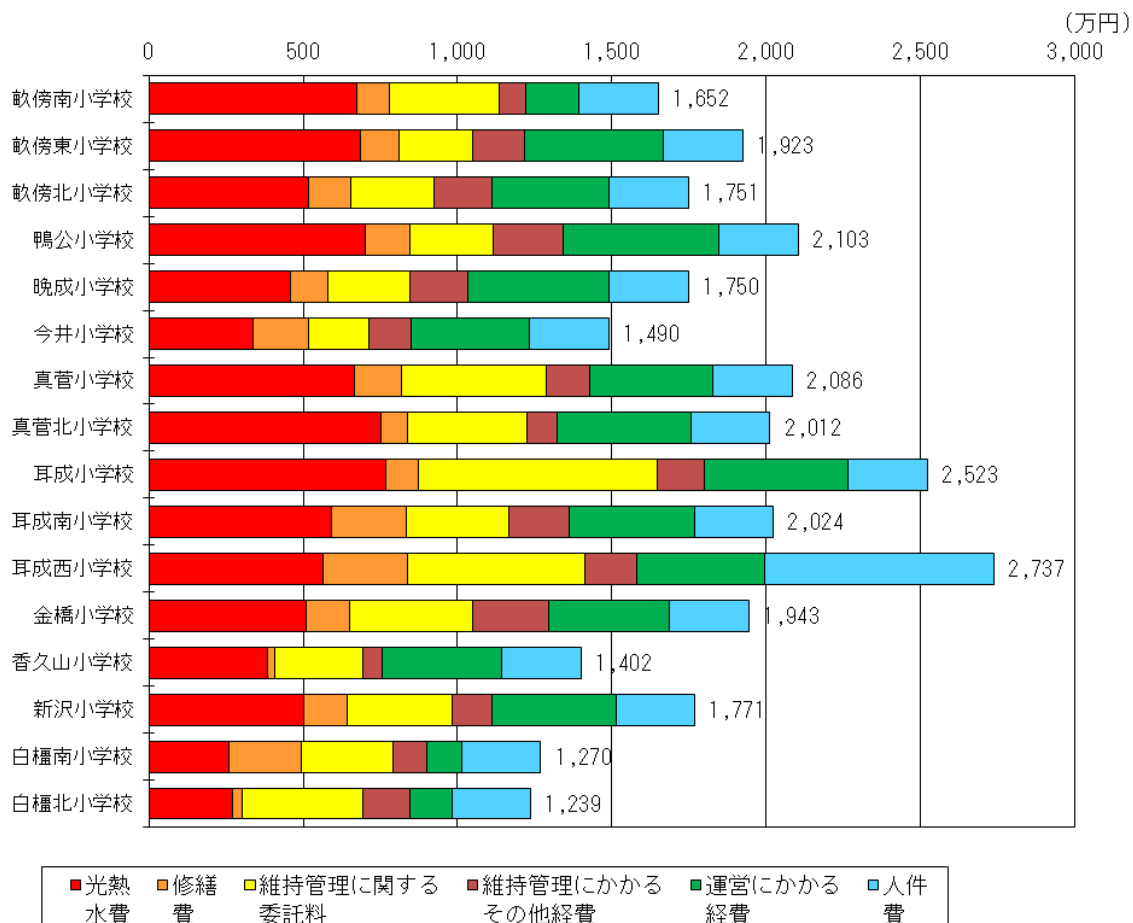
図 4-2-43 小学校の児童数の推移



#### ④ 施設に関する総費用の状況

平成 25 年度における施設に関する費用の内訳をみると、ほとんどの施設で光熱水費又は維持管理に関する委託料の割合が高くなっています。

図 4-2-44 施設に関する費用と内訳（平成 25 年度）



#### ⑤ 単位あたりのコストの状況

平成 25 年度の施設管理コストを延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりで見ると、全施設の平均では 2,999 円となっていますが、最も高い耳成西小学校 (4,244 円) は、最も低い白檀北小学校 (2,031 円) の約 2.1 倍となっています。

児童数 1 人あたりで見ると、全施設の平均では 44,568 円となっていますが、児童数が最も多い畷傍東小学校で 26,158 円と最も低く、児童数が最も少ない香久山小学校で 96,757 円と最も高くなっています。

図 4-2-45 延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）

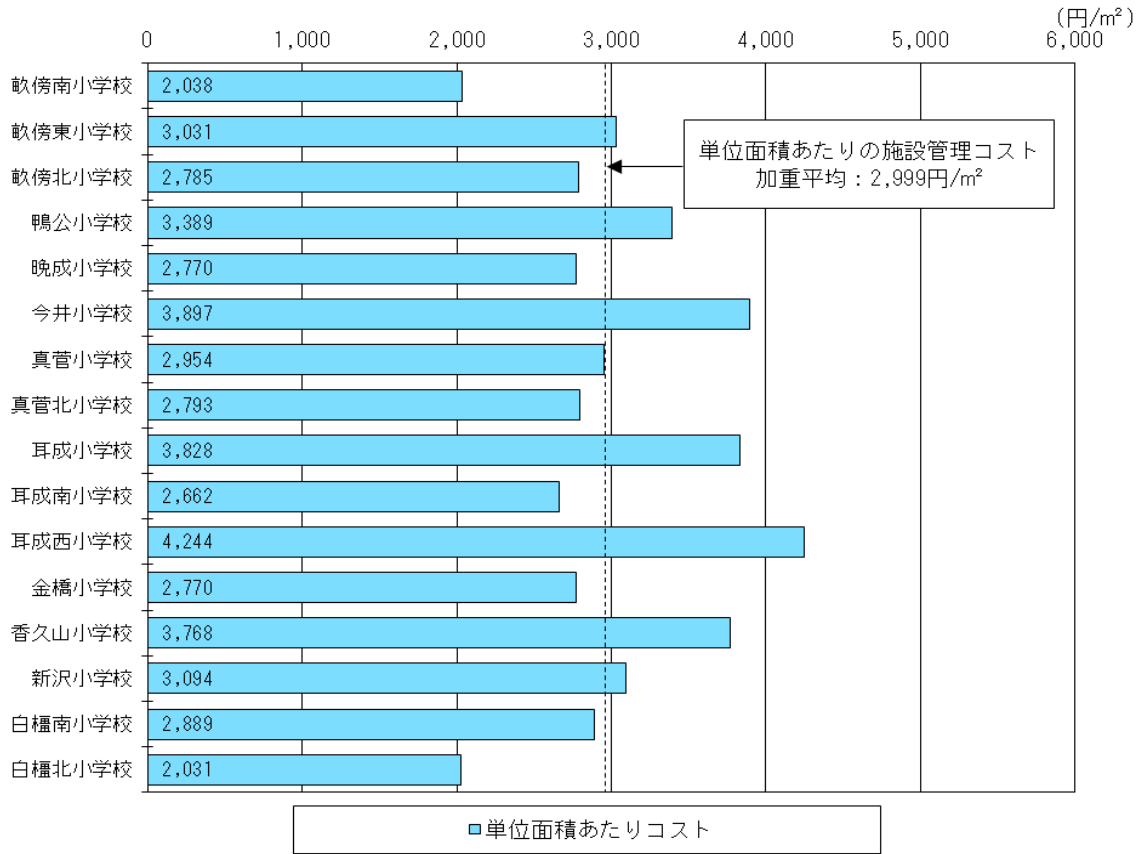
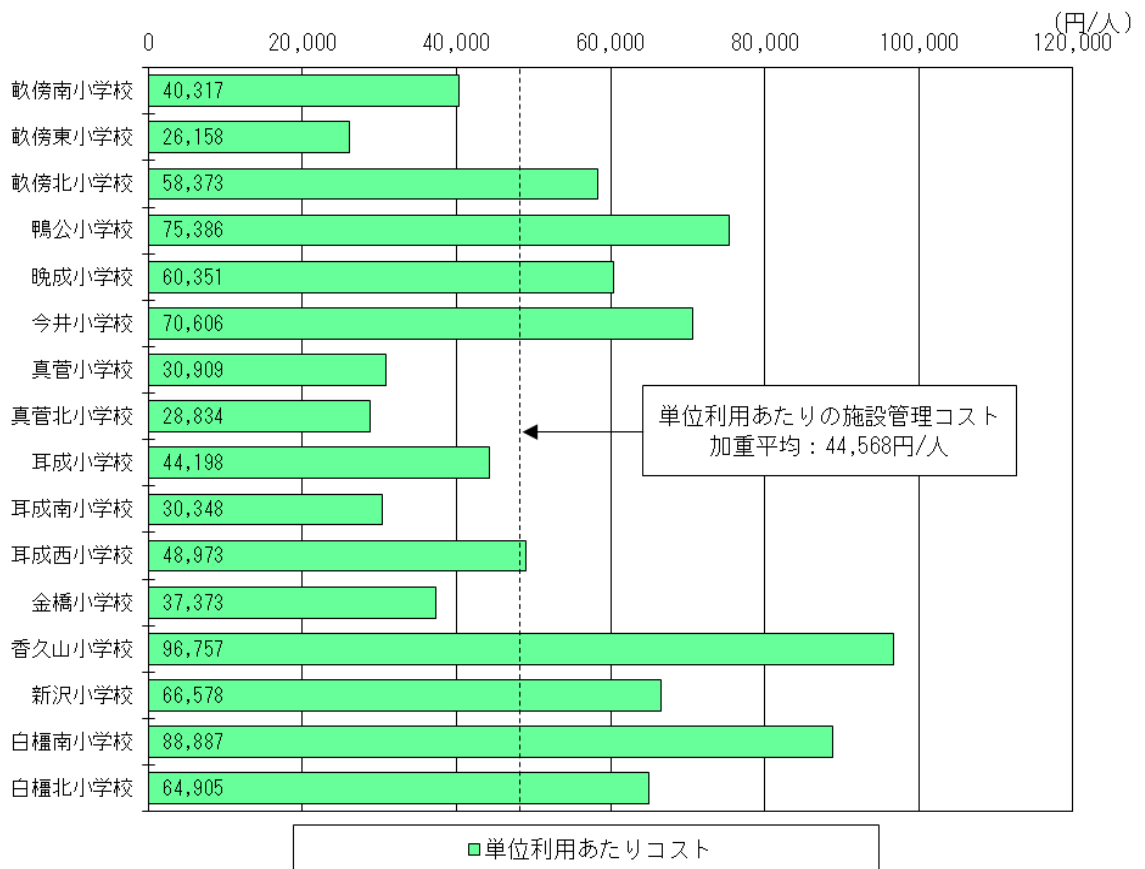


図 4-2-46 児童数 1 人あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）



## 2) 中学校

### ① 概要

本市では、中学校を6校設置しています。中学校は義務教育における学校教育を実践する教育施設であると同時に、大規模災害時における避難所としての機能や、地域コミュニティの活動拠点としての機能を有しています。

畝傍中学校には二部（夜間学級）を別に設置しています。



< 光陽中学校 >

表 4-2-13 中学校の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
68	畝傍中学校	石川町204	1974	RC4	13,303.00	1,650	93	743	0
69	畝傍中学校二部	大久保町156	1974	S1	397.00	138	7	61	0
70	八木中学校	新箕町33	1975	RC4	16,375.00	2,114	119	258	16
71	大成中学校	小綱町77-2	1977	RC4	10,384.00	1,810	115	743	15
72	檀原中学校	西新堂町26-1	1982	RC4	10,597.00	1,467	295	258	15
73	光陽中学校	古川町20	1980	RC4	11,243.00	1,789	128	258	15
74	白檀中学校	白檀町8-12-1	1982	RC3	8,626.00	1,093	75	258	15

### ② 建物の状況

延床面積をみると、8,626～16,375 m<sup>2</sup>まで幅があります（畝傍中学校二部を除く）。

いずれも昭和40年代後半から昭和50年代後半にかけて集中して建築しており、築30～40年程度が経過していることから、今後の修繕などの費用が増加することが想定されます。

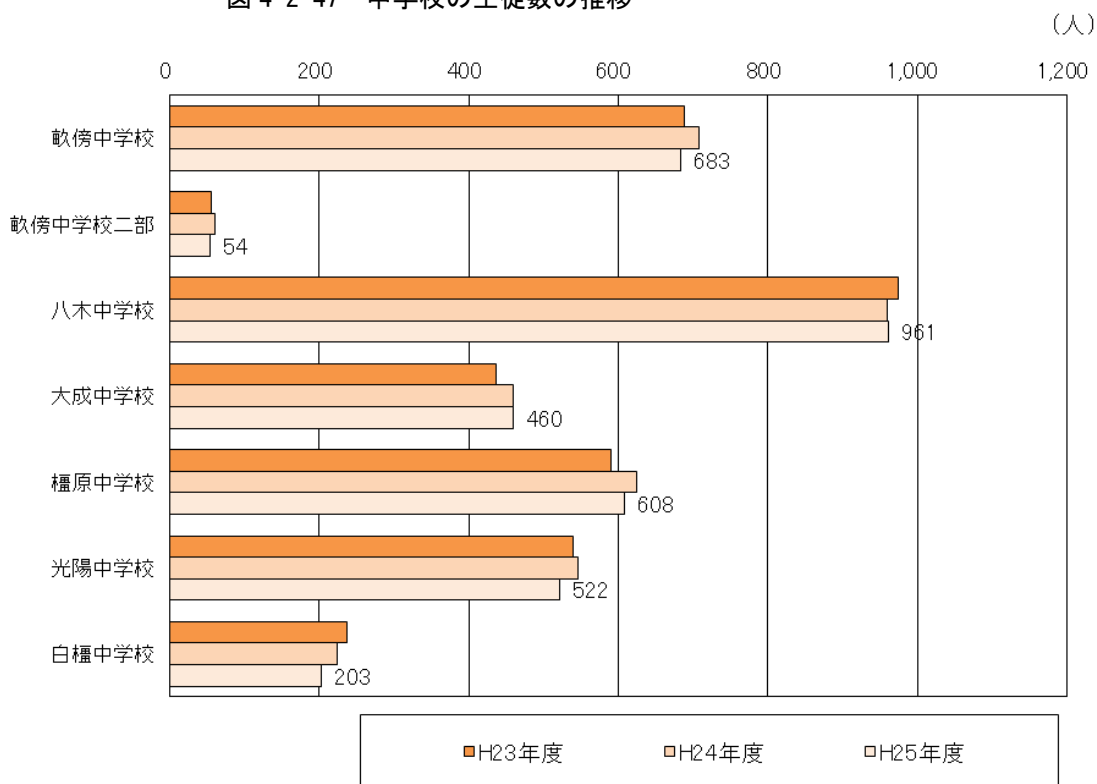
耐震性が不足すると判定された校舎などについては、すべて耐震改修により耐震性が確保されています。

### ③ 利用の状況

平成25年度の生徒数をみると、八木中学校が961人と多く、次いで畝傍中学校683人、檀原中学校608人となっています。一方で、最も少ない白檀中学校では203人と、生徒数に偏りがみられます。

平成23年度からの生徒数の推移をみると、概ね横ばいとなっています。

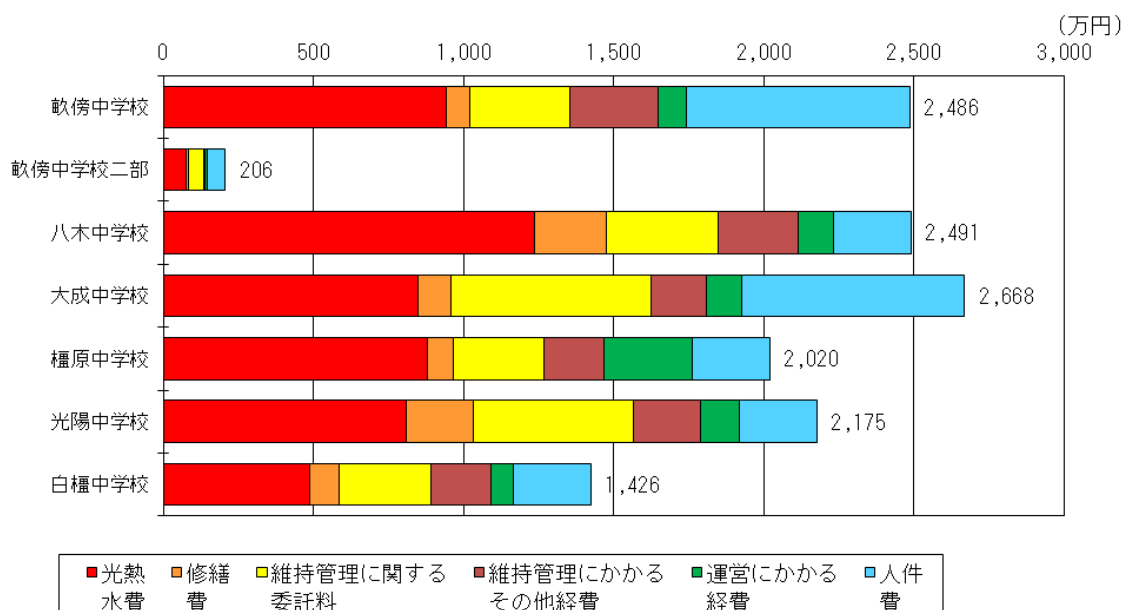
図 4-2-47 中学校の生徒数の推移



#### ④ 施設に関する総費用の状況

平成 25 年度における施設に関する費用の内訳をみると、全ての施設において光熱水費の割合が大きくなっています。

図 4-2-48 施設に関する費用と内訳（平成 25 年度）



## ⑤ 単位あたりのコストの状況

平成 25 年度の施設管理コストを延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりで見ると、全施設の平均では 1,900 円となっています。施設の面積が小さい軟傍中学校部 (5,176 円) が最も高くなっていますが、その他は概ね 1,500 円から 3,000 円の範囲となっています。

生徒数 1 人あたりで見ると、全施設の平均では 38,593 円となっていますが、生徒数が最も多い八木中学校で 25,922 円と最も低く、生徒数が最も少ない白櫃中学校で 70,270 円と最も高くなっています。

図 4-2-49 延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの施設管理コスト (平成 25 年度)

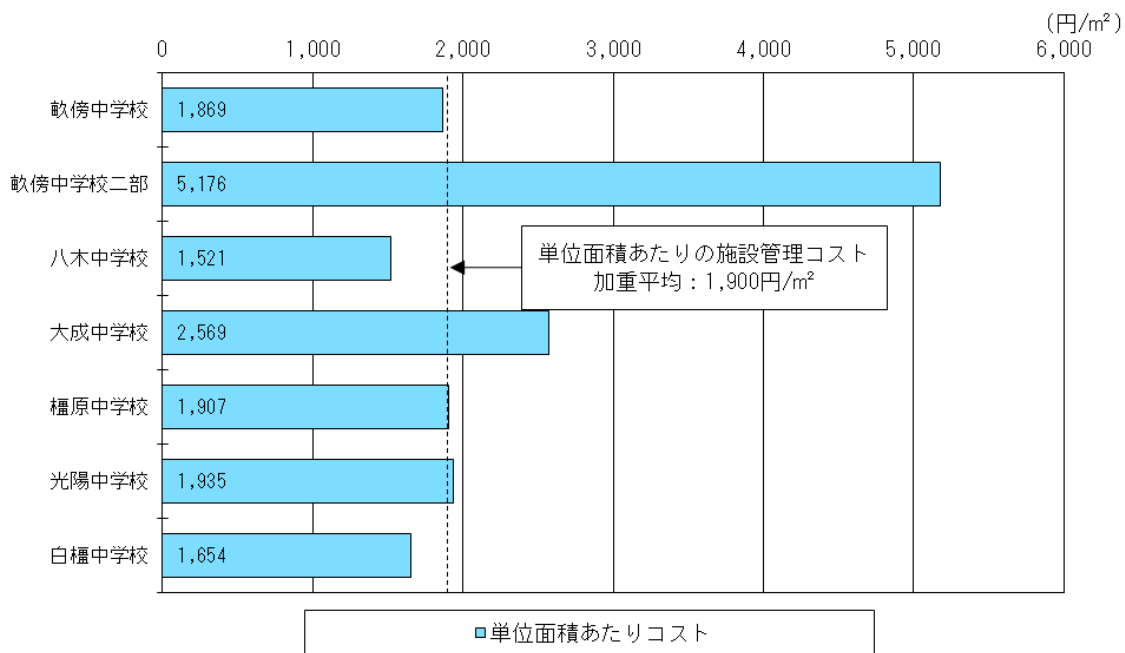
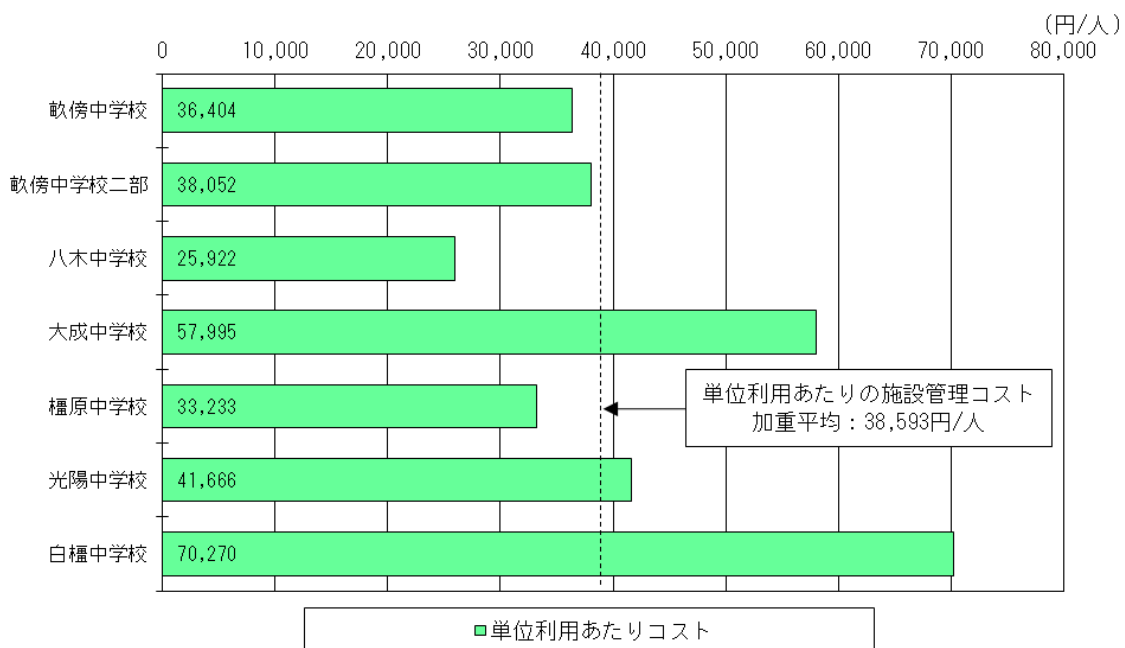


図 4-2-50 生徒数 1 人あたりの施設管理コスト (平成 25 年度)



### 3) その他教育施設（給食室等）

#### ① 概要

本市では、学校給食の調理などを行う施設として、小学校 13 校と中学校 5 校に給食室を設置しているほか、共同調理場を 1 か所設置しています。



< 白櫃共同調理場 >

表 4-2-14 その他教育施設（給食室等）の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
75	畝傍東小学校給食室	大軽町283	1976	RC3	167.00	217	1,444	7	52
76	畝傍北小学校給食室	大久保町156	1983	RC3	165.00	110	878	7	25
77	鴨公小学校給食室	縄手町324	1974	RC2	111.00	148	31	1,371	0
78	晩成小学校給食室	小房町1-54	1977	RC1	160.00	117	652	7	31
79	今井小学校給食室	今井町3-4-46	1991	S1	139.00	71	705	7	49
80	真菅小学校給食室	曾我町710	1980	RC2	171.00	138	1,264	7	54
81	真菅北小学校給食室	大垣町220-1	1974	RC3	181.00	158	1,159	7	84
82	耳成小学校給食室	葛本町625	1977	RC1	158.00	165	1,383	7	171
83	耳成南小学校給食室	常盤町3	1973	RC3	130.00	167	70	1,693	0
84	耳成西小学校給食室	上品寺町455-1	1980	RC3	168.00	158	38	1,879	0
85	金橋小学校給食室	雲梯町216-1	1980	RC3	160.00	164	1,248	7	41
86	香久山小学校給食室	膳夫町98-1	1982	RC3	93.00	63	43	983	0
87	新沢小学校給食室	一町1296	1977	RC3	141.00	124	63	1,478	0
88	畝傍中学校給食室	石川町204	1974	RC4	172.00	186	1,393	7	34
89	八木中学校給食室	新箕町33	1975	RC4	202.00	182	1,552	7	67
90	大成中学校給食室	小綱町77-2	1978	RC4	137.00	165	935	7	44
91	権原中学校給食室	西新堂町26-1	1982	RC4	209.00	142	1,009	7	41
92	光陽中学校給食室	古川町20	1980	RC4	211.00	107	999	7	40
93	白櫃共同調理場	白櫃町3-1-1	1978	RC1	602.82	1,136	826	3,057	0

#### ② 建物の状況

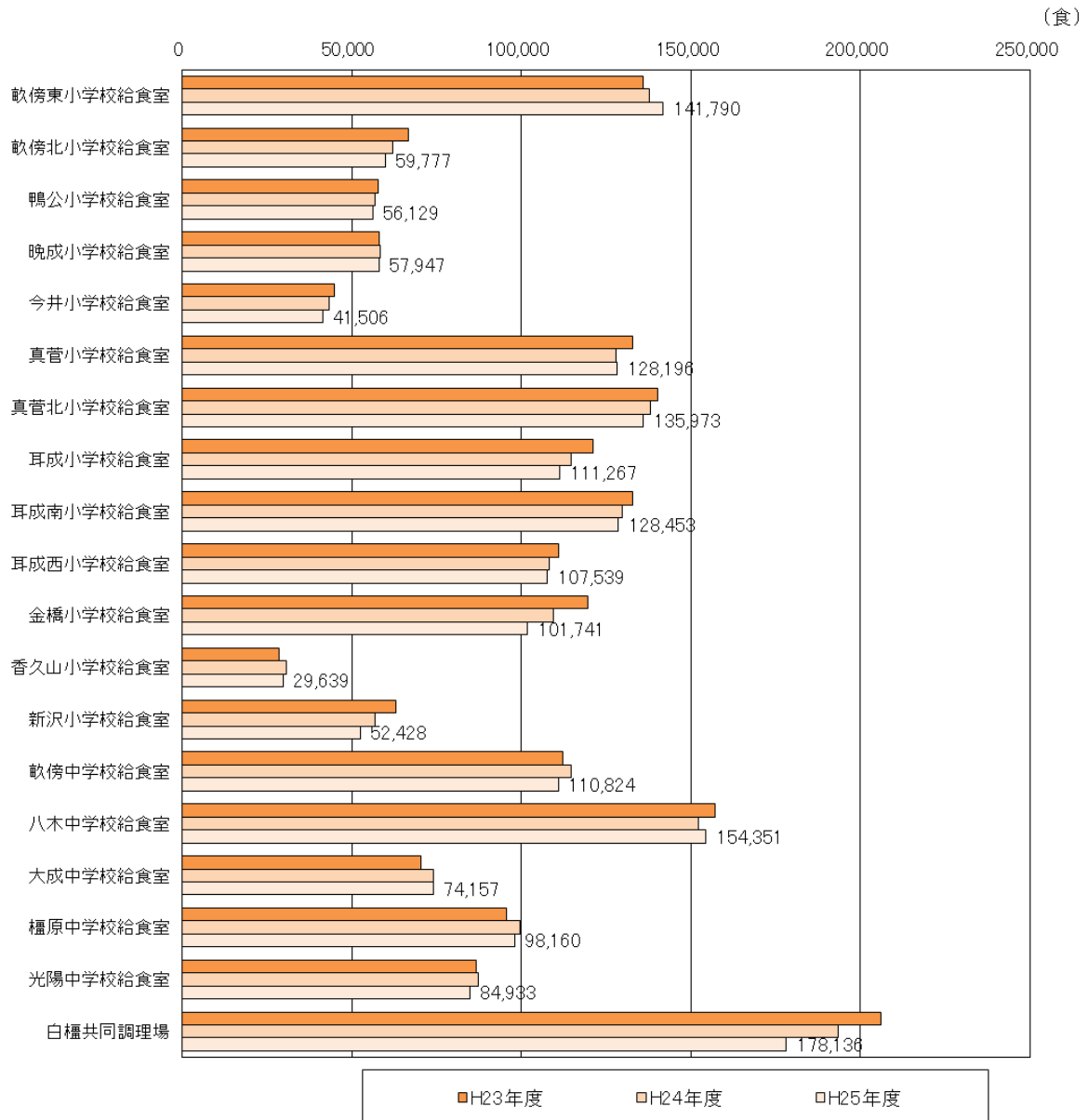
給食室は、白櫃共同調理場を除き、小・中学校の校舎の一部を利用して設置されており、延床面積は約 100～200 m<sup>2</sup>となっています。



### ③ 利用の状況

平成 25 年度の配食数をみると、児童・生徒数の多い学校での配食数が多くなっています。特に小学校においては、児童数減少の影響もあり、配食数が減少傾向となっているところが多くみられます。

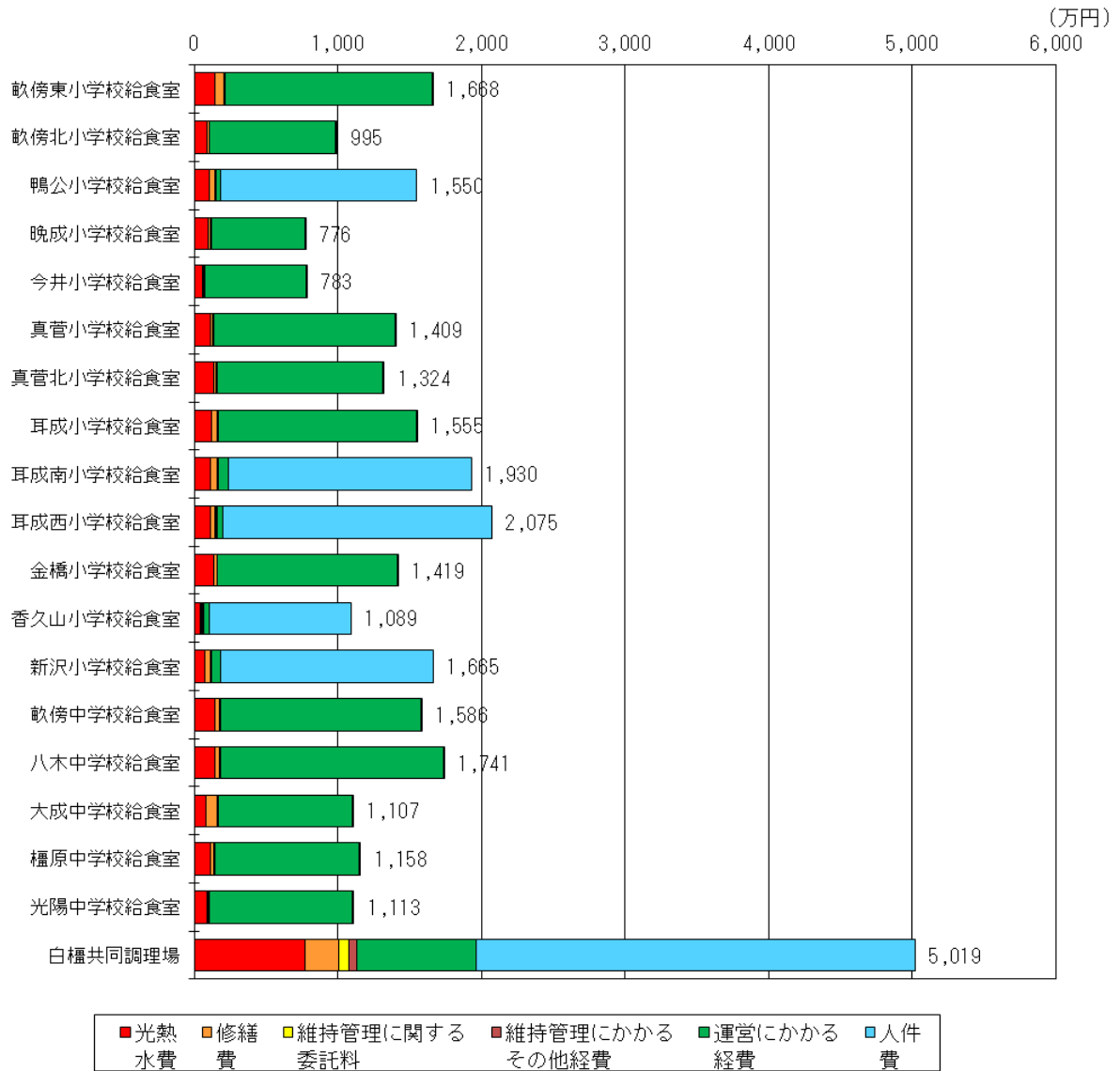
図 4-2-51 配食数の推移



#### ④ 施設に関する総費用の状況

平成 25 年度における施設に関する費用をみると、共同調理場である白櫃共同調理場を除くと耳成西小学校給食室が 2,075 万円と最も高くなっています。直営で給食業務を行っている学校については人件費が高くなり、調理業務の業者委託を行っている学校では委託料が運営にかかる経費に入ることによって高くなっています。

図 4-2-52 施設に関する費用と内訳（平成 25 年度）



## ⑤ 単位あたりのコストの状況

平成 25 年度の施設管理コストを延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりで見ると、全施設の平均では 86,134 円となっていますが、最も高い耳成南小学校給食室 (148,431 円) は、最も低い晩成小学校給食室 (48,439 円) の約 3.1 倍となっています。

配食数あたりのコストで見ると、全施設の平均は 162 円となっていますが、食数が多い、もしくは調理業務の業者委託を行うことで費用が低くなっている施設ほどコストは低くなっています。

図 4-2-53 延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの施設管理コスト (平成 25 年度)

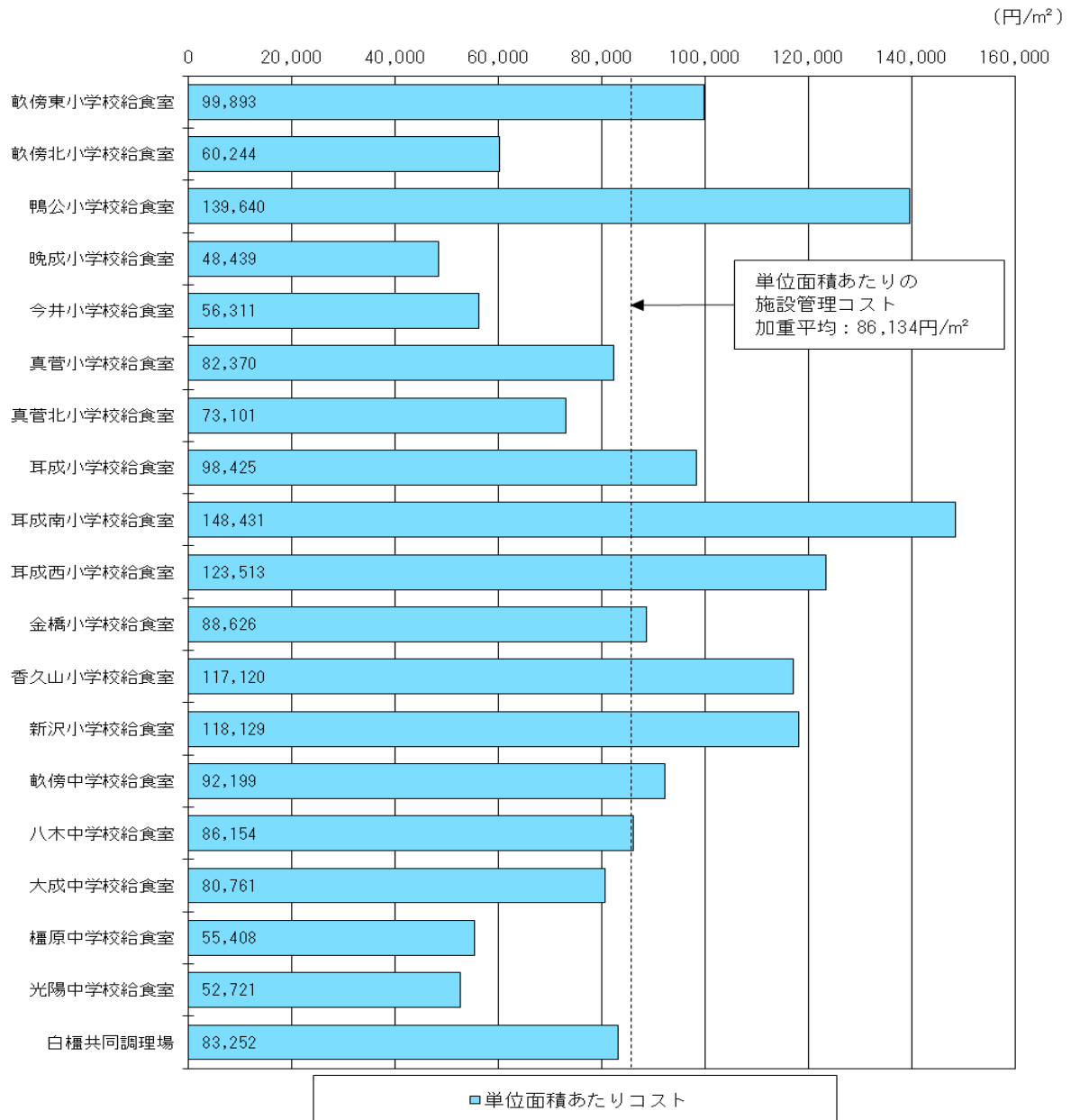
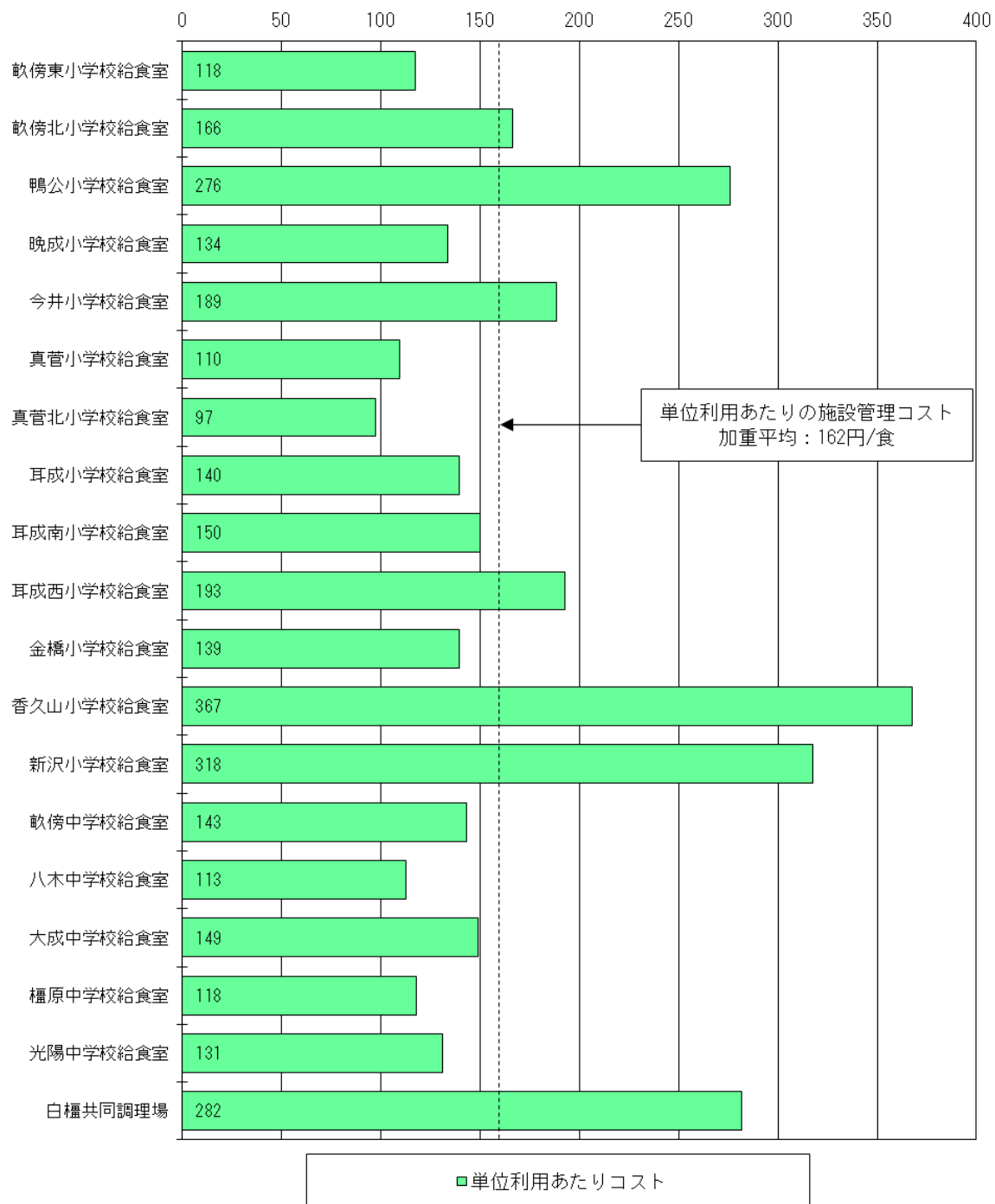


図 4-2-54 1食あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）

(円/人)



## 4) その他教育施設（子ども総合支援センター）

### ① 概要

子どもの発達の様子が気になる段階から、健やかな成長発達を目指して、子どもと保護者の方、関係者を早期から支援する総合施設です。平成 26 年度から供用開始しています。



< 子ども総合支援センター >

表 4-2-15 その他教育施設（子ども総合支援センター）の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
94	子ども総合支援センター	白檀町8-19-1	1981	RC2	975.31	0	0	0	0

### ② 建物の状況

白檀南小学校校舎の一部を転用し、大規模改修を行ったうえで、平成 26 年度より供用開始しています。耐震改修により耐震性は確保されています。

## (5) 子育て支援施設

### 1) 幼稚園

#### ① 概要

本市では、幼稚園を 15 箇所を設置しています。そのうち 5 園は、こども園として保育所と一体的に運用しています。ここではこども園を除いた 10 園を比較します。

幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とした教育施設として設置しています。



< 畝傍東幼稚園 >

表 4-2-16 幼稚園の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
95	畝傍南幼稚園	見瀬町2295	1984	RC2	877.00	161	15	61	48
96	晩成幼稚園	縄手町2	1979	RC2	1,032.00	178	38	61	48
97	耳成幼稚園	葛本町593	1982	RC2	825.00	187	33	61	78
98	真菅幼稚園	曾我町813	1981	RC2	914.00	220	47	61	102
99	香久山幼稚園	膳夫町90-1	1979	RC2	439.00	114	33	61	9
100	耳成南幼稚園	山之坊町109-5	1975	S1	1,095.00	171	16	61	94
101	真菅北幼稚園	大垣町227	1975	S1	1,036.00	303	9	61	69
102	畝傍東幼稚園	大軽町283	1977	RC2	1,077.00	343	13	61	94
103	耳成西幼稚園	上品寺町482-1	1980	RC2	882.00	172	43	61	65
104	白檀幼稚園	白檀町3-10-1	1978	RC2	915.00	117	12	61	32

#### ② 建物の状況

延床面積をみると、香久山幼稚園が約 440 m<sup>2</sup>とやや小さいですが、他の施設は約 830~1,100 m<sup>2</sup>となっています。

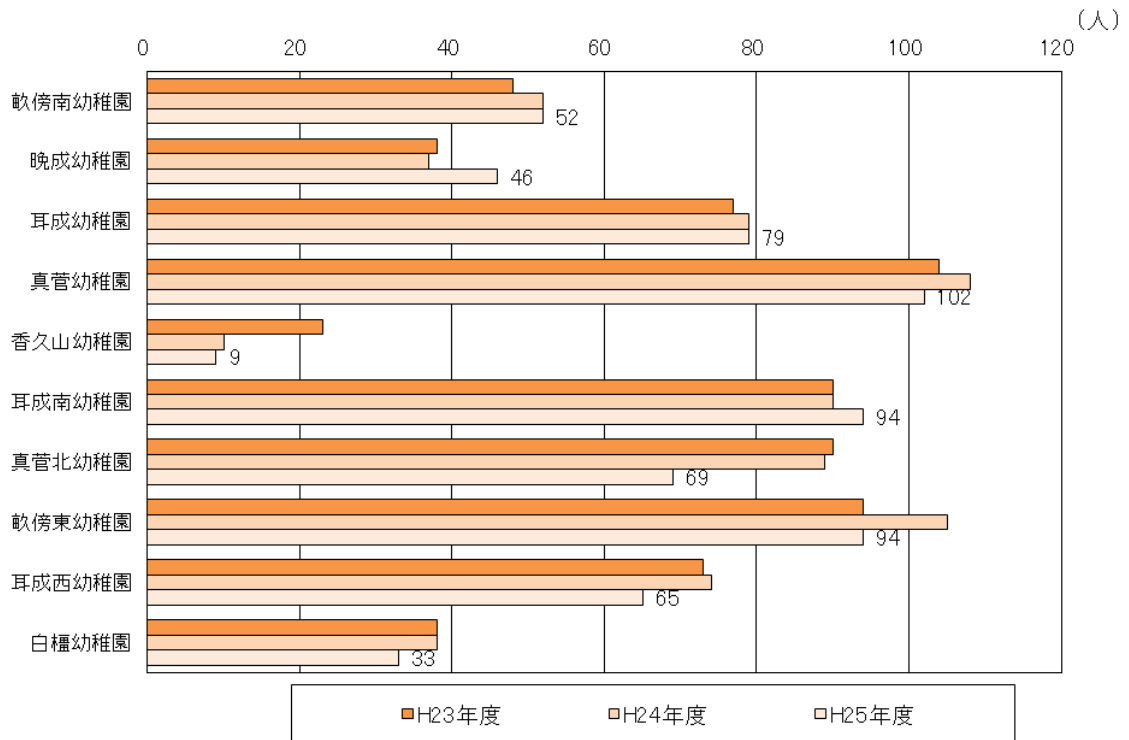
全施設とも昭和 50 年代に集中して建築しており、主要な棟が最も古い耳成南幼稚園や真菅北幼稚園では築 39 年が経過していることから、今後の修繕などの費用が増加することが想定されます。

全施設とも耐震性が確保されています。

#### ③ 利用の状況

平成 25 年度の園児数をみると、真菅幼稚園が 102 人と多く、次いで耳成南幼稚園と畝傍東幼稚園が 94 人、耳成幼稚園 79 人となっています。一方で、最も少ない香久山幼稚園では 9 人となっており、園児数により偏りがみられます。

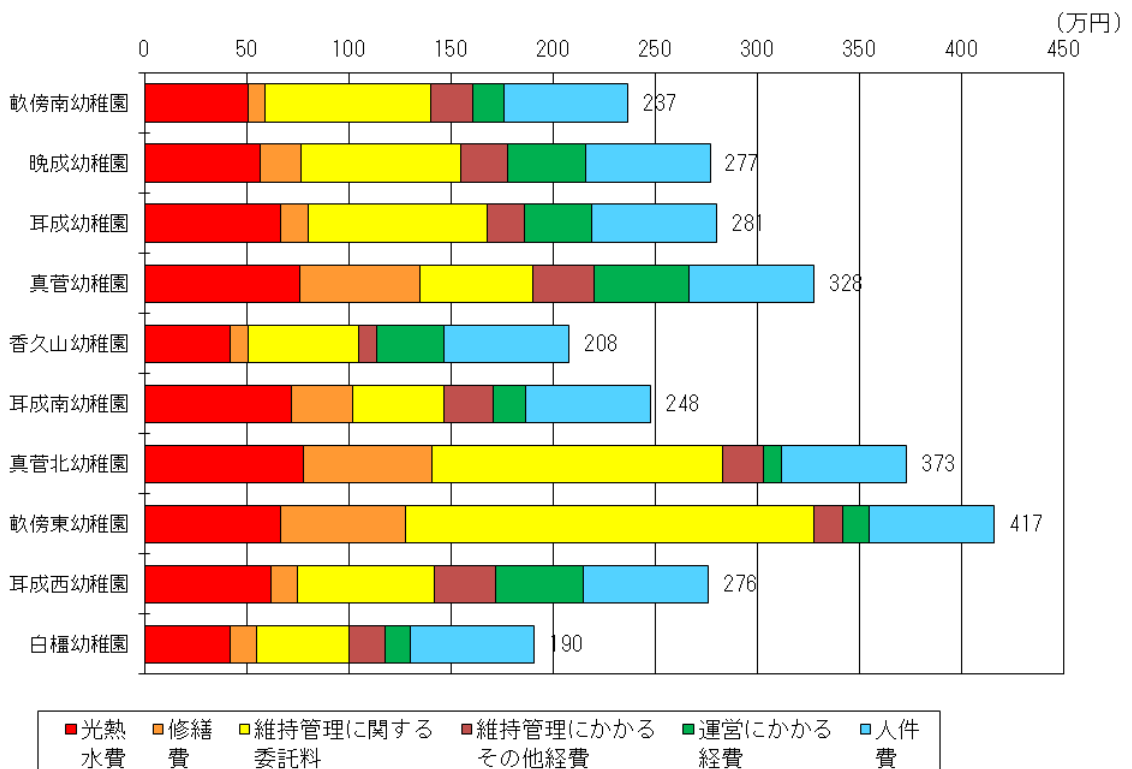
図 4-2-55 園児数の推移



#### ④ 施設に関する総費用の状況

平成 25 年度における施設に関する費用をみると、概ね 200 万円から 450 万円の範囲となっています。

図 4-2-56 施設に関する費用と内訳（平成 25 年度）



## ⑤ 単位あたりのコストの状況

平成 25 年度の施設管理コストを延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりで見ると、全施設の平均では 3,120 円となっていますが、最も高い香久山幼稚園 (4,756 円) は、最も低い白檀幼稚園 (2,076 円) の約 2.3 倍となっています。

園児数 1 人あたりで見ると、全施設の平均では 44,114 円となっていますが、園児数が少ない香久山幼稚園が最も高くなっています。

図 4-2-57 延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの施設管理コスト (平成 25 年度)

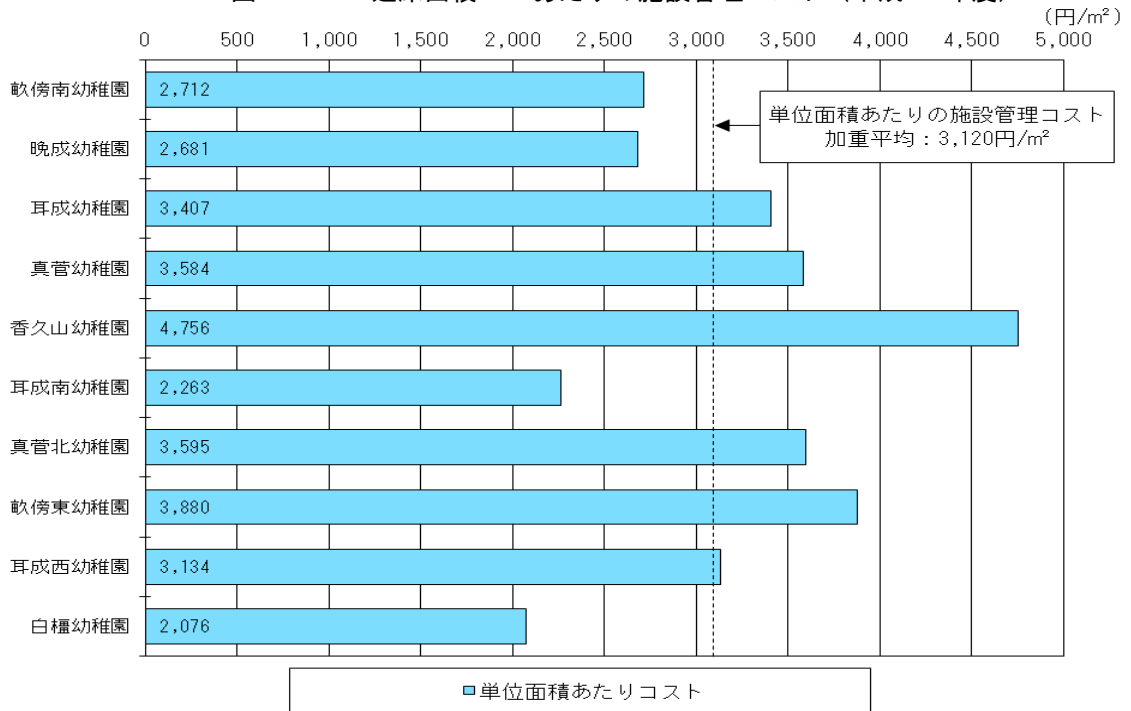
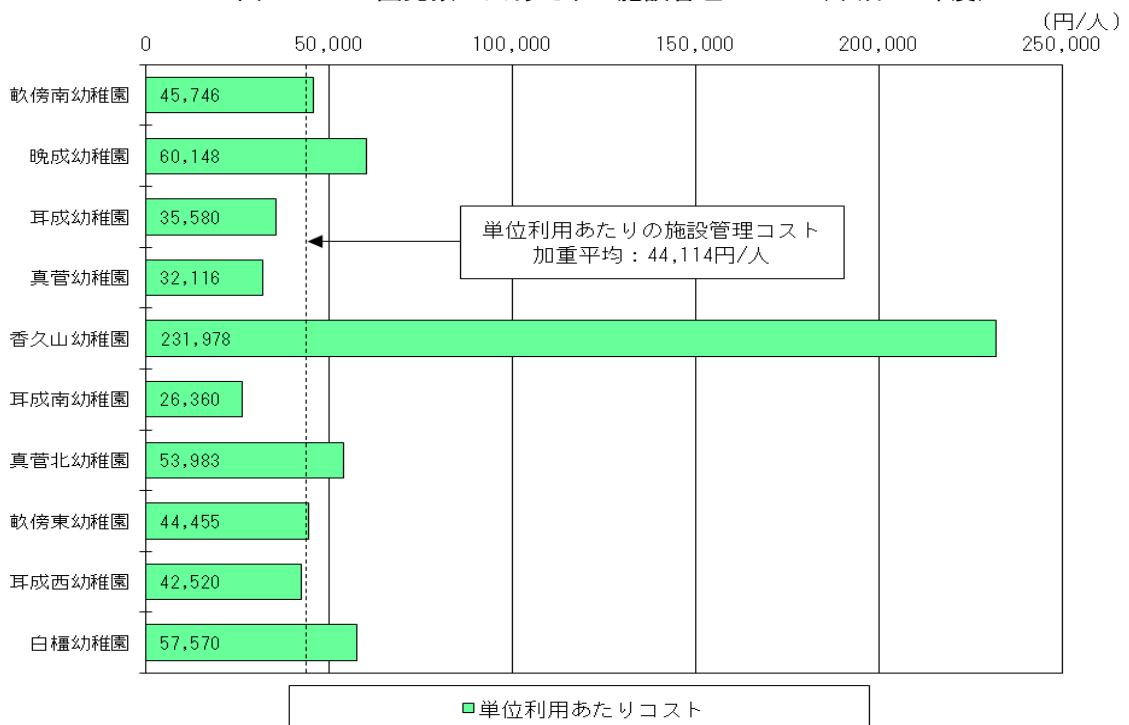


図 4-2-58 園児数 1 人あたりの施設管理コスト (平成 25 年度)





## 2) こども園（幼稚園・保育所）

### ① 概要

本市では、こども園を5園設置しています。

こども園は、幼稚園と保育所が連携を強化し、総合的な子育て施策の展開と体制の構築を図るため、幼稚園と保育所を並存させつつ一体的に運営する市独自の施設であり、幼稚園の園児と保育所の児童と一緒に教育・保育を受ける場となっています。

第3こども園（金橋保育所）・第5こども園（川西保育所）は幼稚園との一体園のため、同一施設となります。そのため、第3こども園（金橋保育所）・第5こども園（川西保育所）の延床面積は0としています。



< 第3こども園（金橋幼稚園・金橋保育所） >

表 4-2-17 こども園（幼稚園・保育所）の概要

No.	基礎情報					コスト情報（万円）			収入（万円）
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積（㎡）	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
105	第1こども園（藤原京保育所）	四分町285-1	1996	RC2	1,176.57	520	33	96	142
106	第1こども園（鴨公幼稚園）	縄手町324	1974	RC2	1,199.06	49	18	96	32
107	第2こども園（今井保育所）	今井町3-3-12	2000	RC2	1,139.77	605	21	96	275
108	第2こども園（今井幼稚園）	今井町2-11-8	1979	RC2	956.23	386	15	96	16
109	第3こども園（金橋幼稚園）	雲梯町289-2	1985	RC1	1,773.69	549	73	96	50
110	第3こども園（金橋保育所）	雲梯町289-2	1985	RC1	0.00	0	0	0	131
111	第4こども園（大久保保育所）	大久保町206	1990	RC2	1,075.03	435	43	96	105
112	第4こども園（畝傍北幼稚園）	大久保町152	1981	RC2	1,347.36	208	3	61	32
113	第5こども園（新沢幼稚園）	川西町581-1	1981	RC2	1,739.77	131	23	61	15
114	第5こども園（川西保育所）	川西町581-1	1981	RC2	0.00	0	0	0	0

### ② 建物の状況

延床面積をみると、約960～1,780㎡となっています。

主要な棟が最も古い第1こども園（鴨公幼稚園）では築40年を経過しており、今後の修繕などの費用が増加することが想定されます。

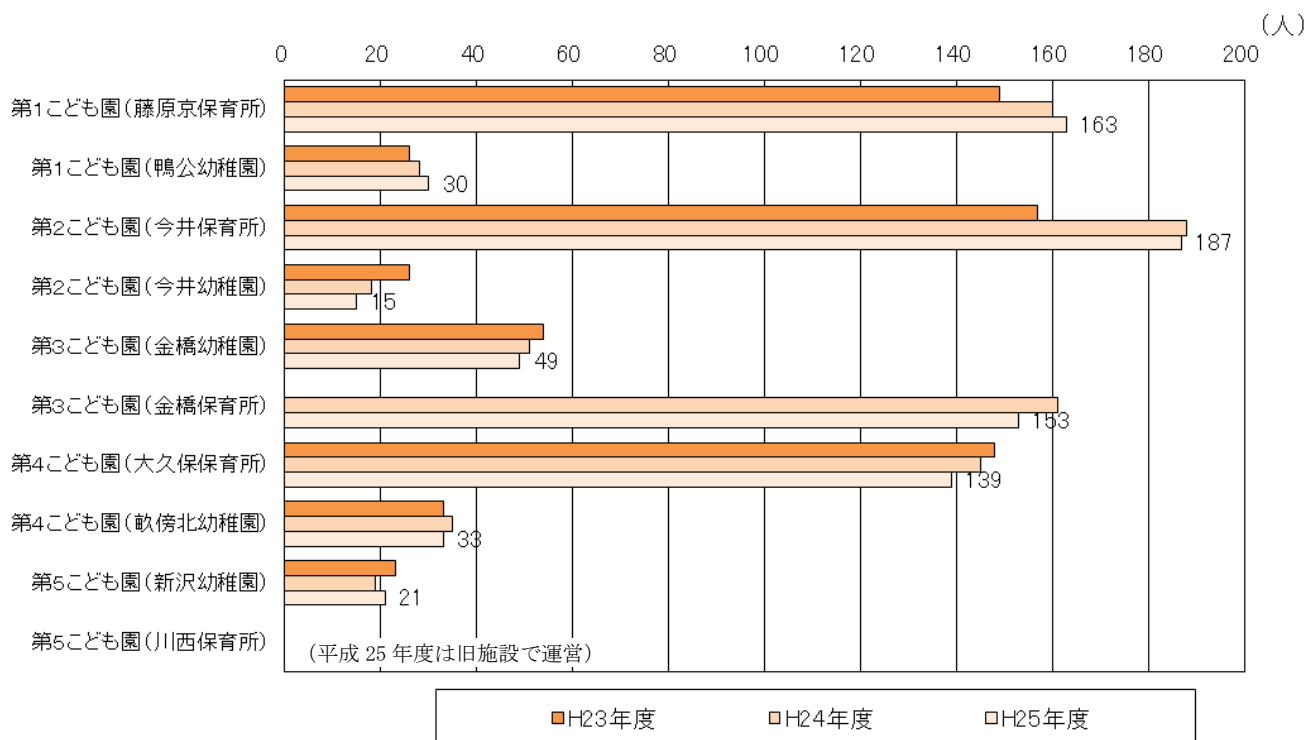
全施設とも耐震改修により耐震性が確保されています。

### ③ 利用の状況

平成 25 年度の児童数をみると、第 2 こども園（今井保育所）が 187 人（うち 76 人は今井幼稚園に通園）と多く、次いで第 1 こども園（藤原京保育所）163 人（うち 71 人は鴨公幼稚園に通園）、第 3 こども園（金橋保育所）が 153 人、第 4 こども園（大久保保育所）139 人と保育所での児童数が多くなっています。第 5 こども園（川西保育所）については、平成 25 年度時点では旧施設で運用していたため対象から除外しています。

平成 23 年度からの推移をみると、若干の増減はありますが、ほぼ横ばいとなっています。

図 4-2-59 児童数・園児数の推移

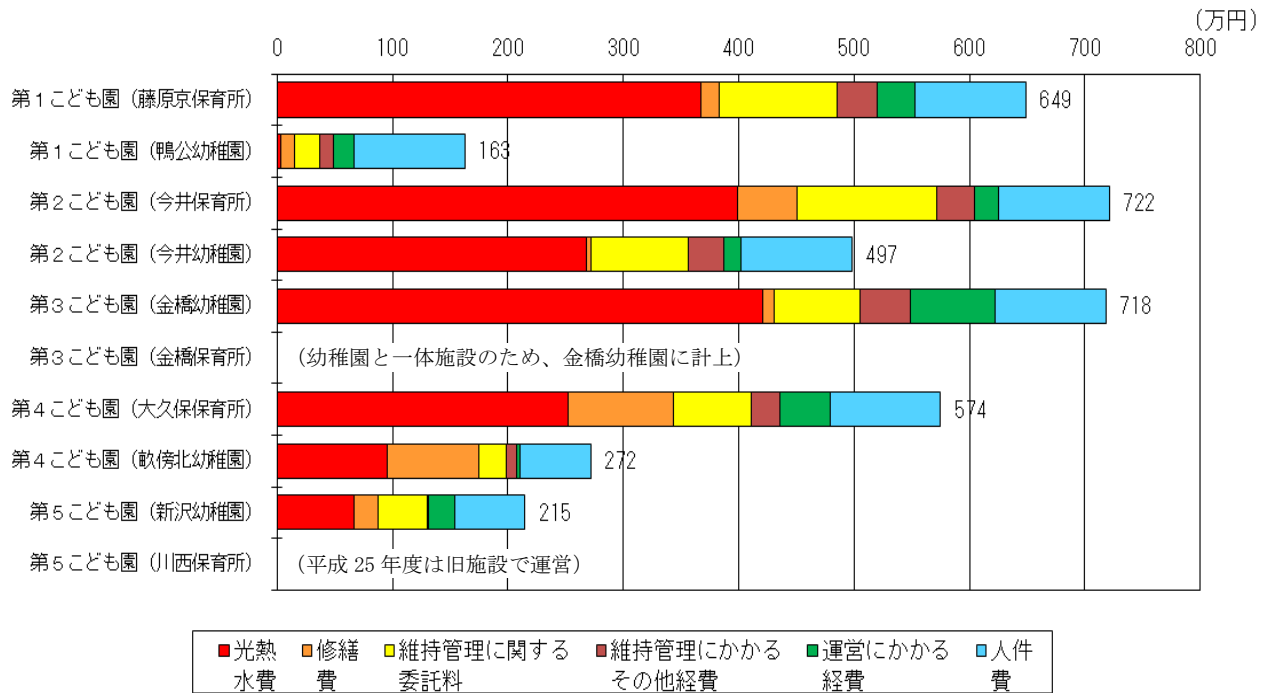


### ④ 施設に関する総費用の状況

平成 25 年度における施設に関する費用をみると、保育時間が長く、児童数が多い保育所の費用が高くなっています。

第 3 こども園については、保育所と幼稚園の一体施設となっており不可分なため、費用は金橋幼稚園に計上しています。鴨公幼稚園の光熱水費については鴨公小学校で計上されていますので、費用は低く表れています。川西保育所については、平成 25 年度時点では旧施設での運営となっていましたので、ここでは表れていません。

図 4-2-60 施設に関する費用と内訳（平成 25 年度）



### ⑤ 単位あたりのコストの状況

平成 25 年度の施設管理コストを延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりで見ると、全施設の平均では 3,658 円となっていますが、最も高い第 2 こども園 (今井保育所) 6,325 円は、最も低い第 5 こども園 (新沢幼稚園) 1,238 円の約 5.1 倍と、保育所は大きく、幼稚園は小さくなっています。また、幼稚園のうち、調理室が設置されている第 2 こども園 (今井幼稚園) と第 3 こども園 (金橋幼稚園) は大きく、調理室がない幼稚園は小さくなっています。なお、第 2 こども園 (今井保育所) は唯一ガス暖房設備のため、単位あたりコストは他園に比べて大きくなっています。

児童数又は園児数 1 人あたりで見ると、全施設の平均は 48,194 円となっていますが、平成 25 年度時点では、こども園としての運用が始まっていなかったため、通園が幼稚園児のみであった第 4 こども園 (畝傍北幼稚園)・第 5 こども園 (新沢幼稚園) が高いのに対し、他の施設については、施設設備の配置状況や一体施設であるかなどによって差が出ています。

図 4-2-61 延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）

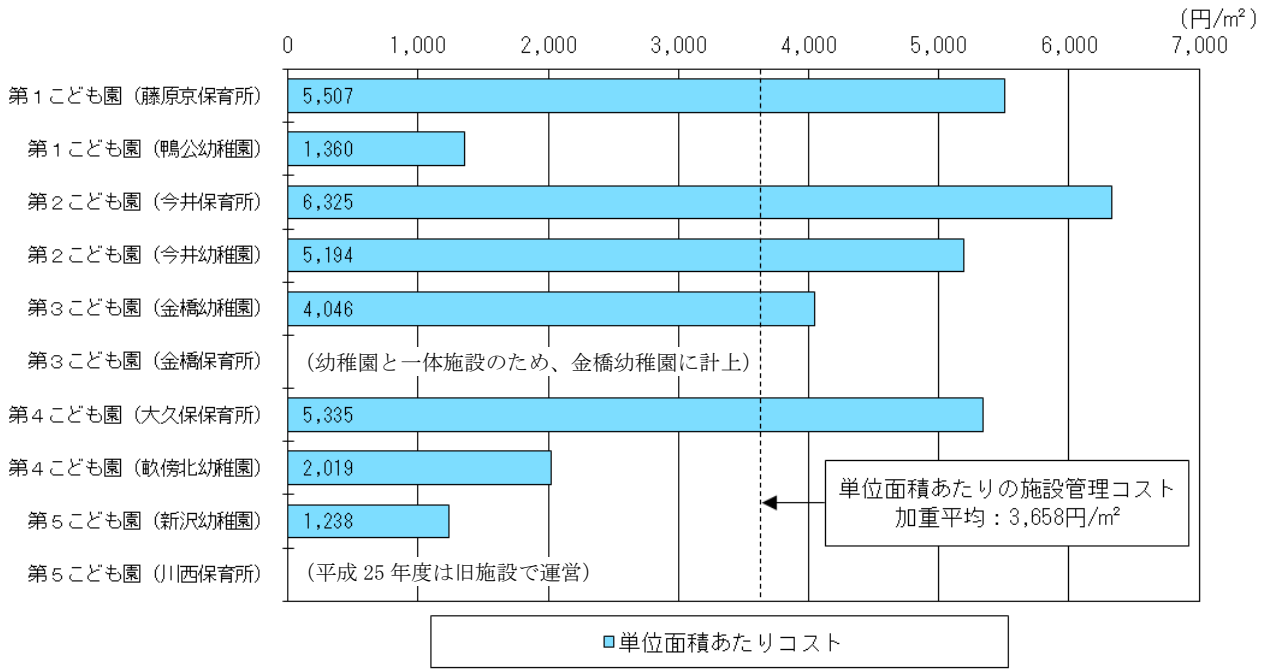
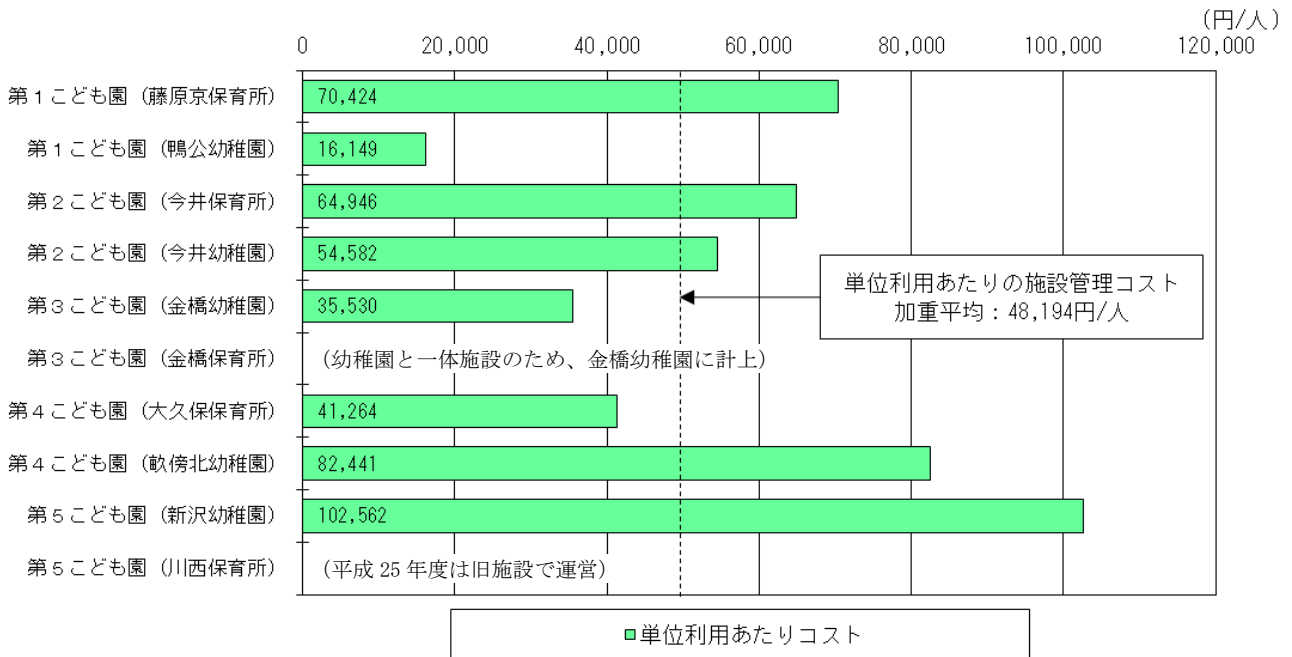


図 4-2-62 児童数又は園児数 1 人あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）



### 3) 児童施設（児童館）

#### ① 概要

本市では、児童施設（児童館）を3箇所を設置しています。

児童館では、地域社会における児童生徒の活動拠点として、健全な遊びを通して、子供の成長を支援し、児童の人権尊重の精神を養うとともに、これらの児童の健全な育成を目指した活動を行っています。



< 大久保児童館 >

表 4-2-18 児童施設（児童館）の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
115	飛騨児童館	飛騨町94-2	1980	RC2	493.32	91	2	150	0
116	大久保児童館	大久保町15-1	1978	RC2	325.00	111	22	121	0
117	白檀児童センター	白檀町8-19-2	1998	RC1	763.59	94	86	73	0

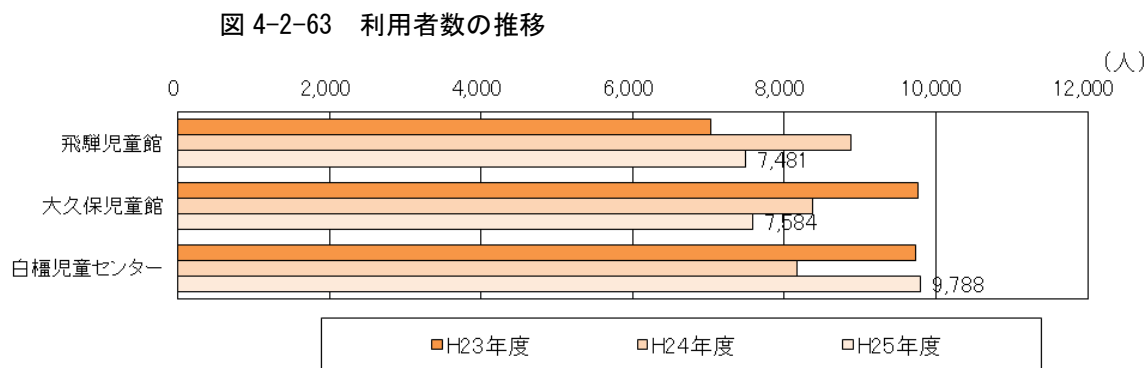
#### ② 建物の状況

大久保児童館は旧耐震基準の建築ですが、耐震診断の結果、耐震性は確保されています。白檀児童センターは、旧白檀南幼稚園を改修して平成21年度より運営しています。

#### ③ 利用の状況

平成25年度の利用者数をみると、白檀児童センターが9,788人、大久保児童館が7,584人、飛騨児童館が7,481人となっています。

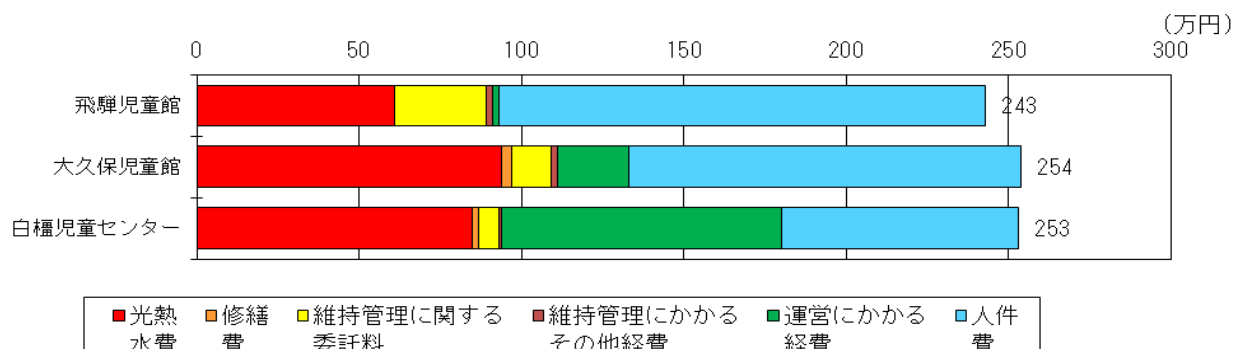
平成23年度からの推移をみると、年度によりばらつきが大きいものの、大久保児童館で減少傾向がみられます。



#### ④ 施設に関する総費用の状況

平成 25 年度における施設に関する費用をみると、いずれの施設も 250 万円前後となっており、光熱水費や人件費などが多くを占めています。

図 4-2-64 施設に関する費用と内訳（平成 25 年度）



#### ⑤ 単位あたりのコストの状況

平成 25 年度の施設管理コストを延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりでみると、全施設の平均では 4,739 円となっていますが、最も高い大久保児童館（7,809 円）は、最も低い白樺児童センター（3,318 円）の約 2.4 倍と、施設によって差がみられます。

利用者 1 人あたりでみると、全施設の平均では 302 円となっており、大久保児童館（335 円）で最も高くなっています。

図 4-2-65 延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）

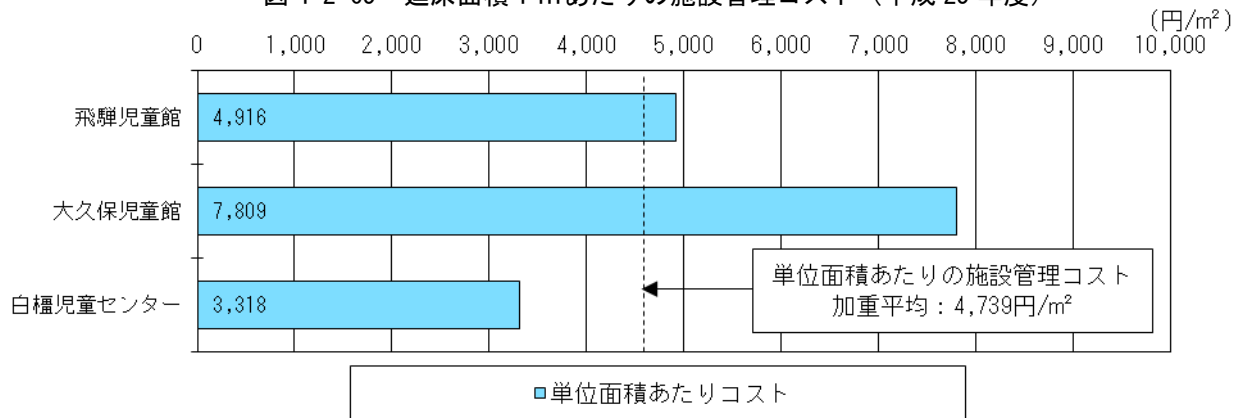
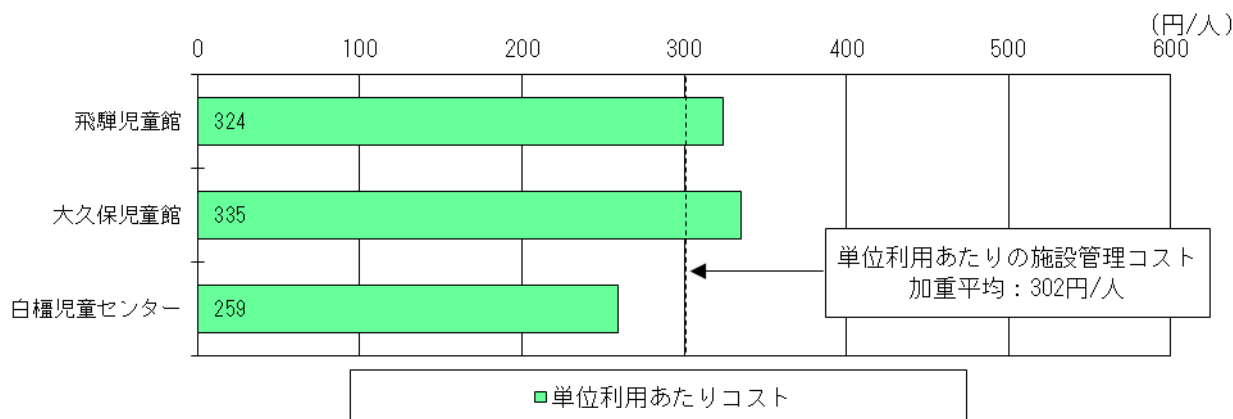


図 4-2-66 利用者 1 人あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）



## 4) 児童施設（放課後児童健全育成施設）

### ① 概要

本市では、保護者が就労などによって昼間家庭にいない場合、授業の終了後に適切な遊びや生活の場を提供し、児童の健全な育成を図るため、放課後児童健全育成施設（児童クラブ）を18箇所に設置しています。



＜ 畝傍東小学校区第3放課後児童健全育成施設 ＞

表 4-2-19 児童施設（放課後児童健全育成施設）の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
118	耳成小学校区放課後児童健全育成施設	葛本町757-2	2005	LS2	185.06	0	558	0	360
119	耳成南小学校区放課後児童健全育成施設	山之坊町109-5	2001	LS1	66.10	0	588	0	385
120	耳成南小学校区第2放課後児童健全育成施設	常盤町3	1980	RC2	163.80	20	588	0	385
121	晩成小学校区放課後児童健全育成施設	小房町1-23	2008	LS2	148.35	0	415	0	265
122	畝傍北小学校区放課後児童健全育成施設	大久保町15-1	1978	RC2	136.50	0	379	0	253
123	畝傍東小学校区放課後児童健全育成施設	石川町1520-305	2003	LS1	97.20	0	594	0	390
124	畝傍東小学校区第2放課後児童健全育成施設	石川町1520-305	2008	LS1	46.73	0	594	0	390
125	畝傍東小学校区第3放課後児童健全育成施設	石川町513-1	2013	LS2	148.36	0	0	0	0
126	真菅北小学校区放課後児童健全育成施設	大垣町233	2011	LS2	148.36	0	428	0	383
127	真菅北小学校区第2放課後児童健全育成施設	大垣町227	1975	S1	88.00	0	0	0	0
128	真菅小学校区放課後児童健全育成施設	曾我町719-2	1982	S1	302.09	25	546	0	355
129	金橋小学校区放課後児童健全育成施設	雲梯町926-2	2003	LS1	117.57	0	579	0	377
130	白檀校区放課後児童健全育成施設	白檀町8-19-2	1998	RC1	64.00	0	218	0	137
131	新沢小学校区放課後児童健全育成施設	川西町140-1	1999	RC2	731.14	15	379	0	245
132	今井小学校区放課後児童健全育成施設	今井町3-3-12	2000	RC2	51.84	0	259	0	165
133	鴨公小学校区放課後児童健全育成施設	醍醐町42-2	2000	RC2	83.01	0	331	0	196
134	耳成西小学校区放課後児童健全育成施設	上品寺町328-1	2003	LS1	115.93	0	398	0	366
135	耳成西小学校区第2放課後児童健全育成施設	上品寺町328-1	2012	W1	46.58	32	418	0	279

### ② 建物の状況

延床面積をみると約 100～150 m<sup>2</sup>程度の施設が多くなっています。鉄骨造や軽量鉄骨造などで建てられたものが多く、軽微な施設となっています。

なお、耳成南小学校区第2放課後児童健全育成施設、畝傍北小学校区放課後児童健全育成施設、真菅北小学校区第2放課後児童健全育成施設、白檀校区放課後児童健全育成施設、今井小学校区放課後児童健全育成施設、鴨公小学校区放課後児童健全育成施設の6施設は小学校や子ども園、地区公民館、児童館などの施設内で運営しています。

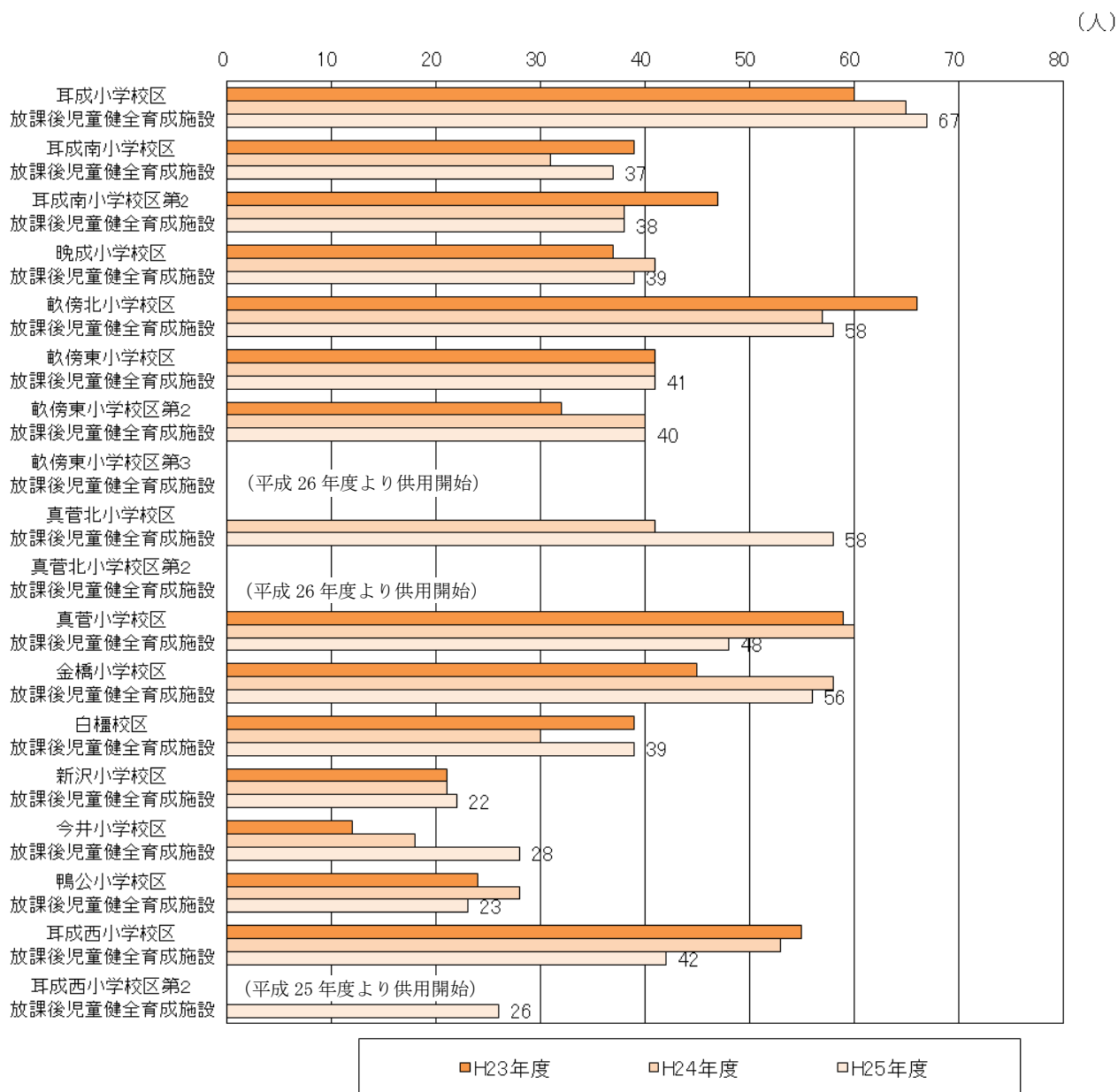
### ③ 利用の状況

平成 25 年度の在籍児童数をみると、耳成小学校区放課後児童健全育成施設が 67 人と多く、次いで真菅北小学校区放課後児童健全育成施設と畝傍北小学校区放課後児童健全育成施設が 58 人、金橋小学校区放課後児童健全育成施設が 56 人となっています。

耳成西小学校区第 2 放課後児童健全育成施設は平成 25 年度から、畝傍東小学校区第 3 放課後児童健全育成施設・真菅北小学校区第 2 放課後児童健全育成施設は平成 26 年度からそれぞれ供用開始しています。

平成 23 年度からの推移をみると、年度や校区によるばらつきがみられますが、耳成小学校区や畝傍東小学校区、今井小学校区などでは増加傾向がみられます。

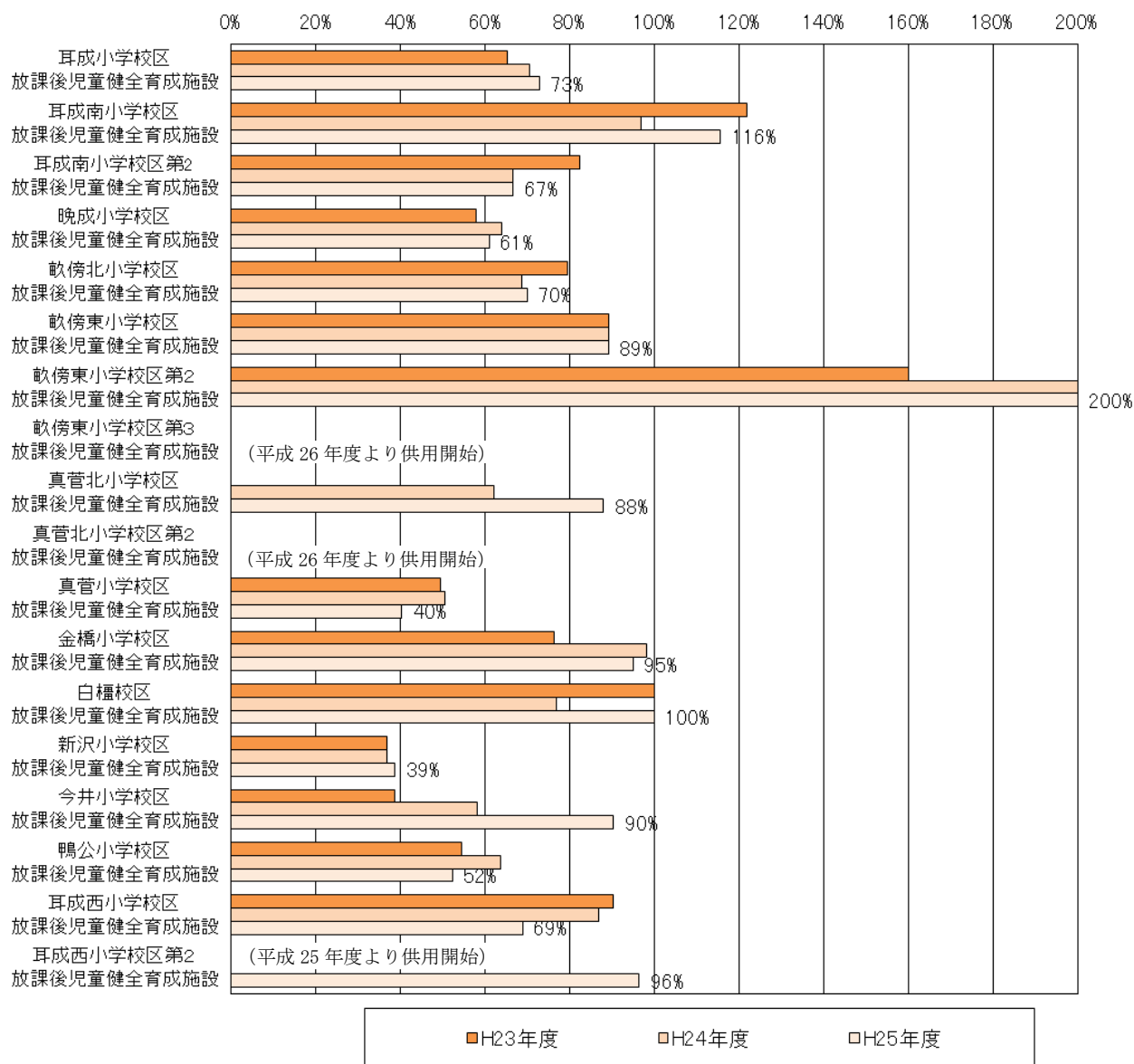
図 4-2-67 在籍児童数の推移





平成 25 年度の定員充足率（定員に対する在籍児童数の割合）をみると、畝傍東小学校第 2 放課後児童健全育成施設で定員の 2 倍に達しており、平成 26 年度に新たに畝傍東小学校第 3 放課後児童健全育成施設が設置され、運営されています。

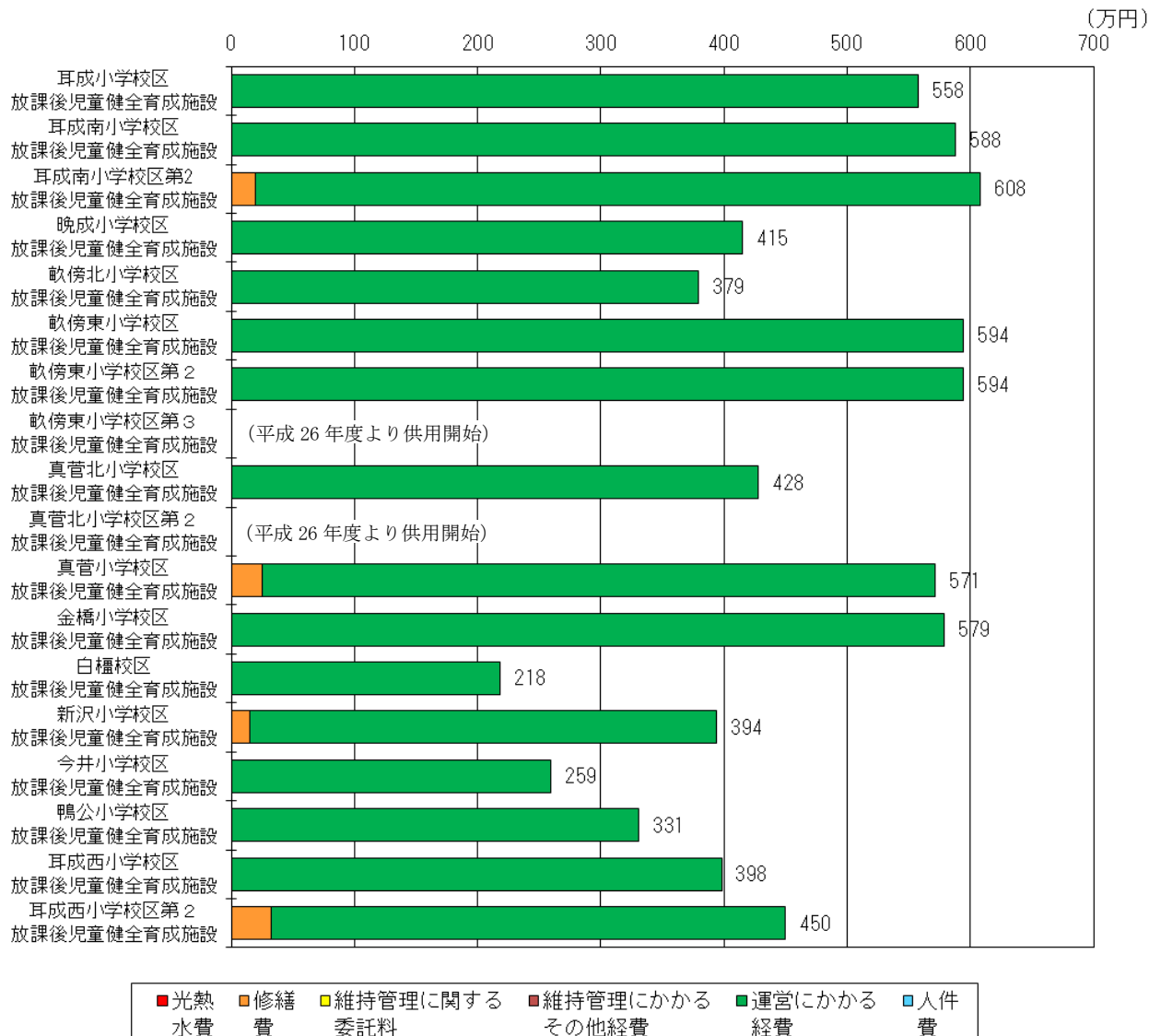
図 4-2-68 定員充足率（児童数／定員数）の推移



#### ④ 施設に関する総費用の状況

平成 25 年度における施設に関する費用をみると、一部の施設を除き、運営にかかる経費のみとなっています。

図 4-2-69 施設に関する費用と内訳（平成 25 年度）



## ⑤ 単位あたりのコストの状況

平成 25 年度の施設管理コストを延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりで見ると、全施設の平均では 35,617 円となっていますが、最も高い畷傍東小学校区第 2 放課後児童健全育成施設 (127,199 円) は、最も低い真菅小学校区放課後児童健全育成施設 (18,882 円) の約 6.7 倍と、施設によって差がみられます。なお、新沢小学校区放課後児童健全育成施設の延床面積については、平成 25 年度時点での利用面積 (58 m<sup>2</sup>) で計算しています。

在籍児童数 1 人あたりで見ると全施設の平均は 111,236 円となっていますが、最も高い新沢小学校区放課後児童健全育成施設 (179,000 円) は、最も低い白樫校区放課後児童健全育成施設 (55,872 円) の約 3.2 倍と、施設によって差がみられます。在籍児童数が多い施設や児童館に併設されている施設は施設管理コストが低くなり、在籍児童数が少ない施設は施設管理コストが高くなっています。

図 4-2-70 延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの施設管理コスト (平成 25 年度)

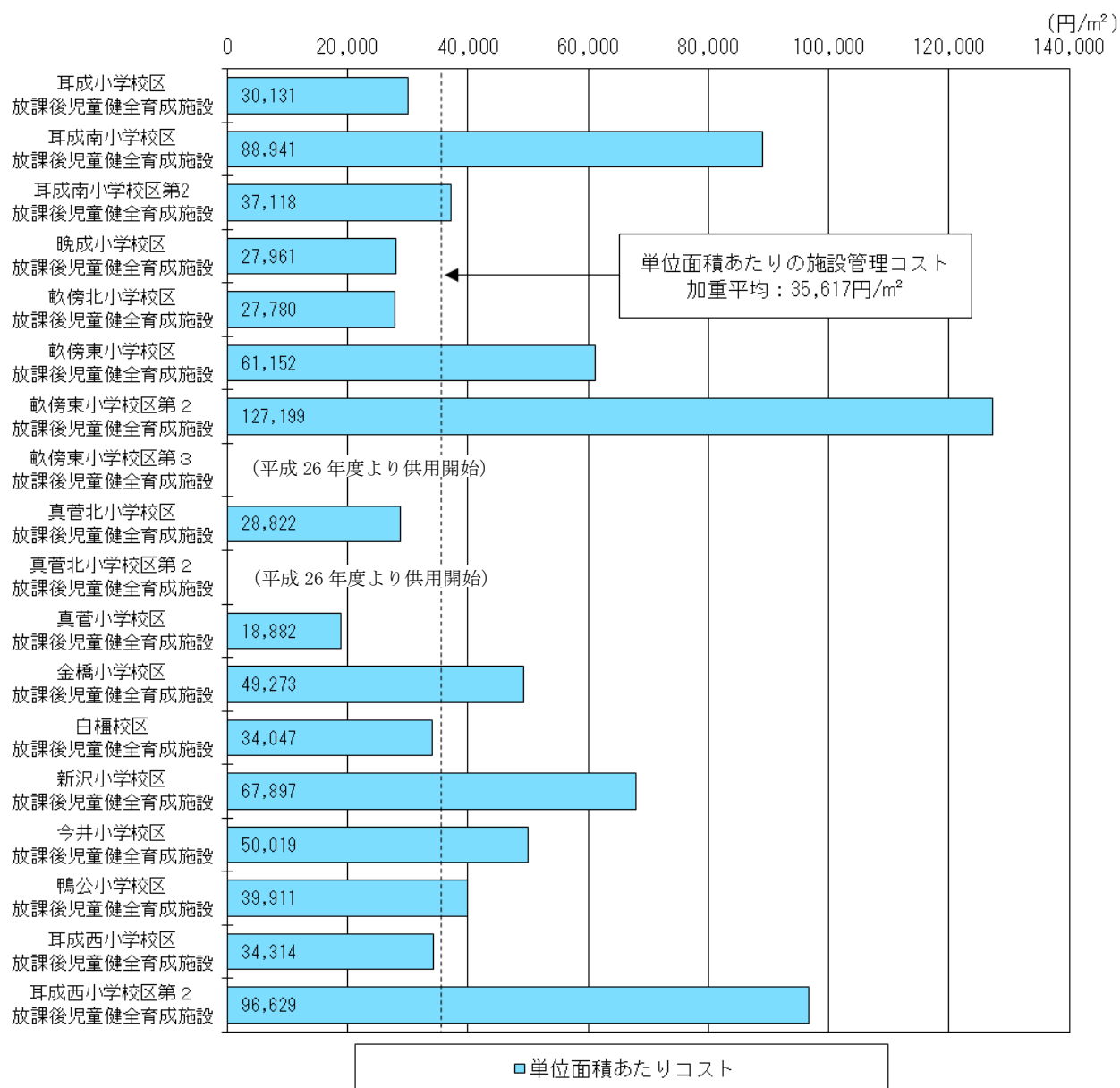
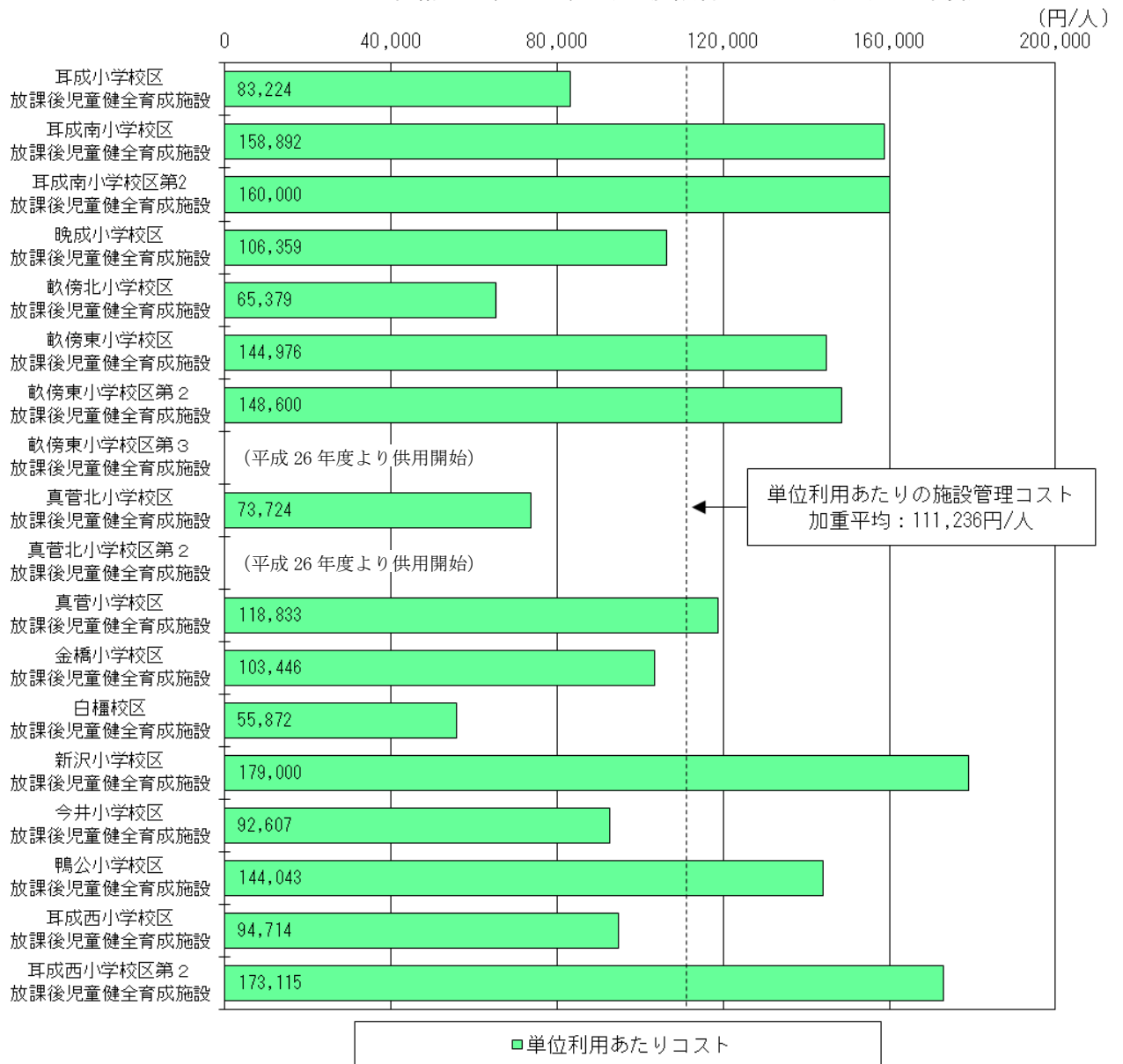


図 4-2-71 在籍児童数 1 人あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）



## 5) 子育て施設

### ① 概要

本市では、子育て施設を2箇所に設置しています。

こども広場と子育て支援センターは、乳幼児とその保護者が相互の交流を行う場所として、子育てについての相談、情報の提供、助言、その他の援助を行っています。

こども広場は、檀原市観光交流センター内にて平成23年度より運営、子育て支援センターは、旧白檀南幼稚園を改修して平成21年度より運営しています。



＜ 白檀児童センター・子育て支援センター ＞

表 4-2-20 子育て施設の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
136	檀原市観光交流センター(こども広場)	内膳町1-6-8	2010	RC5	349.06	0	80	0	65
137	子育て支援センター	白檀町8-19-2	1998	RC1	254.40	28	9	73	0

### ② 建物の状況

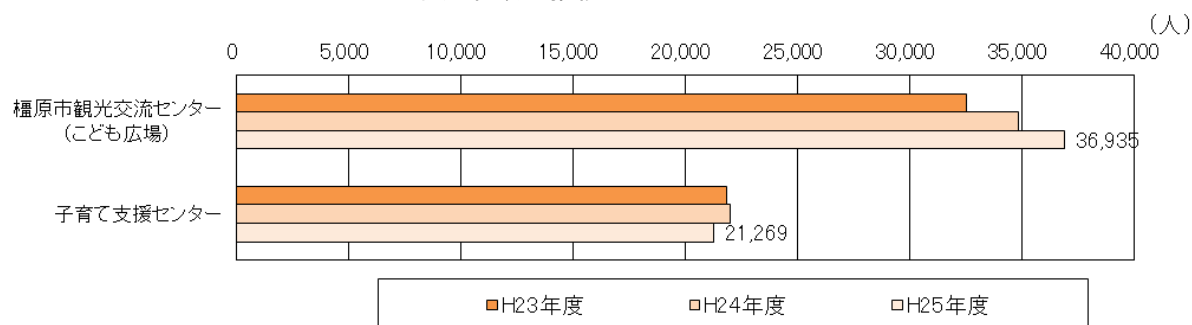
延床面積をみると、約250m<sup>2</sup>～350m<sup>2</sup>となっています。どちらの施設も耐震性が確保されています。

### ③ 利用の状況

平成25年度の利用者数をみると、こども広場では36,935人、子育て支援センターで21,269人となっています。

平成23年度からの推移をみると、こども広場では増加傾向がみられ、子育て支援センターはほぼ横ばいとなっています。

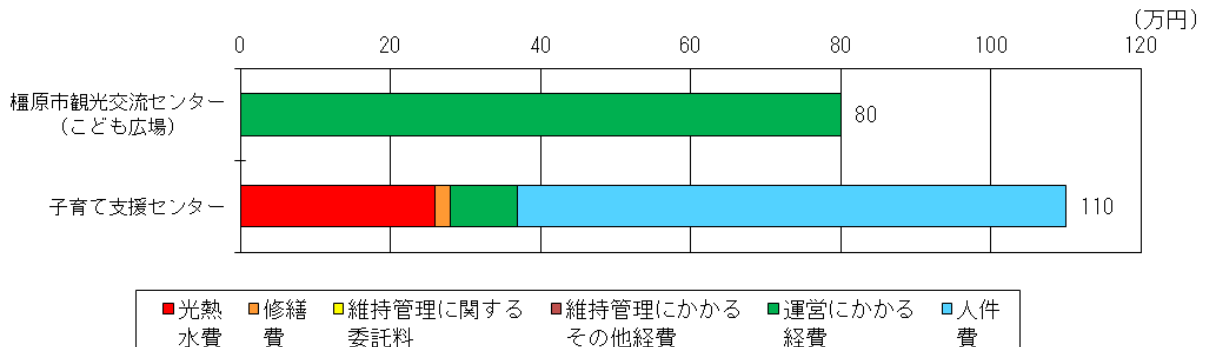
図 4-2-72 利用者数の推移



#### ④ 施設に関する総費用の状況

平成 25 年度における施設に関する費用をみると、子育て支援センターの費用（110 万円）は施設管理の人件費が 6 割以上を占めています。こども広場についての費用（80 万円）は施設運営にかかる費用を計上しており、施設維持管理にかかる費用は橿原市観光交流センター（観光センター）で一括計上しています。

図 4-2-73 施設に関する費用と内訳（平成 25 年度）



#### ⑤ 単位あたりのコストの状況

平成 25 年度の施設管理コストを延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりでみると、平均では 3,158 円となっていますが、子育て支援センター（4,339 円）は、こども広場（2,298 円）の約 1.9 倍となっています。

利用者 1 人あたりでみると、平均では 33 円となっていますが、子育て支援センター（52 円）は、こども広場（22 円）の約 2.4 倍となっています。

図 4-2-74 延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）

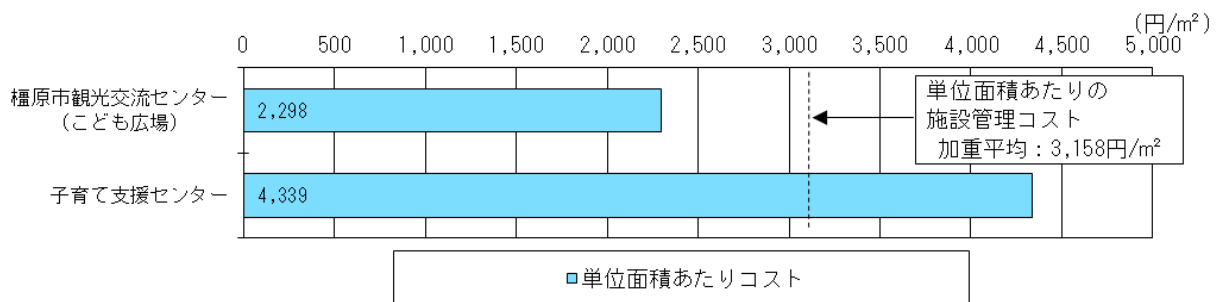
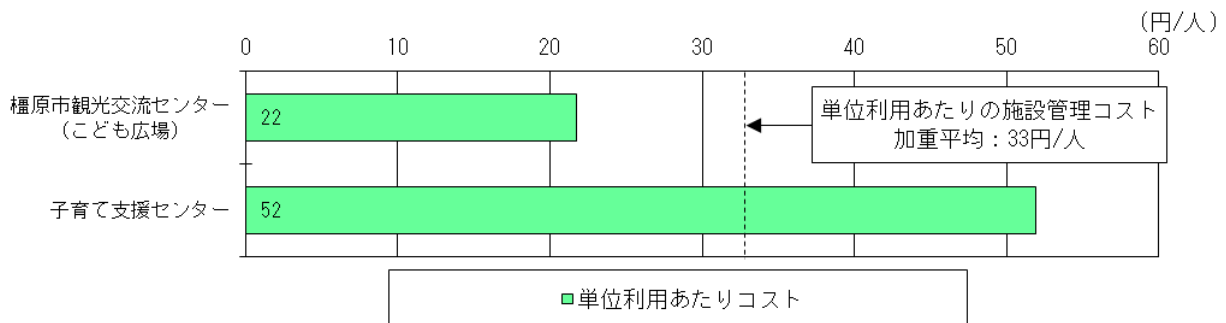


図 4-2-75 利用者 1 人あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）



## (6) 保健・福祉施設

### 1) 高齢者福祉施設（デイサービス）

#### ① 概要

本市では、高齢者福祉施設（デイサービス）を3箇所に設置しています。

デイサービスセンターは、65歳以上の高齢者や障がい者が自立した日常生活を営むことができるよう、生活指導（相談）や機能訓練、介護サービス、入浴サービス、給食サービスなどを実施しています。

3施設共に、指定管理者制度を導入しています。

一定金額以上の修繕費については、市から支出し、施設の使用料相当分を収入しています。



< 鴨公デイサービスセンター >

表 4-2-21 高齢者福祉施設（デイサービス）の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
138	鴨公デイサービスセンター	醍醐町42-2	2000	RC2	657.23	4	0	0	36
139	今井デイサービスセンター	今井町3-3-12	2000	RC2	488.48	200	0	0	245
140	やわらぎの郷デイサービスセンター	十市町63-1	1996	RC2	321.00	37	0	0	155

#### ② 建物の状況

延床面積をみると約320～660㎡となっています。

比較的新しい施設で、最も古いやわらぎの郷デイサービスセンターで築19年となっています。

鴨公デイサービスセンターは鴨公地区公民館及び鴨公小学校区放課後児童健全育成施設と、今井デイサービスセンターは第2こども園（今井保育所）と、やわらぎの郷デイサービスセンターは橿原市福祉センターやわらぎの郷（入浴施設）と、それぞれ複合施設として運営しています。

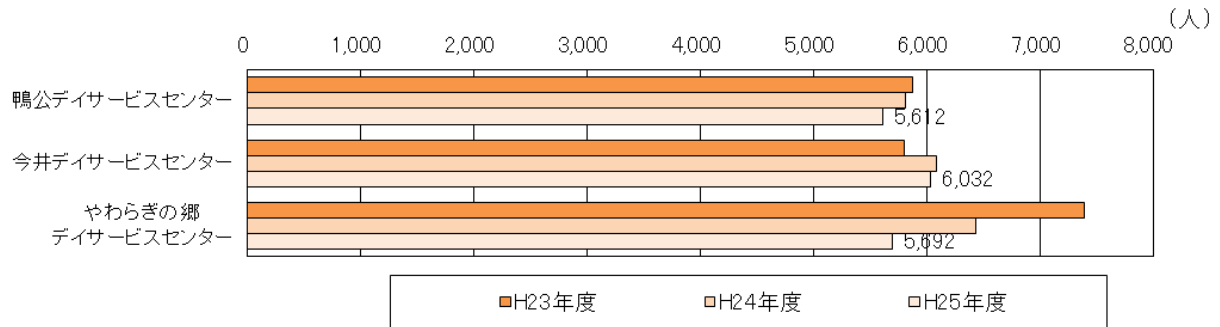
いずれの施設も耐震性が確保されています。

### ③ 利用の状況

平成 25 年度の利用者数をみると、今井デイサービスセンターが 6,032 人、やわらぎの郷デイサービスセンターが 5,692 人、鴨公デイサービスセンターが 5,612 人と、ほぼ同程度の利用状況となっています。

平成 23 年度からの推移をみると、利用者数については横ばいとなっています。

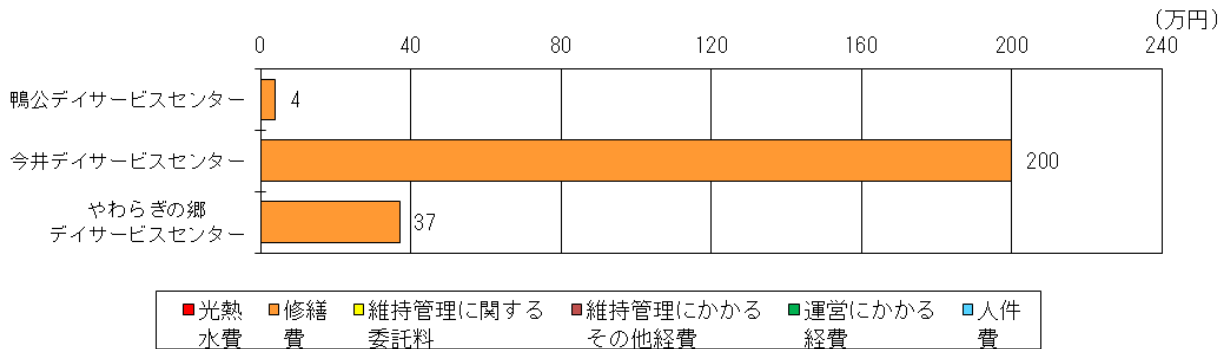
図 4-2-76 利用者数の推移



### ④ 施設に関する総費用の状況

デイサービスセンターについては、一定金額以上の修繕費が発生した場合は市から支出し、施設の使用料相当分を指定管理者より収入しています。よって、平成 25 年度については、今井デイサービスセンターの修繕費が多かったといえます。

図 4-2-77 施設に関する費用と内訳（平成 25 年度）





## 2) 高齢者福祉施設（その他福祉施設）

### ① 概要

本市では、高齢者福祉施設（その他福祉施設）を3箇所を設置しています。

老人福祉センター千寿荘は、高齢者の健康の増進、教養の向上及びレクリエーションなどを目的として設置していますが、平成27年度末をもって閉館する予定です。

老人憩いの家は、地域の高齢者を主な対象として、心身の健康の増進、教養の向上、レクリエーションの場として提供しています。



＜ 老人福祉センター千寿荘 ＞

表 4-2-22 高齢者福祉施設（その他福祉施設）の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
141	老人福祉センター千寿荘	川西町858-1	1978	RC2	1,763.10	3,381	198	2,273	16
142	飛騨町老人憩いの家	飛騨町79	1984	RC1	245.00	114	3	205	0
143	大久保町老人憩いの家	大久保町200-1	1991	RC2	358.32	65	0	56	0

### ② 建物の状況

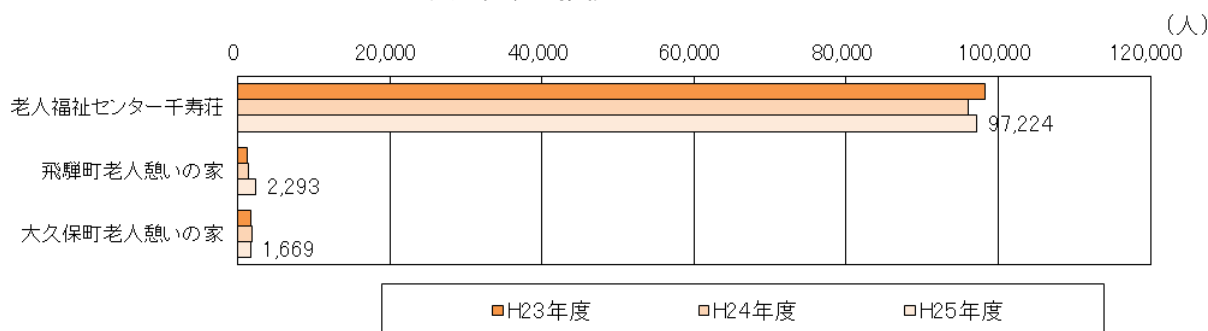
延床面積をみると、老人福祉センター千寿荘は約1,760 m<sup>2</sup>、飛騨町・大久保町老人憩いの家は約250～300 m<sup>2</sup>となっています。

### ③ 利用の状況

平成25年度の利用者数をみると、老人福祉センター千寿荘で97,224人、飛騨町老人憩いの家が2,293人、大久保町老人憩いの家が約1,669人となっています。

平成23年度からの推移をみると、飛騨町老人憩いの家で増加傾向がみられます。

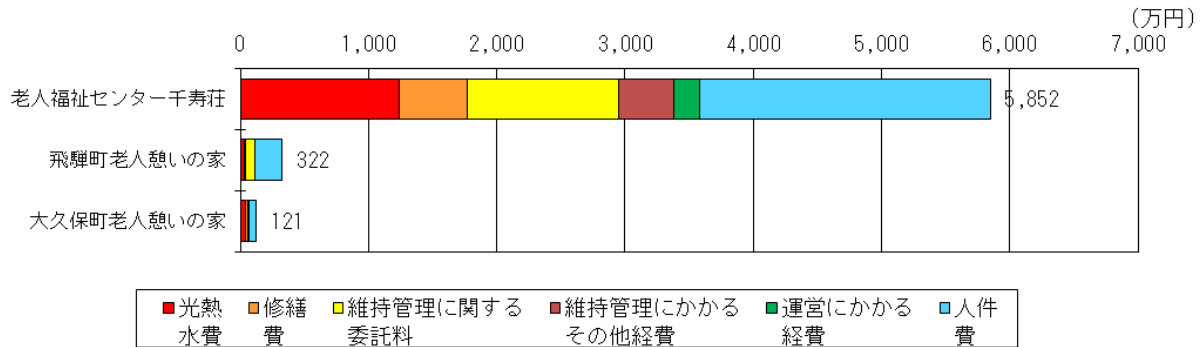
図 4-2-78 利用者数の推移



#### ④ 施設に関する総費用の状況

平成 25 年度における施設に関する費用をみると、最も高い老人福祉センター千寿荘（5,852 万円）から、最も低い大久保町老人憩いの家（122 万円）まで、施設によって大きく差がみられます。

図 4-2-79 施設に関する費用と内訳（平成 25 年度）



#### ⑤ 単位あたりのコストの状況

平成 25 年度の施設管理コストを延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりで見ると、全施設の平均では 26,601 円となっていますが、平成 25 年度の利用者数が最も多い老人福祉センター千寿荘（33,190 円）が最も高く、最も低い大久保老人憩いの家（3,396 円）の約 9.8 倍と、施設によって差がみられます。

利用者 1 人あたりで見ると、全施設の平均では 622 円となっていますが、飛騨町老人憩いの家（1,402 円）で最も高くなっています。

図 4-2-80 延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）

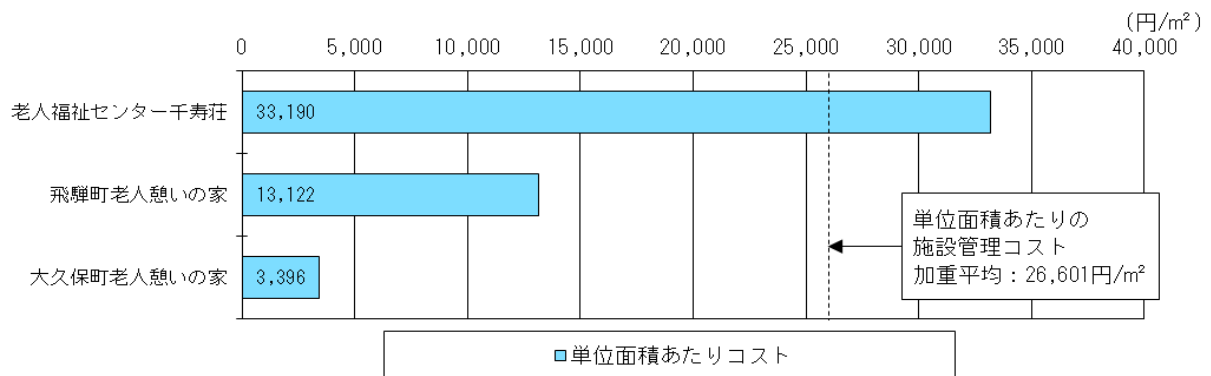
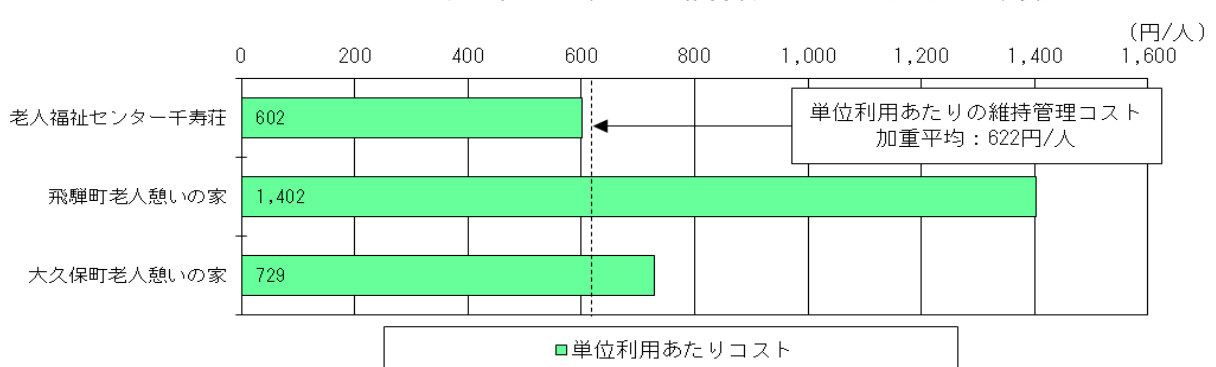


図 4-2-81 利用者 1 人あたりの維持管理コスト（平成 25 年度）



### 3) 障がい者福祉施設

#### ① 概要

本市では、保健福祉センター内に障がい者福祉施設を1箇所設置しています。

地域活動支援センターは、障がいのある方の日中活動をサポートする施設であり、仲間との交流、社会適応訓練（個々に応じた創作的活動・生活リズムの訓練など）、自主的な運動など、その方に合った過ごし方ができるようになっています



< 地域活動支援センター >

表 4-2-23 障がい者福祉施設の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
144	保健福祉センター(地域活動支援センター)	畷傍町9-1	1977	RC3	158.26	106	8	0	0

#### ② 建物の状況

保健福祉センター南館にて運営しています。

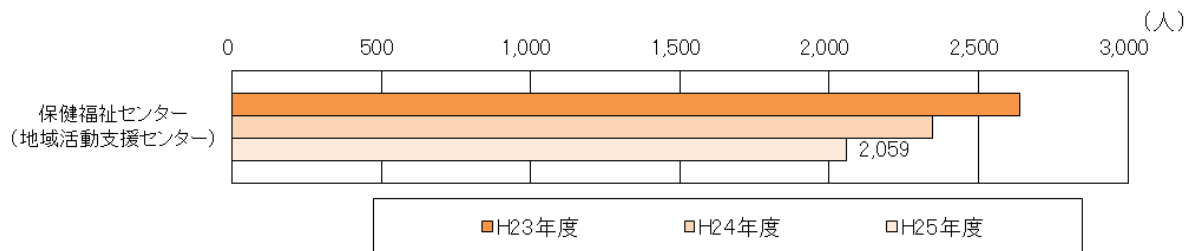
昭和52年度の建築ですが、大規模改修時の耐震改修により耐震性が確保されています。

#### ③ 利用の状況

平成25年度の利用者数をみると、2,059人となっています。

平成23年度からの推移をみると、徐々に減少傾向がみられます。

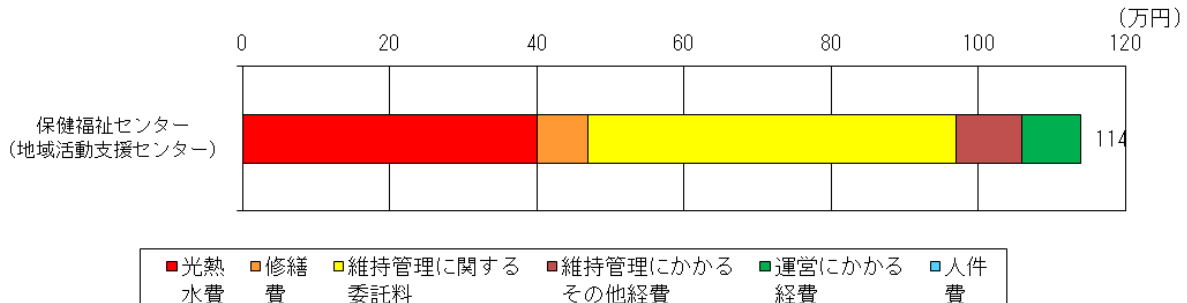
図 4-2-82 利用者数の推移



#### ④ 施設に関する総費用の状況

平成 25 年度における施設に関する費用をみると、114 万円となっています。維持管理に関する委託料と光熱水費が多くを占めており、保健福祉センター全体の維持管理費用を面積按分して計上しています。

図 4-2-83 施設に関する費用と内訳（平成 25 年度）



#### ⑤ 単位あたりのコストの状況

平成 25 年度の施設管理コストを延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりで見ると、7,197 円となっています。利用者 1 人あたりで見ると、553 円となっています。

図 4-2-84 延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）

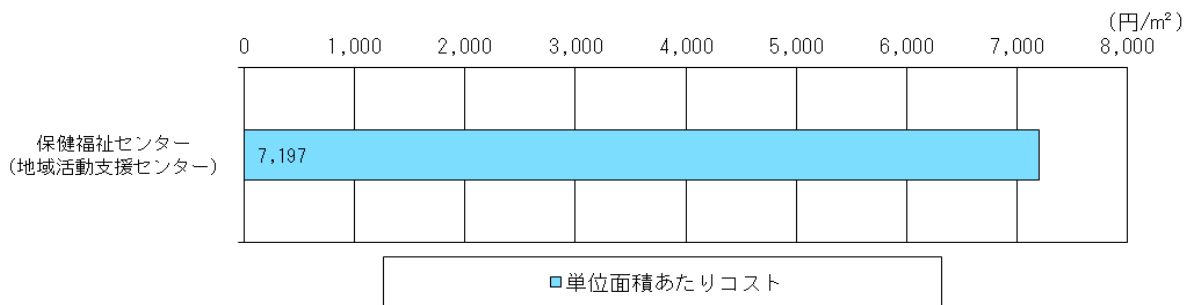
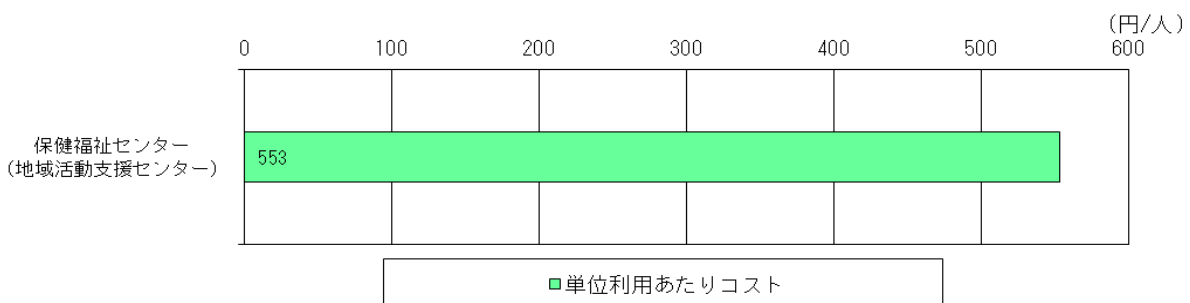


図 4-2-85 利用者 1 人あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）



## 4) レクリエーション施設

### ① 概要

本市では、多世代間のふれあいと交流及びレクリエーションの場を提供し、健康と生きがいをづくりに取り組んでもらうための総合施設として、檀原市福祉センターやわらぎの郷を設置しています。

同施設は高齢者だけでなく、幅広い市民が自ら楽しみ、有意義な時間を過ごせるよう、大浴場や露天風呂などの入浴設備、ゆったりと休憩できる大広間、さらに陶芸や書道などに親しむための教室、図書室などがあります。なお、平成25年度から指定管理者制度を導入しています。



＜ 檀原市福祉センターやわらぎの郷 ＞

表 4-2-24 レクリエーション施設の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
145	檀原市福祉センターやわらぎの郷(入浴施設)	十市町63-1	1996	RC2	2,787.50	100	8,960	0	0

### ② 建物の状況

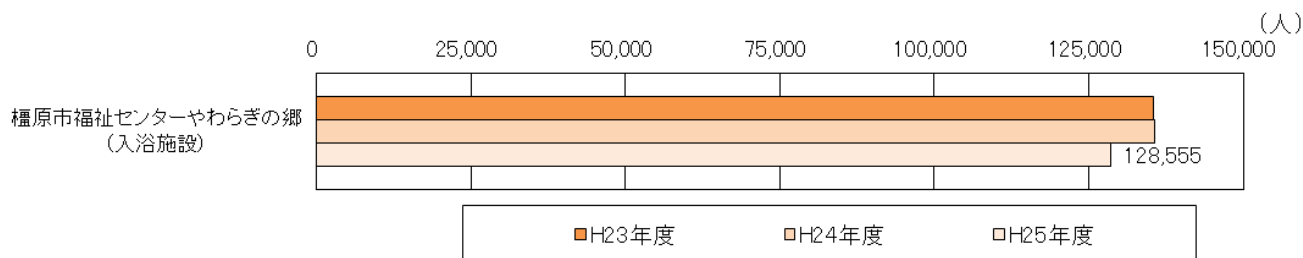
延床面積は約2,790 m<sup>2</sup>で、築18年と比較的新しく、バリアフリー化された施設です。

### ③ 利用の状況

平成25年度の利用者数をみると、128,555人となっています。

平成23年度からの推移をみると、減少傾向がみられます。

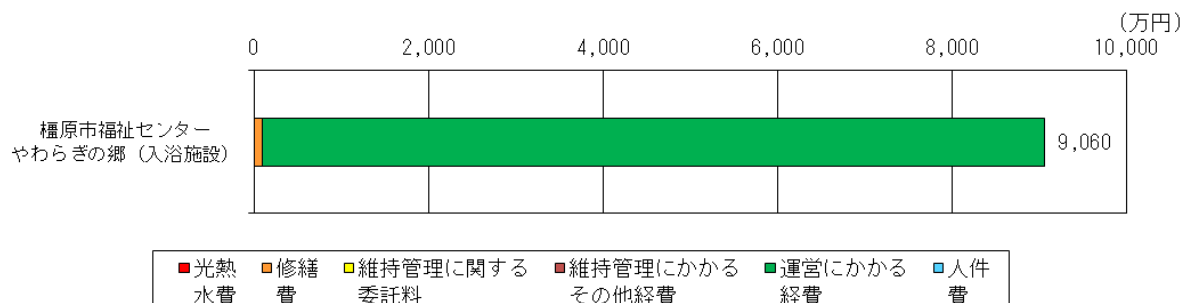
図 4-2-86 利用者数の推移



#### ④ 施設に関する総費用の状況

平成 25 年度における施設に関する費用をみると、9,060 万円となっており、ほぼ指定管理料となっています。

図 4-2-87 施設に関する費用と内訳（平成 25 年度）



#### ⑤ 単位あたりのコストの状況

平成 25 年度の施設管理コストを延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりでみると、32,502 円となっています。利用者 1 人あたりでみると、705 円となっています。

図 4-2-88 延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）

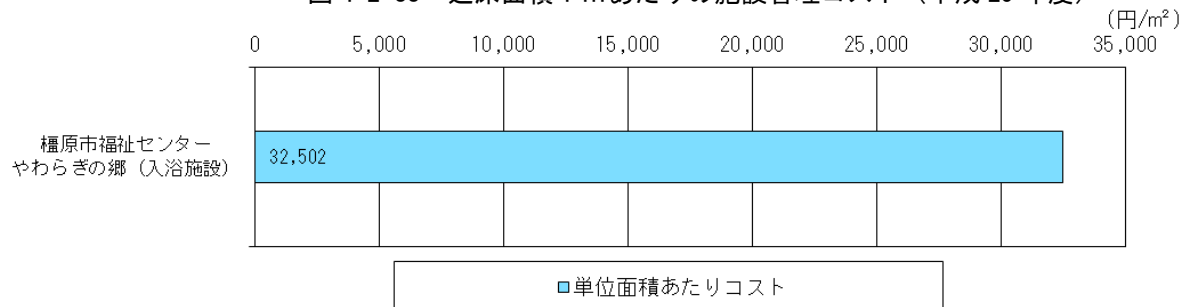
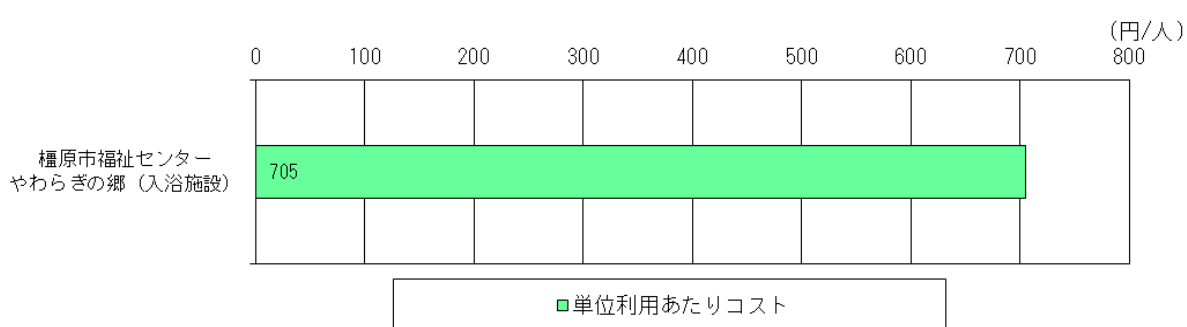


図 4-2-89 利用者 1 人あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）



## 5) 保健施設

### ① 概要

本市では、市民の保健及び福祉活動の総合的な拠点として保健福祉センターを設置しています。

保健福祉センター（北館）には、保健施設のほか、事務所機能も有しています。また、休日夜間応急診療所としても運営しています。



< 保健福祉センター（保健施設） >

表 4-2-25 保健施設の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
146	保健福祉センター(保健施設)	畝傍町9-1	1978	RC5	1,662.63	1,120	613	818	62

### ② 建物の状況

延床面積は約 1,660 m<sup>2</sup>で、築 36 年と古いものの、バリアフリー化された施設です。耐震性は確保されています。

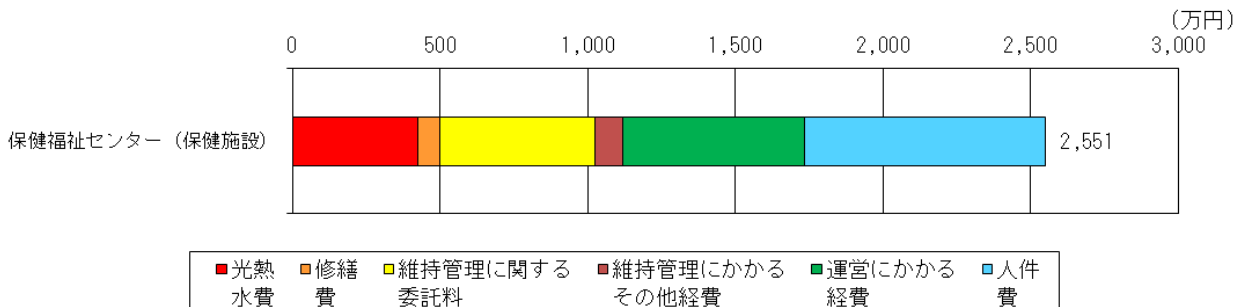
### ③ 利用の状況

利用状況は把握していません。

#### ④ 施設に関する総費用の状況

平成 25 年度における施設に関する費用をみると、2,551 万円となっています。一部借地を含むことから維持管理にかかるその他経費には土地借上料を含んでいるほか、運営に係る経費には機械警備業務委託、施設管理業務委託などの費用を計上しており、保健事業に関する費用は計上していません。

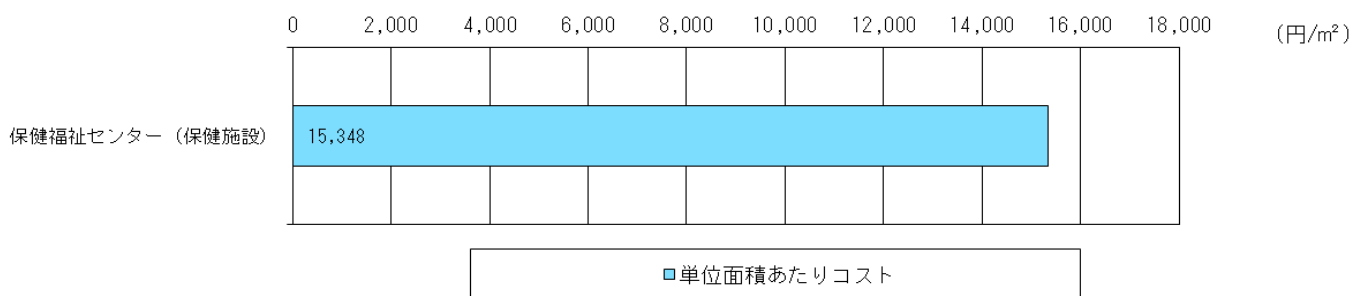
図 4-2-90 施設に関する費用と内訳（平成 25 年度）



#### ⑤ 単位あたりのコストの状況

平成 25 年度の施設管理コストを延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりで見ると、15,348 円となっています。

図 4-2-91 延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）





## 6) 保健施設（その他保健施設）

### ① 概要

本市では、地域住民の生活環境改善と福利厚生を図り、住民の憩いの場として活用されるよう共同浴場を2箇所設置しています。



＜ 飛騨町共同浴場＞

表 4-2-26 保健施設（その他保健施設）の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
147	大久保町共同浴場及びプール	大久保町200-1	1991	RC1	393.99	310	272	246	0
148	飛騨町共同浴場	飛騨町75-1	1984	RC1	325.00	150	303	307	0

### ② 建物の状況

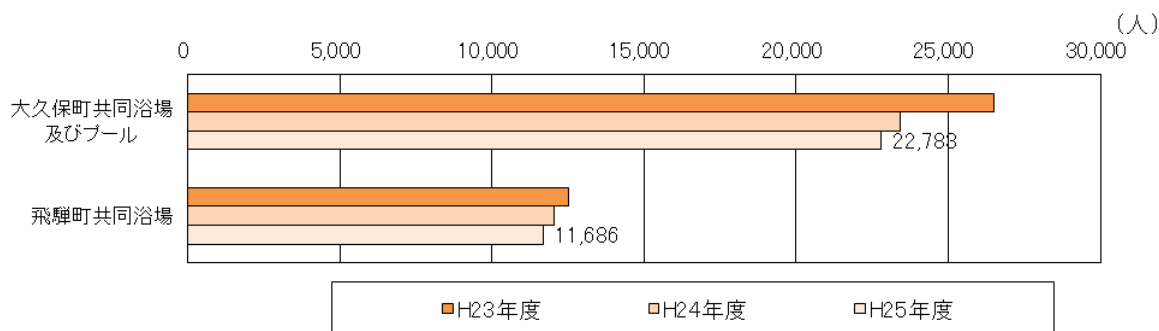
大久保町共同浴場及びプール（屋上のプール）の延床面積は 393.99 m<sup>2</sup>、飛騨町共同浴場 325 m<sup>2</sup>です。

### ③ 利用の状況

平成 25 年度の利用者数をみると、大久保町共同浴場及びプールが 22,783 人（プール利用者を含む）、飛騨町共同浴場が 11,686 人となっています。

平成 23 年度からの推移をみると、いずれの施設も減少傾向がみられます。

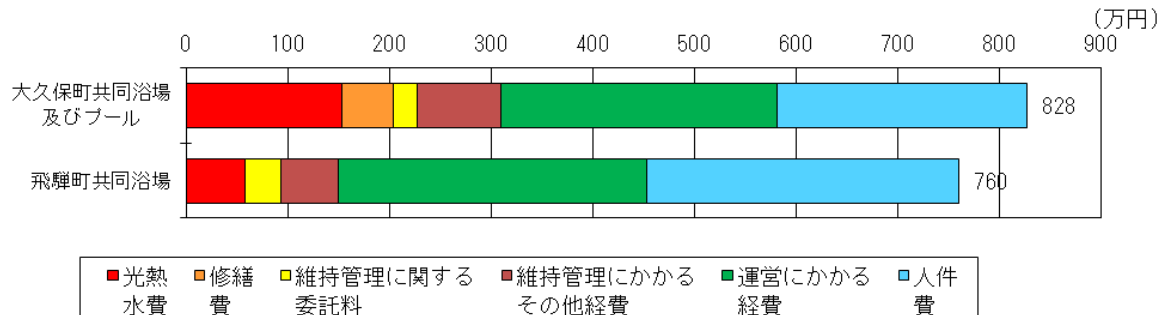
図 4-2-92 利用者数の推移



#### ④ 施設に関する総費用の状況

平成 25 年度における施設に関する費用をみると、大久保町共同浴場が 827 万円と、飛騨町共同浴場の 760 万円よりも高くなっていますが、大久保町共同浴場にはプールが設置されていることが主な原因と考えられます。

図 4-2-93 施設に関する費用と内訳（平成 25 年度）



#### ⑤ 単位あたりのコストの状況

平成 25 年度の施設管理コストを延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりでみると、平均では 22,067 円となっています。

利用者 1 人あたりでみると、平均では 460 円となっています。

図 4-2-94 延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）

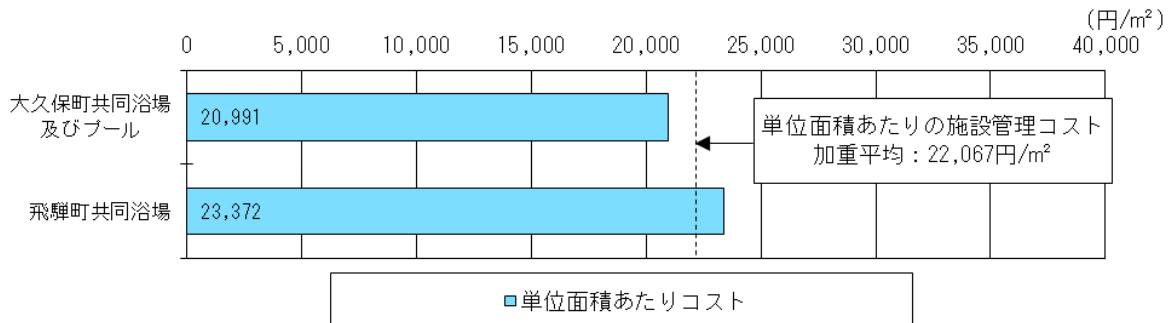
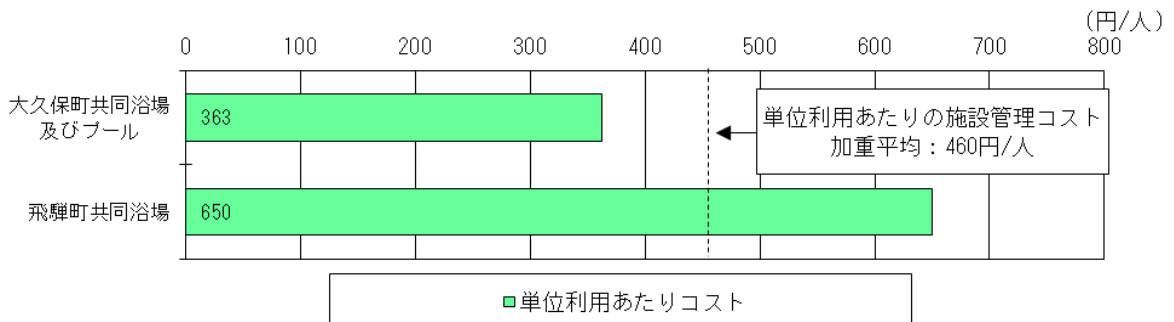


図 4-2-95 利用者 1 人あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）



## (7) 行政施設

### 1) 庁舎等

#### ① 概要

本庁舎は、行政機能及び議会機能を有し、市政全般にわたる事務を総合的に執り行っており、広く市民に直結する窓口サービスを実施しています。また、災害時などにおける拠点となる施設です。

その他の庁舎等については、各用途に合わせた市民サービスの向上を図るために設置しています。



< 本庁舎 >

表 4-2-27 庁舎等の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
149	本庁舎	八木町1-1-18	1960	RC4	7,338.37	5,530	3,211	1,260	106
150	教育委員会事務所	小房町11-5	1995	SRC5	793.80	646	0	0	0
151	保健福祉センター(事務所)	畝傍町9-1	1977	RC3	2,439.76	1,646	0	0	0
152	クリーンセンターかしはら(収集)	川西町1038-2	1977	RC2	1,950.66	651	1	171	3

#### ② 建物の状況

本庁舎は市の中核となる施設であり、災害時などには拠点となる施設ですが、築50年以上経過しており、老朽化が進んでいます。また、耐震診断の結果、耐震性が確保されていません。

保健福祉センターについては耐震診断の結果、耐震性が確保されています。

教育委員会事務所は、かしはら万葉ホール内に複合施設として入っており、耐震性が確保されています。

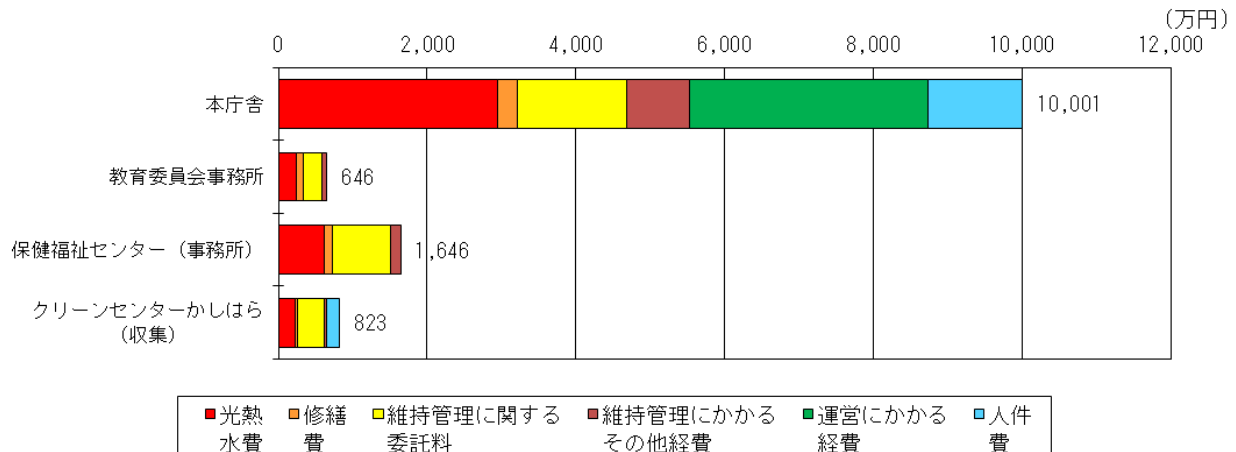
#### ③ 利用の状況

利用状況は把握していません。

#### ④ 施設に関する総費用の状況

平成 25 年度における施設に関する費用をみると、本庁舎で 10,001 万円となっており、一部借地（東駐車場）を含むことから維持管理にかかるその他経費には土地借上料を含んでいるほか、運営に係る経費には駐車場警備委託・受付業務委託・電話交換業務委託などの費用が計上されています。なお、上記金額には賃貸部分（北館）の費用は含んでいませんが、4,879 万円（施設借上料：3,393 万円、その他：1,486 万円）の費用が別途発生しています。

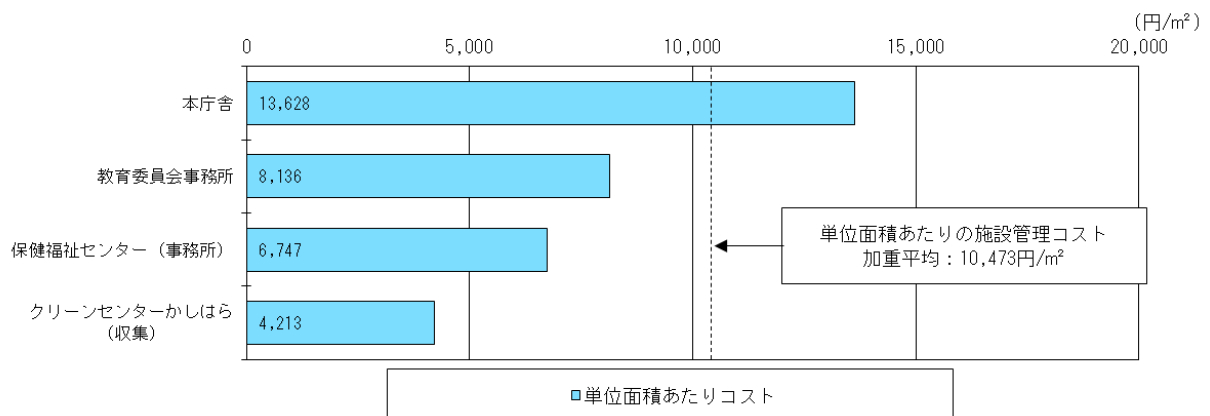
図 4-2-96 施設に関する費用と内訳（平成 25 年度）



#### ⑤ 単位あたりのコストの状況

平成 25 年度の施設管理コストを延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりでみると、全施設の平均では 10,473 円となっており、本庁舎では 13,628 円となっています。

図 4-2-97 延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）



## 2) 消防施設

### ① 概要

本市では、消防団施設を 11 箇所設置しています。

消防団施設は、第 1～10 分団の消防車庫や詰所とかしはら安心パークからなり、火災や風水害、地震などの災害から市民の皆様方の生命、身体及び財産を守る活動のための施設です。

かしはら安心パークは、市民向けに消防・防災及び防犯に係る研修会、体験学習などを実施する施設として平成 25 年度から供用開始され、檀原市消防団の拠点や第 10 分団詰所としての機能も有しています。



< かしはら安心パーク >

表 4-2-28 消防施設の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
153	第1分団消防車庫	見瀬町202-1	1984	RC1	55.91	10	15	36	0
154	第2分団消防車庫	飛驒町75-4	1986	RC2	101.40	18	10	36	0
155	第3分団消防車庫	膳夫町477	1981	RC1	59.60	8	10	36	0
156	第4分団消防車庫	十市町8-2	1988	RC1	97.30	11	10	36	0
157	第5分団消防車庫	小槻町235-14	1980	S2	65.80	6	10	36	0
158	第6分団消防車庫(詰所)	雲梯町927	1985	RC1	55.91	38	0	36	0
159	第6分団消防車庫(車庫)	曲川町2-1-51	1975	W1	35.00	0	10	36	0
160	第7分団消防車庫	川西町565-1	2010	S2	147.84	25	14	36	0
161	第8分団消防車庫	八木町1-427-4	2009	S2	145.36	15	8	36	0
162	第9分団消防車庫	今井町2-82-1	1999	RC2	132.00	13	10	36	0
163	かしはら安心パーク	東竹田町224-1	2013	RC2	816.50	103	30	358	60

### ② 建物の状況

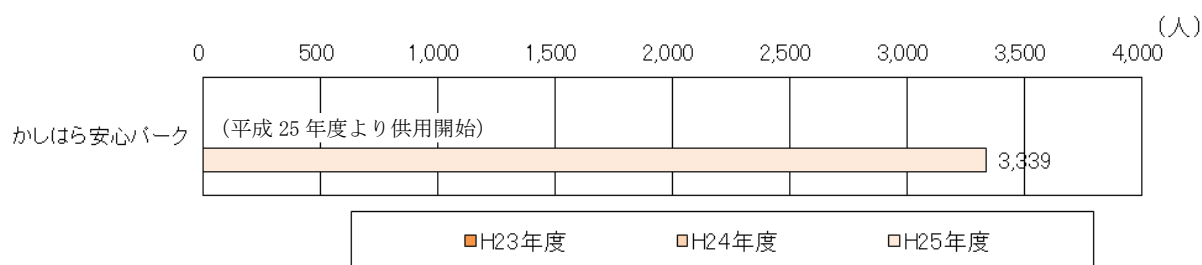
延床面積をみると消防車庫は約 50～150 m<sup>2</sup>となっています。比較的小規模な建物であるものの、消防車庫という性格上、堅牢なRC造の建物が多いです。

### ③ 利用の状況

平成 25 年度のかしはら安心パークの利用者数をみると、3,339 人となっています。

各消防車庫については利用状況を把握していません。

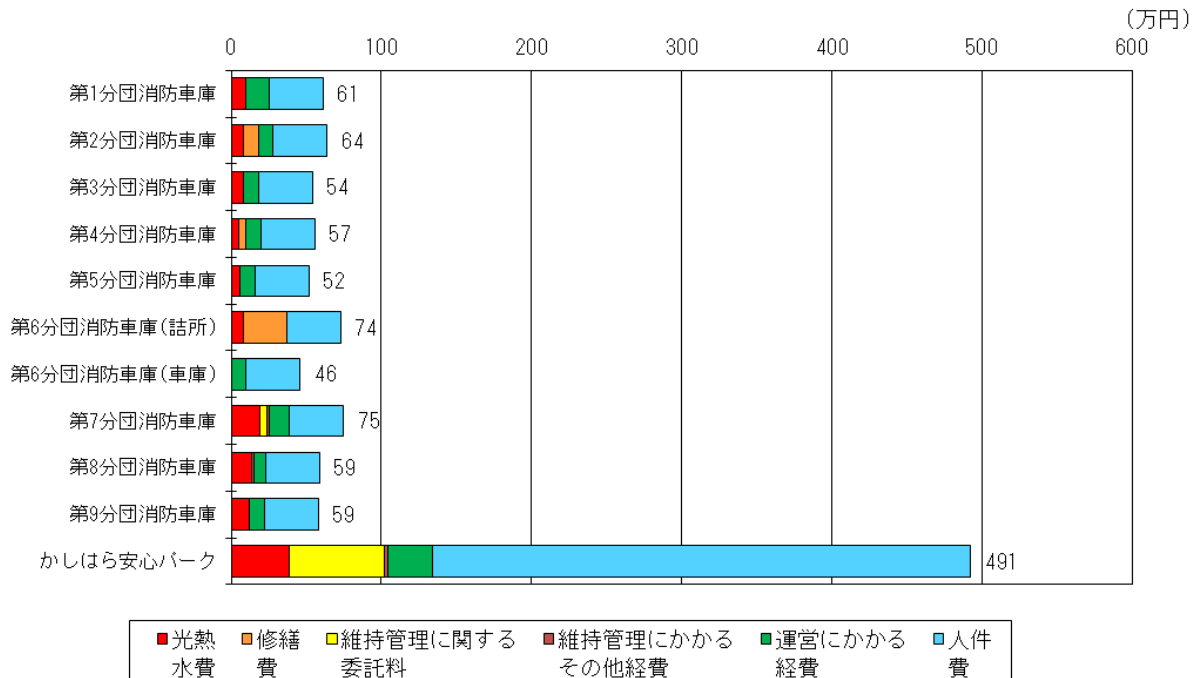
図 4-2-98 利用者数の推移



#### ④ 施設に関する総費用の状況

平成 25 年度における施設に関する費用をみると、施設面積が大きく、各種事業を実施しているかしはら安心パークが 491 万円と高くなっていますが、内訳は施設管理の人件費の割合が 7 割以上を占めています。

図 4-2-99 施設に関する費用と内訳（平成 25 年度）



## ⑤ 単位あたりのコストの状況

平成 25 年度の施設管理コストを延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりで見ると、全施設の平均では 6,369 円  
 となっていますが、第 6 分団消防車庫（詰所）では 13,183 円となっています。

利用者 1 人あたりで見ると、かしはら安心パークで 1,471 円となっています。

図 4-2-100 延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）

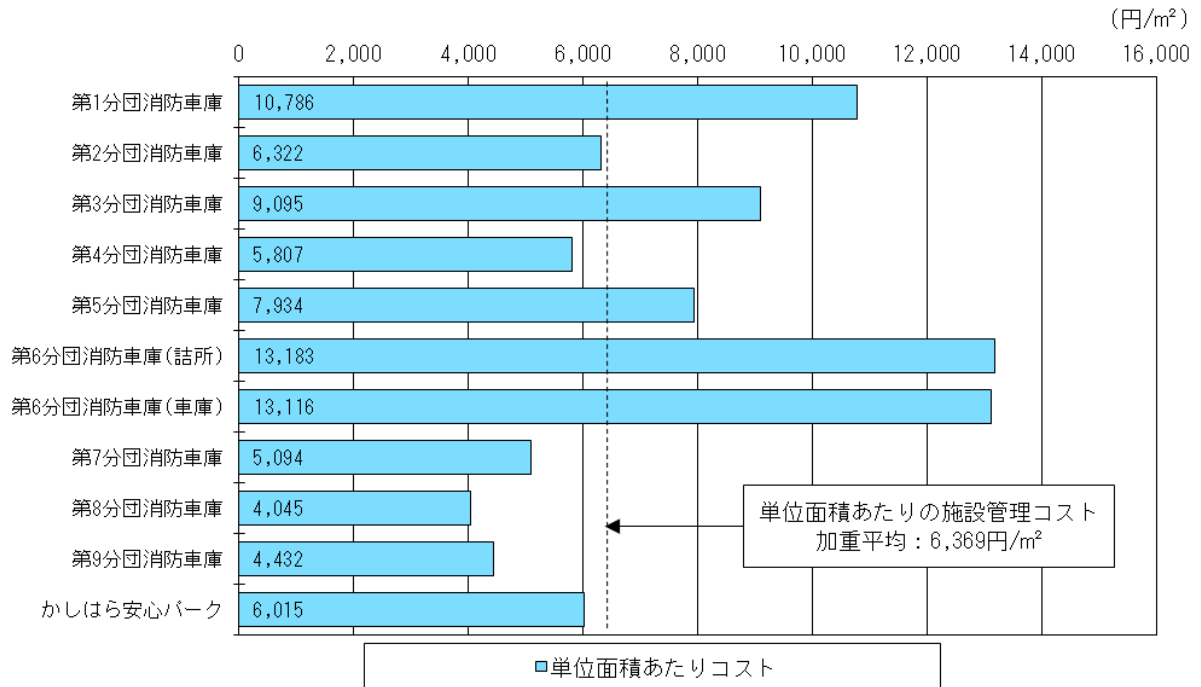
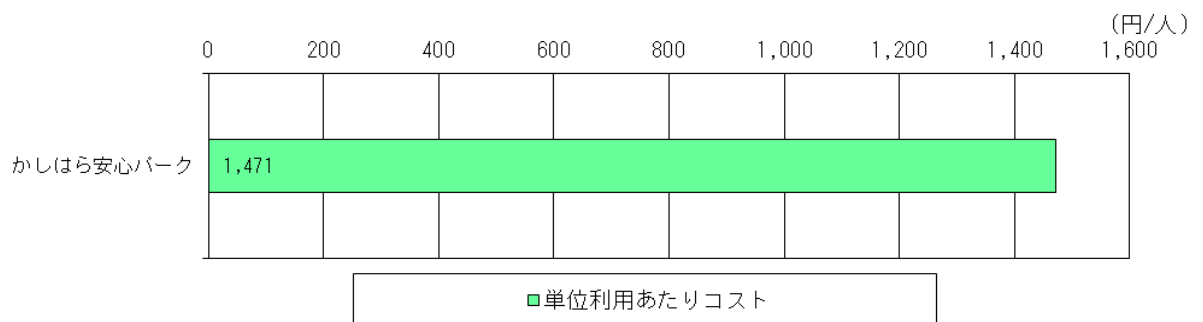


図 4-2-101 利用者 1 人あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）



### 3) 倉庫

#### ① 概要

本市では、倉庫を4箇所に設置しています。

運動公園備蓄倉庫は、災害時における避難者に対する物資供給のための備蓄と物流の拠点として設置しています。

埋蔵文化財出土遺物倉庫は、出土文化財保護の観点から遺物の整理・収蔵を行い、公開展示や研究などによる活用を図っています。



< 運動公園備蓄倉庫 >

表 4-2-29 倉庫の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
164	運動公園備蓄倉庫	古川町92	2009	RC1	540.00	0	33	443	0
165	埋蔵文化財出土遺物倉庫	川西町621-1	2004	S2	363.79	1	3	34	0
166	飛騨町農業共同作業所	飛騨町83-10	1975	S1	91.36	0	0	0	0
167	庁用バス車庫	小房町11-11	1985	S1	138.00	0	0	0	0

#### ② 建物の状況

延床面積をみると、運動公園備蓄倉庫は540 m<sup>2</sup>、埋蔵文化財出土遺物倉庫は約360 m<sup>2</sup>、飛騨町農業共同作業所は約90 m<sup>2</sup>、庁用バス車庫は138 m<sup>2</sup>となっています。

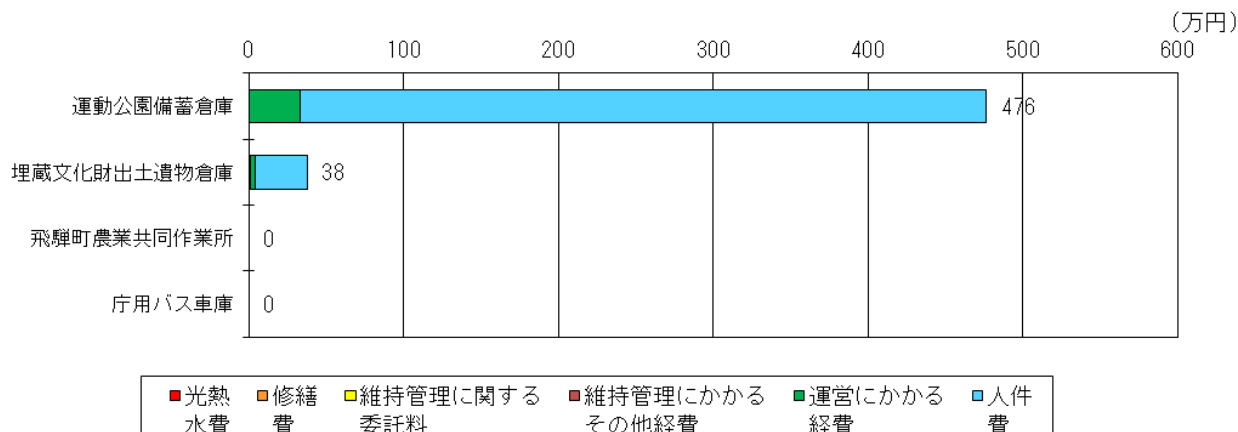
#### ③ 利用の状況

利用状況は把握していません。

#### ④ 施設に関する総費用の状況

平成25年度における施設に関する費用をみると、運動公園備蓄倉庫で476万円、埋蔵文化財出土遺物倉庫で38万円となっており、いずれも施設管理の人件費が大半を占めています。

図 4-2-102 施設に関する費用と内訳 (平成25年度)





## (8) 市営住宅

### 1) 公営住宅

#### ① 概要

本市では、公営住宅を7団地設置しています。

公営住宅は、収入などの制約から民間の市場において適切な水準の住宅を確保することが困難な世帯や災害などにより一時的に住戸を失った世帯などに対して安定した住まいを提供する住宅セーフティネットの中心的役割を担っています。



< 日高山団地 >

表 4-2-30 公営住宅の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
168	北妙法寺団地	北妙法寺町705	1999	RC3	1,992.89	145	5	351	310
169	見瀬団地	見瀬町590	1957	W1	325.01	137	2	351	27
170	日高山団地	上飛騨町57,100-1,153-6,43-1	1984	RC2	17,265.84	899	2	351	2,200
171	大久保団地	大久保町3-1	1997	RC4	2,682.48	483	5	351	467
172	四分団地	四分町291	1991	W2	6,619.25	354	2	351	942
173	四条団地	四条町241-1,10-12-11,256-1,37-1	1983	RC4	15,889.73	1,221	11	351	1,879
174	城殿団地	城殿町470	1974	RC4	1,851.89	372	5	351	341

#### ② 建物の状況

延床面積をみると約 330～17,270 m<sup>2</sup>まで、団地の規模により幅があります。

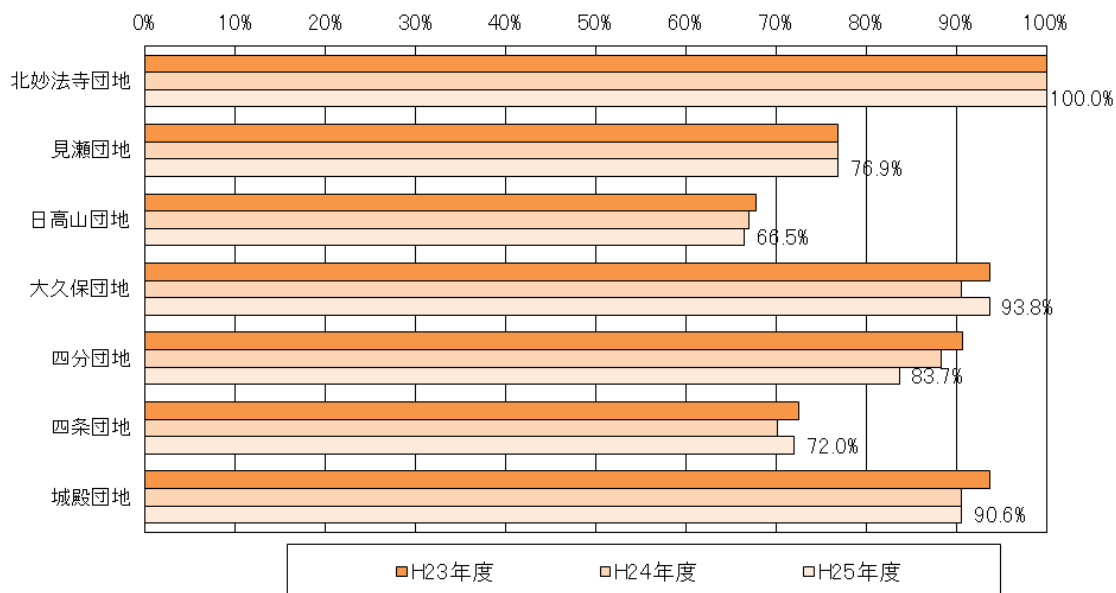
見瀬団地、日高山団地の一部、四条団地の一部については、現在の耐震基準を満たしていません。

城殿団地・四条団地などの一部の団地については、平成 22 年度に策定した「橿原市公営住宅等長寿命化計画」の方針により屋上防水工事などの長寿命化工事を実施しています。

### ③ 利用の状況

平成 25 年度の入居率（管理戸数に対する入居戸数の割合）をみると、北妙法寺団地、大久保団地、城殿団地では 90%以上となっていますが、日高山団地では 70%以下となっています。

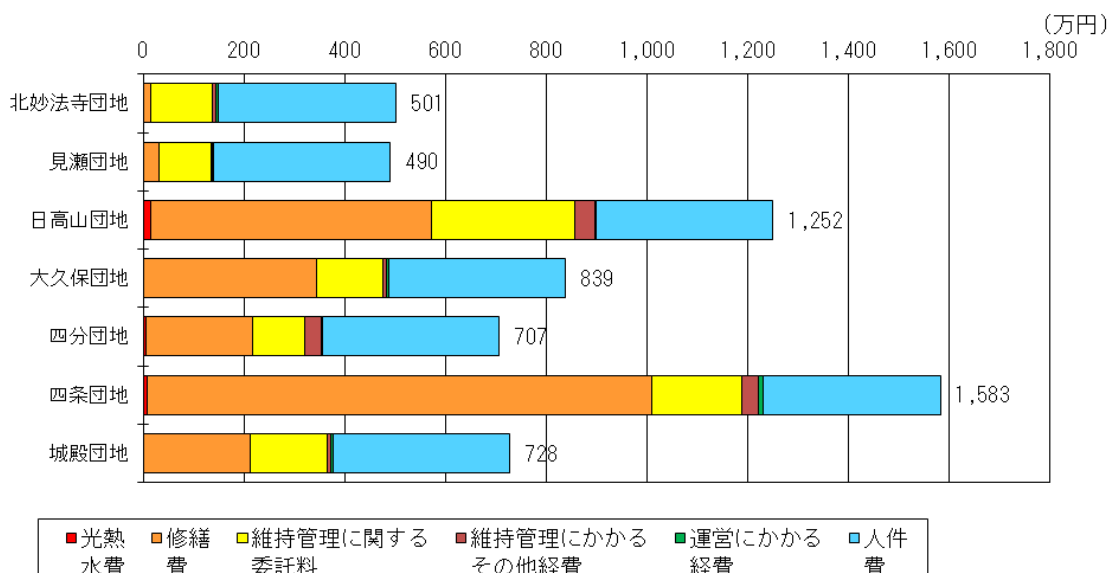
図 4-2-103 入居率（入居戸数／管理戸数）の推移



### ④ 施設に関する総費用の状況

平成 25 年度における施設に関する費用をみると、最も高い四条団地で 1,583 万円となっています。全体的に、建物の内装・建具などの修繕料に対する費用が多くを占めています。

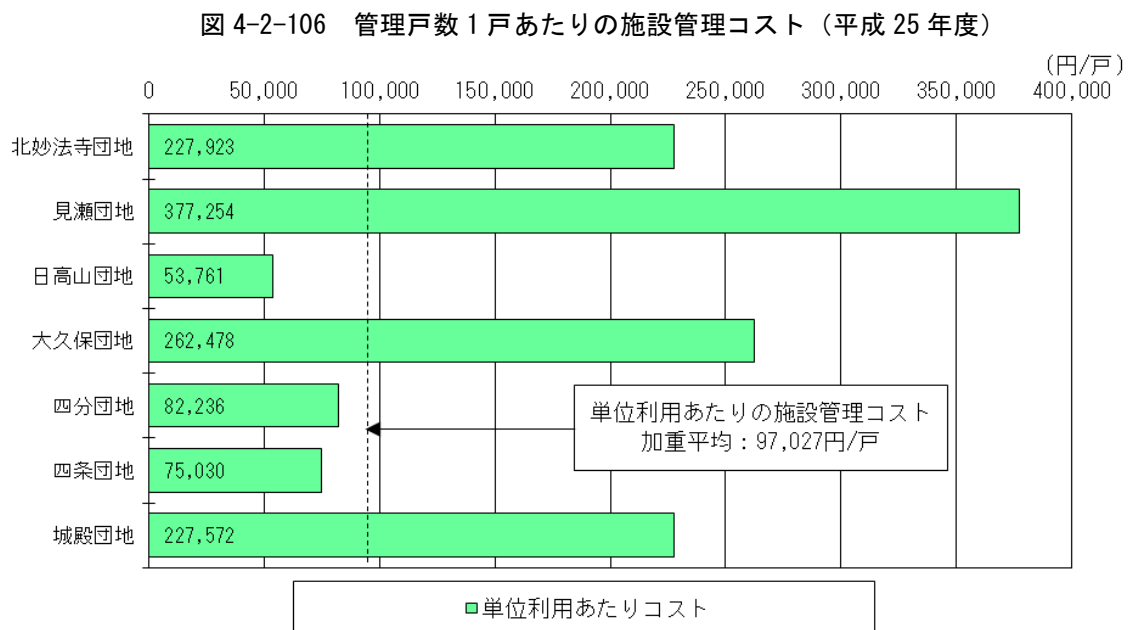
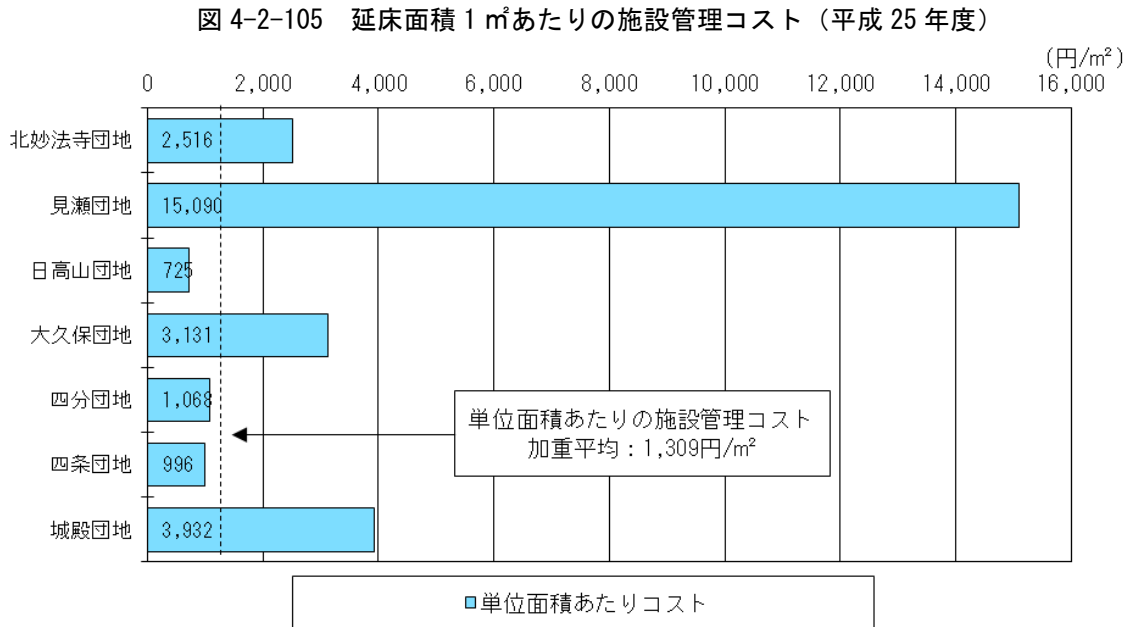
図 4-2-104 施設に関する費用と内訳（平成 25 年度）



## ⑤ 単位あたりのコストの状況

平成 25 年度の施設管理コストを延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりで見ると、全団地の平均では 1,309 円となっていますが、最も高い見瀬団地 (15,090 円) は、最も低い日高山団地 (725 円) の約 20.8 倍となっています。

管理戸数 1 戸あたりで見ると、全団地の平均では 97,027 円となっています。



## 2) 改良住宅

### ① 概要

本市では、改良住宅を7団地設置しています。改良住宅は、公営住宅とは異なり、住環境の向上を図るため老朽住宅を取り除いて地区内の整備改善を行う際に、事業により住宅を失うこととなる従前の居住者のために建設された住宅です。

以下の数値は、「飛驒地区改良住宅」には飛驒改良住宅・上飛驒改良住宅・城殿改良住宅・高殿改良住宅を、「大久保地区改良住宅」には大久保改良住宅・四条改良住宅を、それぞれまとめて記載しています。



＜ 大久保地区改良住宅 ＞

表 4-2-31 改良住宅の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
175	飛驒地区改良住宅	上飛驒町73-2	1996	RC2	5,022.55	261	2	351	672
176	大久保地区改良住宅	大久保町166-1	1992	RC2	5,388.72	225	2	351	807
177	今井改良住宅	今井町1-6-17	2005	W1	350.00	110	2	351	80

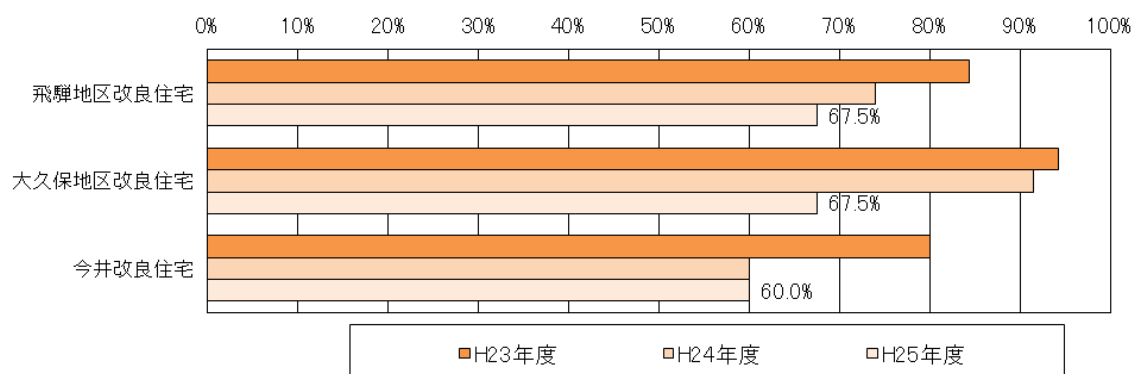
### ② 建物の状況

延床面積をみると、今井改良住宅は約 350 m<sup>2</sup>と小さい一方、飛驒地区改良住宅、大久保地区改良住宅は 5,000 m<sup>2</sup>を超えるなど、団地の規模により幅があります。

### ③ 利用の状況

平成 25 年度の入居率（管理戸数に対する入居戸数の割合）をみると、いずれの団地も 60～70%となっており、空き家の増加がみられます。

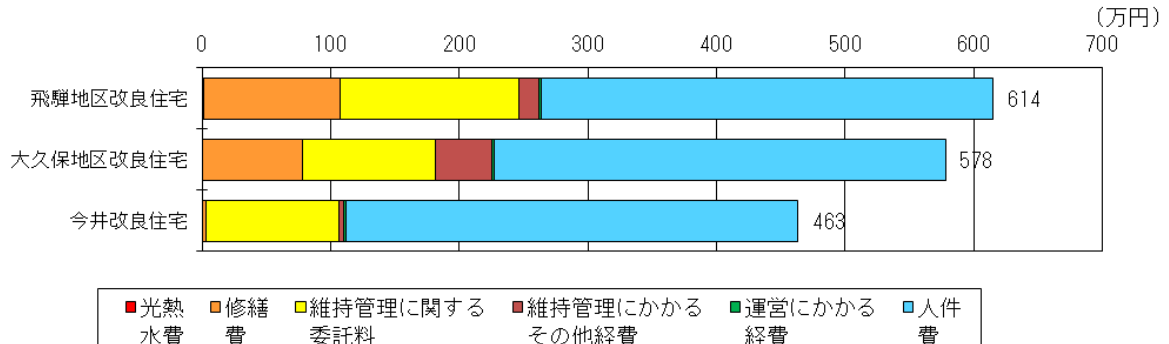
図 4-2-107 入居率（入居戸数／管理戸数）の推移



#### ④ 施設に関する総費用の状況

平成 25 年度における施設に関する費用をみると、飛騨地区改良住宅と大久保地区改良住宅では修繕費は概ね 70 万円～100 万円となっていますが、その他の費用は 3 団地ともほぼ同じとなっています。

図 4-2-108 施設に関する費用と内訳（平成 25 年度）



#### ⑤ 単位あたりのコストの状況

平成 25 年度の施設管理コストを延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりでみると、平均では 1,540 円となっていますが、延床面積や管理戸数の少ない今井改良住宅では 13,252 円と高くなっています。管理戸数 1 戸あたりでみると、全住宅の平均では 108,999 円となっています。

図 4-2-109 延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）

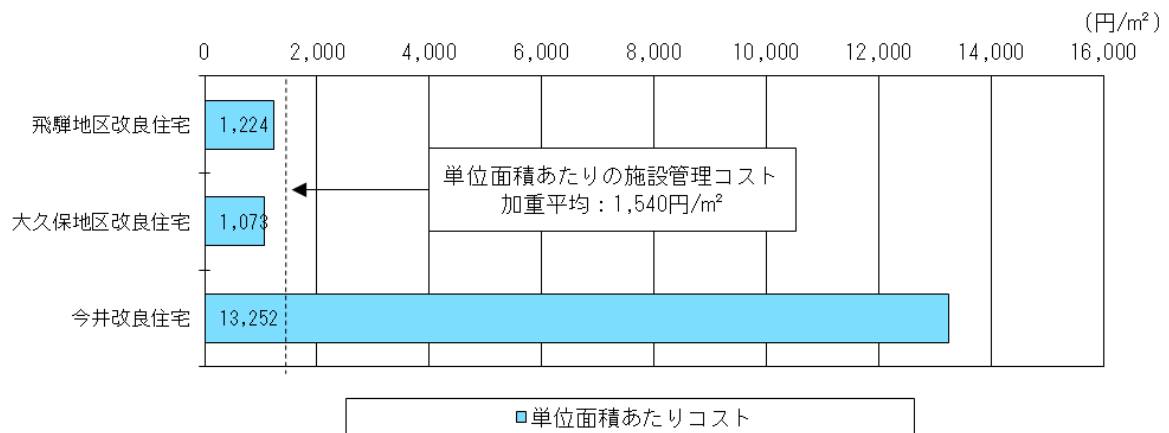
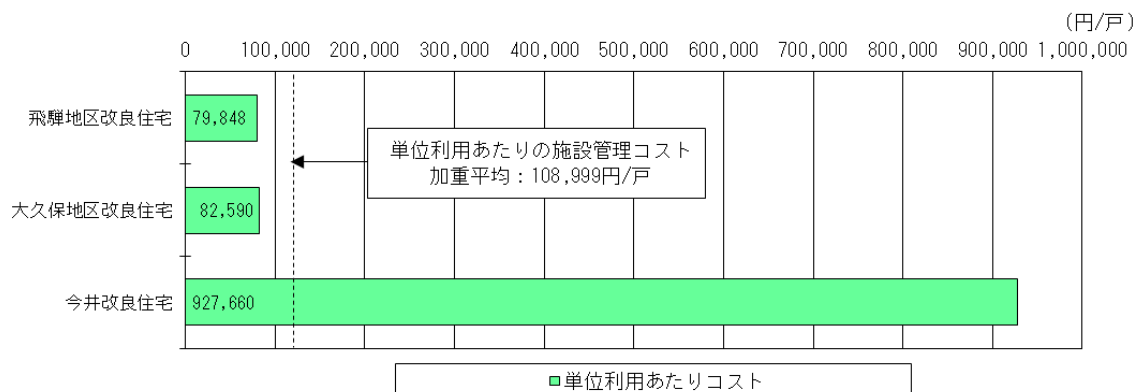


図 4-2-110 管理戸数 1 戸あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）



## (9) 環境施設

### 1) 環境施設

#### ① 概要

本市では、市民生活に必要不可欠な環境施設を3施設有しています。

クリーンセンターかしはらでは、市内の各家庭や事業所などから排出された可燃ごみを焼却処理しています。また、ごみを焼却する際に発生する熱を利用して発電した電気を電気事業者に売却するほか、場内や隣接する市の施設へ給湯を行っています。

リサイクル館かしはらでは、市内の各家庭などから排出された粗大ごみの粉碎や資源ごみの処理などを行っています。また、3Rの取り組みを促進するための啓発イベントや体験教室などを開催しています。

榎原市浄化センターでは、市内で排出されるし尿及び浄化槽汚泥を処理しています。



＜ クリーンセンターかしはら ＞

表 4-2-32 環境施設の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
178	クリーンセンターかしはら	川西町1038-2	2003	SRC4	17,529.10	5,669	51,043	15,040	61,913
179	リサイクル館かしはら	東竹田町1-1	2000	RC3	9,371.23	3,243	27,018	1,535	6,537
180	榎原市浄化センター	東竹田町148-1	2007	RC2	5,233.80	3,733	18,069	1,228	6,031

#### ② 建物の状況

いずれの施設も築20年以内の比較的新しい施設であり、耐震構造に問題はありません。

#### ③ 利用の状況

平成25年度の処理量をみると、クリーンセンターかしはらが44,601ト、リサイクル館かしはらが4,979トとなっており、浄化センターは28,144キリットルとなっています。

利用者数については、リサイクル館かしはらにおける啓発イベントや体験教室などの参加者であり、平成25年度では12,700人となっています。

図 4-2-111 処理量の推移

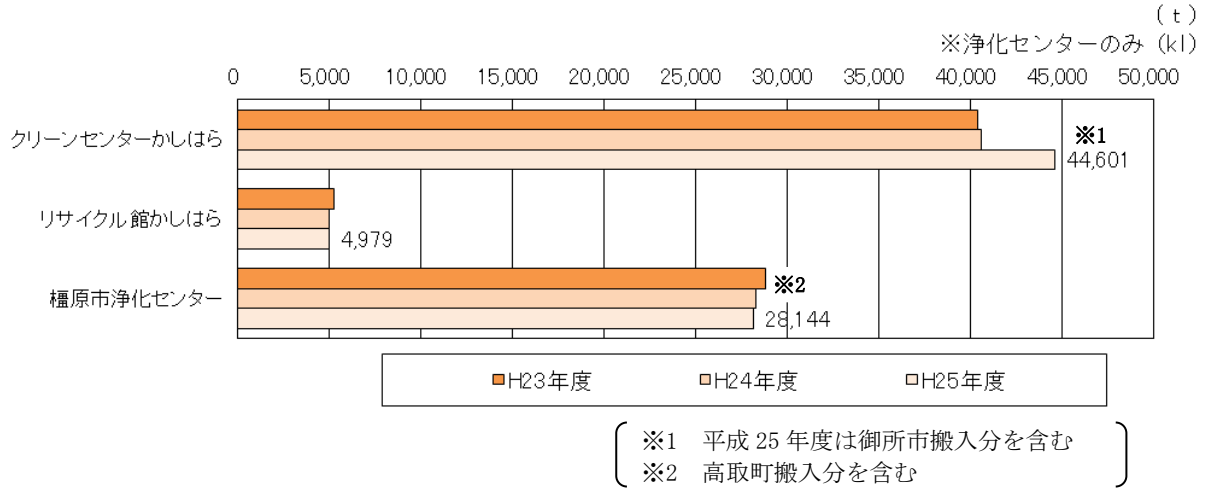
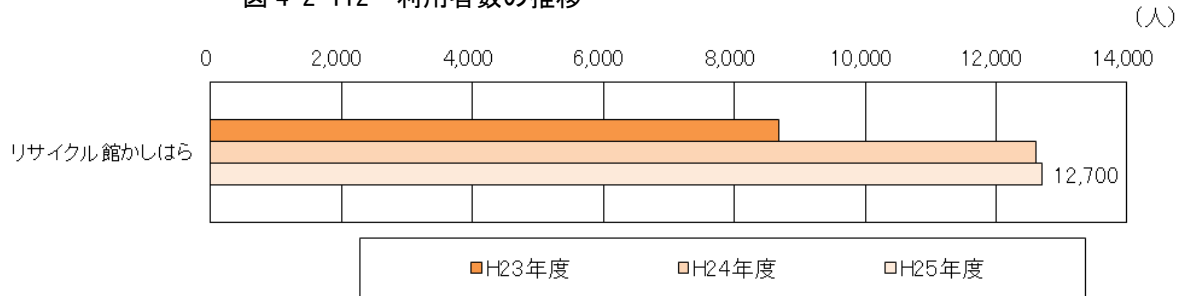


図 4-2-112 利用者数の推移

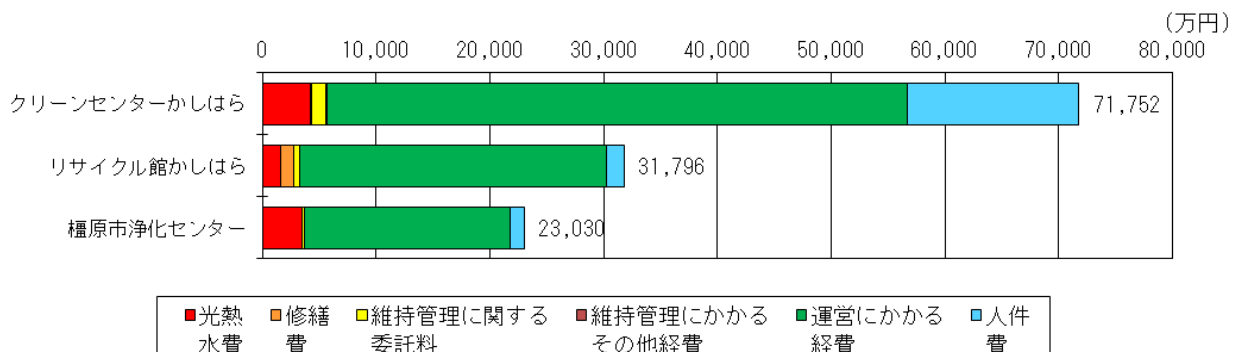


#### ④ 施設に関する総費用の状況

平成 25 年度における施設に関する費用をみると、3 施設合計で約 13 億円の事業費を要しています。なお、処理施設という性質上、施設の運転や設備機器の補修、付随する人件費などが事業運営費に含まれており、3 施設ともにこれらの費用が大半を占めています。

また、クリーンセンターかしはらとリサイクル館かしはらの 2 施設については、平成 26 年度から 10 年間にわたり、民間事業者による運転管理・ユーティリティ管理・設備の維持管理などの施設運営を包括的に委託する長期包括運営委託を導入しており、将来にわたる事業費を削減するとともに、財政支出の平準化を行っています。

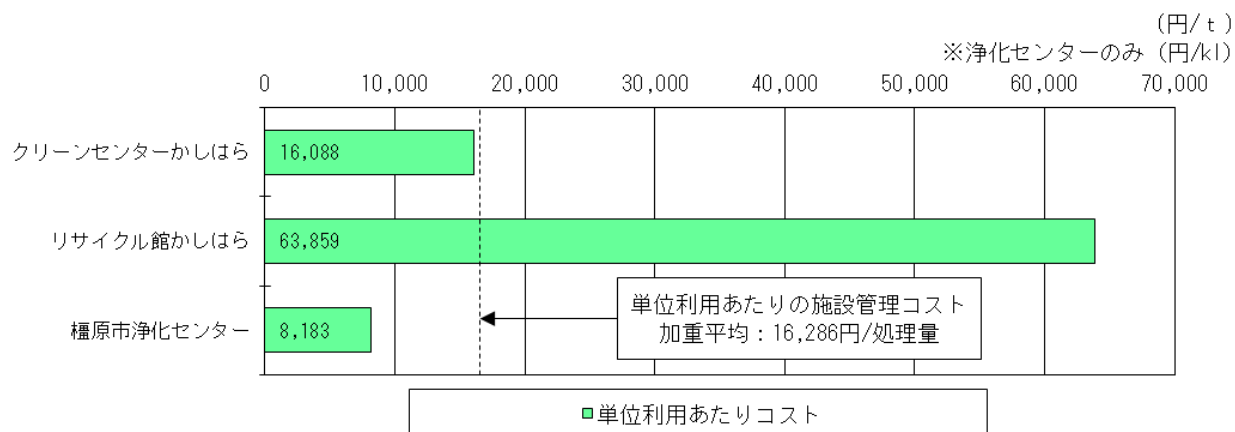
図 4-2-113 施設に関する費用と内訳 (平成 25 年度)



## ⑤ 単位あたりのコストの状況

平成 25 年度の処理量 1 トンまたは 1 キロリットルあたりの施設管理コストで見ると、3 施設の平均では 16,286 円となっています。

図 4-2-114 処理量 1 t または 1kl あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）





## (10) その他施設

### 1) 駐車場

#### ① 概要

本市の駐車場は、立体駐車場 4 箇所（うち、市所有 3 箇所）、青空駐車場 1 箇所の計 5 箇所設置しています。

駐車場は、道路交通の円滑化を図り、あわせて自動車利用者の利便に資するとともに、都市の機能の維持及び増進に寄与するために設置しています。



< 八木駅前北駐車場 >

表 4-2-33 駐車場の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
181	八木駅前北駐車場	内膳町5-1-19	1982	S5	9,719.61	844	4,571	130	11,488
182	檀原神宮前駅東駐車場	久米町652-22	1990	S5	4,452.40	300	1,500	130	2,076
183	畝傍御陵前駅東駐車場	大久保町320-4	1998	S6	7,919.33	786	1,471	130	2,156

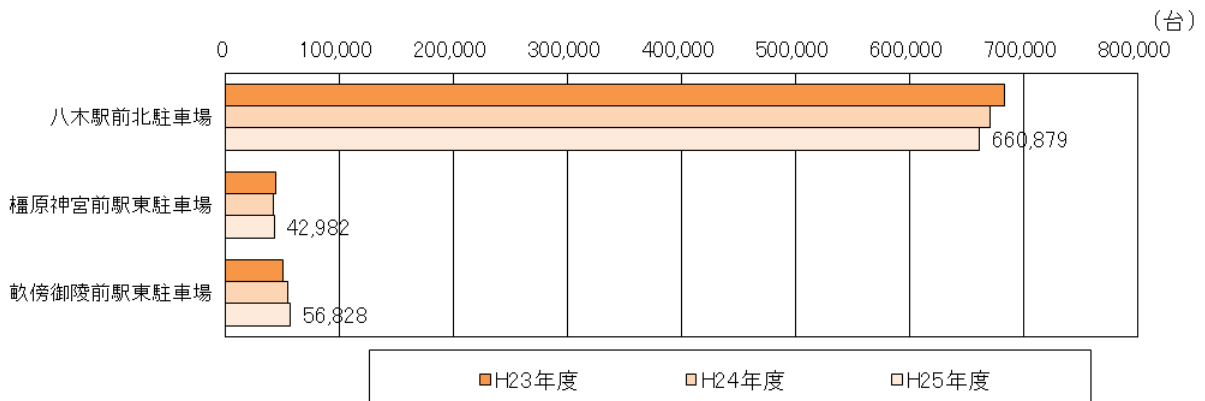
#### ② 建物の状況

延床面積をみると、約 4,500 m<sup>2</sup>~9,700 m<sup>2</sup>まで幅があります。八木駅前北駐車場は築 32 年を経過しており、施設の老朽化が顕著になっています。3 施設共に耐震性が確保されています。

#### ③ 利用の状況

平成 25 年度の利用台数（一時預かり延台数及び定期契約延台数の合計）をみると、八木駅前北駐車場で約 66 万 879 台（車 128,441 台、単車・自転車 532,438 台）、檀原神宮前駅東駐車場で 4 万 2,982 台（車）、畝傍御陵前駅東駐車場で 5 万 6,828 台（車 49,908 台、単車・自転車 6,920 台）となっています。平成 23 年度からの推移をみると横ばいとなっています。

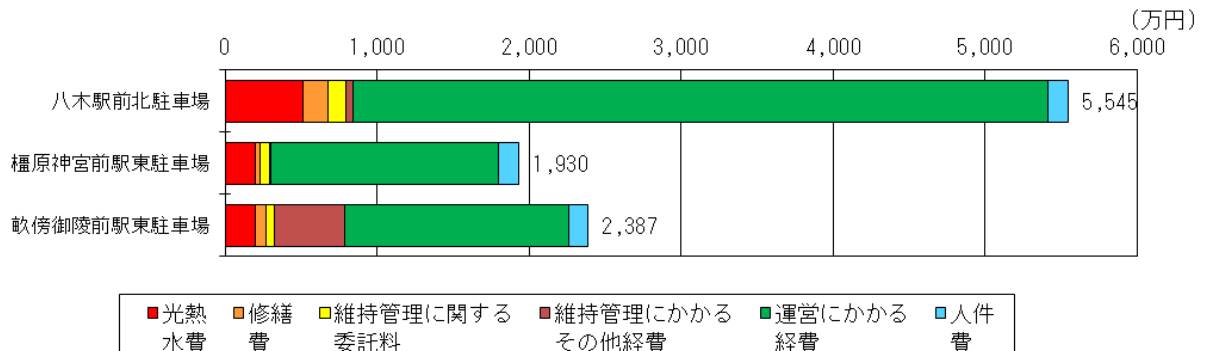
図 4-2-115 利用台数の推移



#### ④ 施設に関する総費用の状況

平成 25 年度における施設に関する費用をみると、八木駅前北駐車場が 5,544 万円と最も高くなっていますが、収入が 1 億 1,488 万円と歳出を大幅に上回っています。榎原神宮前駅東駐車場の費用は 1,930 万円で、収入は 2,076 万円となっており、畷傍御陵前東駐車場の費用は 2,387 万円で、収入は 2,156 万円となっています。

図 4-2-116 施設に関する費用と内訳（平成 25 年度）



#### ⑤ 単位あたりのコストの状況

平成 25 年度の施設管理コストを延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりでみると、3 施設の平均では 4,463 円となっています。

利用台数あたりでみると、平均では 130 円となっています。

図 4-2-117 延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）

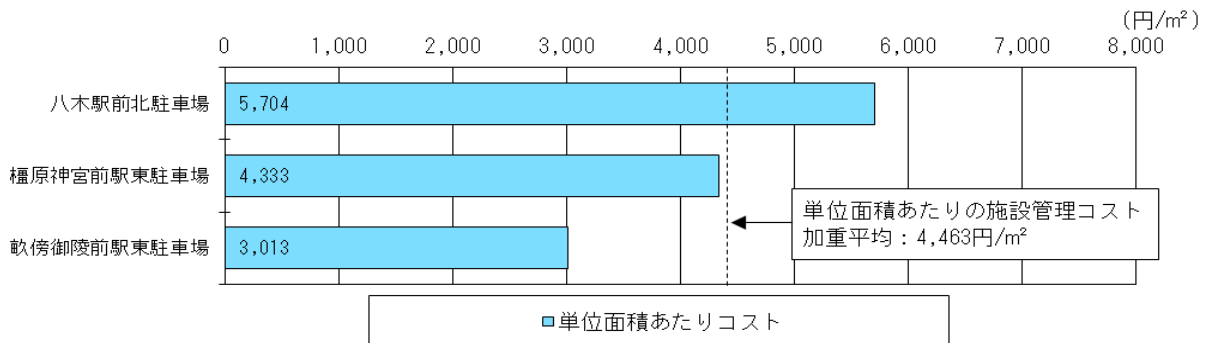
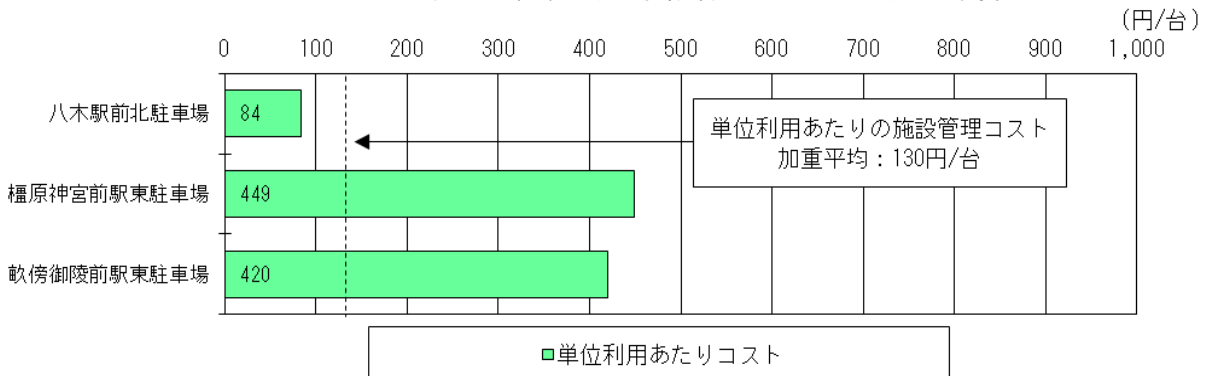


図 4-2-118 利用台数あたりの施設管理コスト（平成 25 年度）



## 2) 自転車駐車場

### ① 概要

本市では、自転車駐車場を 18 箇所に設置しており、その内、市所有の建物で且つ自転車単独の施設は 8 箇所存在します。

自転車駐車場は、駐輪場ニーズに対応するとともに、道路交通の円滑化を図るために設置しています。

なお、新ノ口駅前自転車駐車場は現在閉鎖しています。



< 八木西口駅前自転車駐車場 >

表 4-2-34 自転車駐車場の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
184	真菅駅前自転車駐車場	中曾司町193-4	1981	S1	210.00	100	614	38	584
185	八木西口駅前自転車駐車場	八木町1-547-2	1988	S2	468.84	135	613	38	724
186	新ノ口駅前自転車駐車場	新口町122-3	2003	S1	71.43	1	0	0	0
187	樫原神宮前駅中央口自転車駐車場	久米町	1991	S2	685.78	52	613	38	293
188	樫原神宮前駅東口自転車駐車場	久米町	1988	S2	728.36	50	659	38	871
189	樫原神宮前駅西口自転車駐車場	久米町	1995	RC1	1,718.98	183	1,380	38	1,543
190	畝傍御陵前駅前自転車駐車場	大久保町445-1	1979	S2	438.75	88	613	38	565
191	樫原神宮西口駅前自転車駐車場	西池尻町346-19	1979	S2	192.00	25	613	38	77

### ② 建物の状況

延床面積をみると約 70~1,720 m<sup>2</sup>まで幅があります。

現在閉鎖中の新ノ口駅前自転車駐車場は、屋外の駐車場のため管理棟のみの延床面積を計上しています。その他の施設は屋内施設(屋根付き)です。なお、樫原神宮前駅西口自転車駐車場は地下の施設となっています。

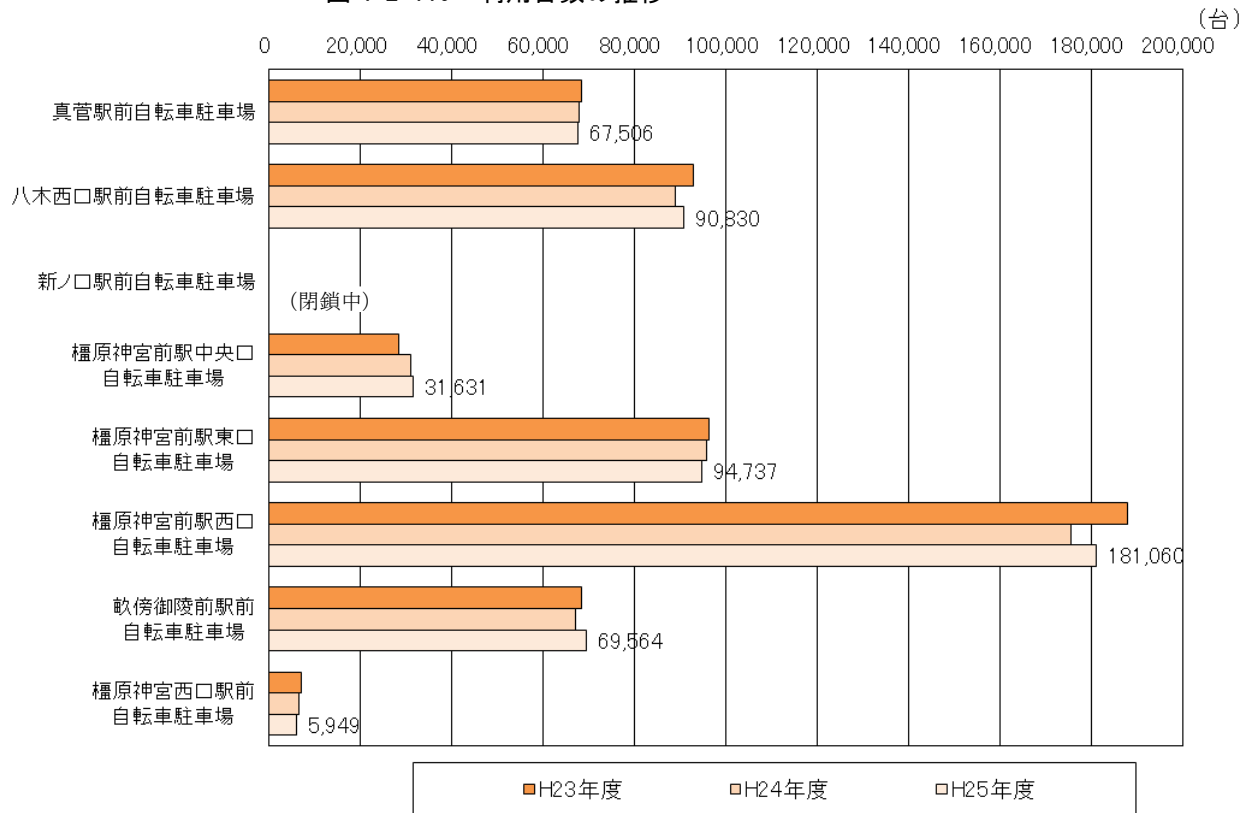
全ての施設で耐震性が確保されています。

### ③ 利用の状況

平成 25 年度の利用台数(一時預かり延台数及び定期契約延台数の合計)をみると、樫原神宮前駅西口自転車駐車場が 18 万 1,060 台、樫原神宮前駅東口自転車駐車場が 94,737 台となっています。

平成 23 年度からの推移をみると、畝傍御陵前駅前自転車駐車場と樫原神宮前駅中央口自転車駐車場が増加傾向がみられますが、その他の施設では減少傾向がみられます。

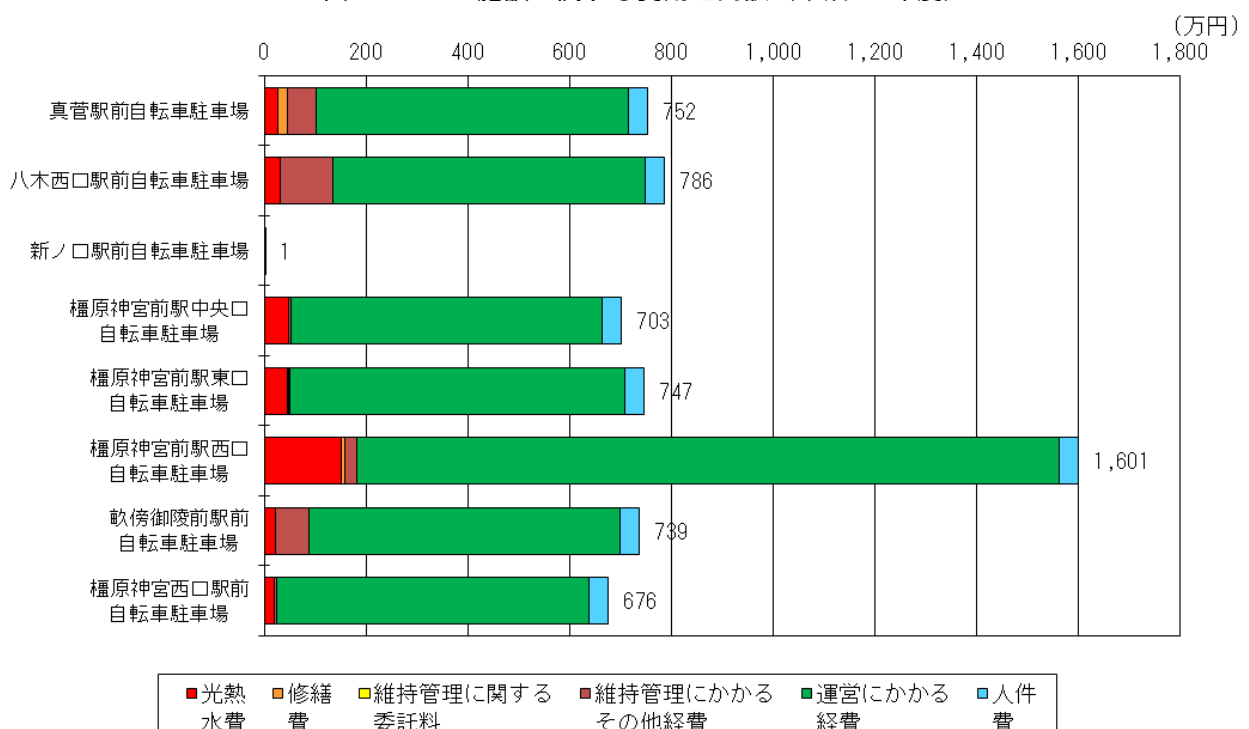
図 4-2-119 利用台数の推移



#### ④ 施設に関する総費用の状況

平成 25 年度における施設に関する費用をみると、榎原神宮前駅西口自転車駐車場が 1,601 万円と高くなっていますが、他の自転車駐車場と比べ延床面積と利用台数が非常に多いため、管理業務委託料が多くなっていることが主な原因と考えられます。その他の施設は概ね 600 万円から 800 万円の範囲となっています。また、いずれの施設も事業運営費（駐車場管理業務など）が、費用全体の約 8 割以上を占めています。

図 4-2-120 施設に関する費用と内訳（平成 25 年度）



## ⑤ 単位あたりのコストの状況

平成 25 年度の施設管理コストを延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりで見ると、全施設の平均では 13,304 円となっていますが、最も高い真菅駅前自転車駐車場 (35,828 円) は、最も低い榎原神宮前駅西口自転車駐車場 (9,313 円) の約 3.8 倍となっています。

利用者 1 台あたりで見ると、全施設の平均では 111 円で、最も高い榎原神宮西口駅前自転車駐車場は 1,137 円、最も低い榎原神宮前駅東口自転車駐車場は 79 円と施設によって差がみられます。

図 4-2-121 延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの施設管理コスト (平成 25 年度)

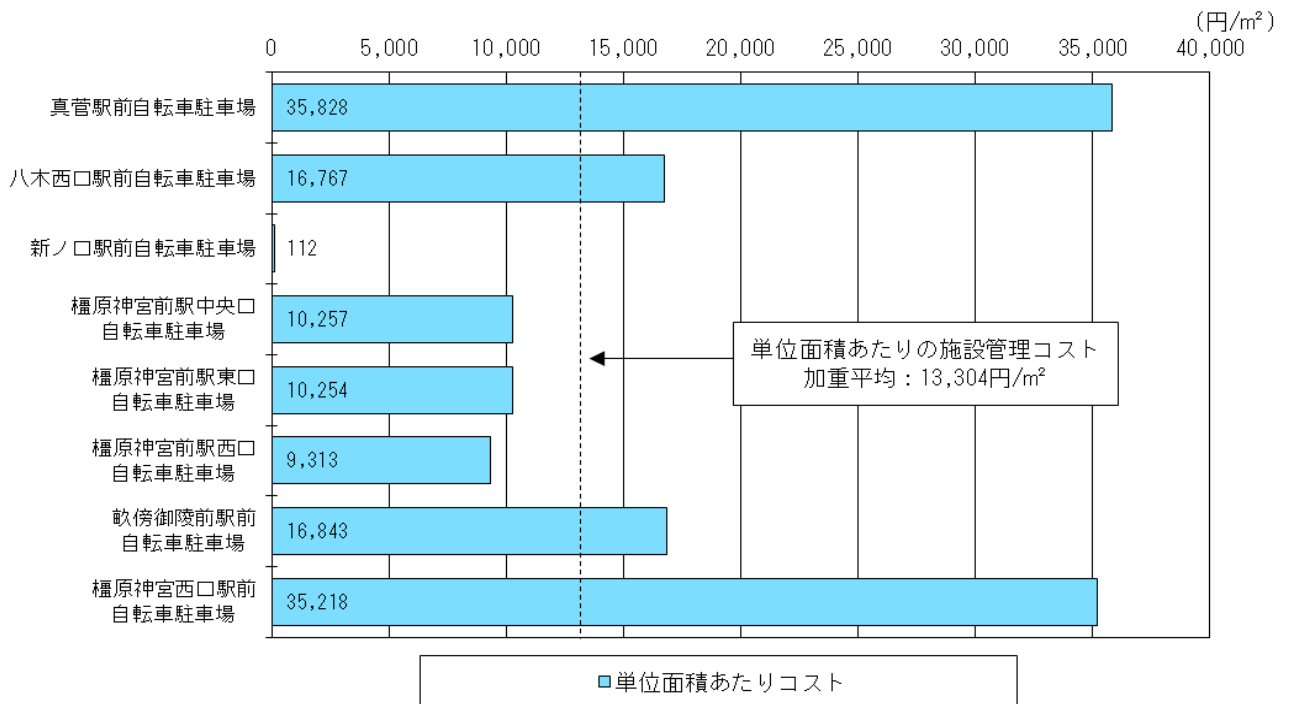
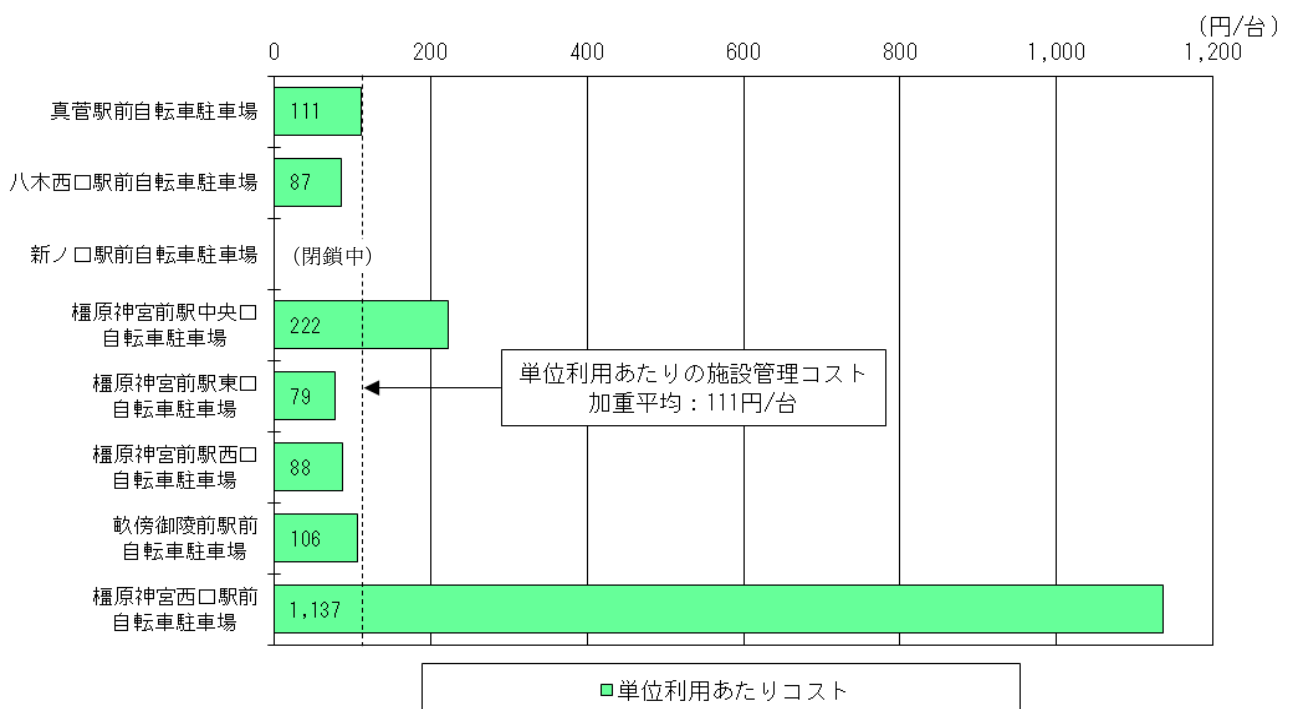


図 4-2-122 利用者 1 台あたりの施設管理コスト (平成 25 年度)



### 3) 斎場・墓園

#### ① 概要

本市では、斎場 1 箇所、墓園・墓地を 3 箇所に設置しています。

檀原市営斎場は、火葬又は祭祀儀礼を行うために設置しています。

檀原市営香久山墓園は、少子高齢化などの社会情勢の変化により多様化する墓地需要に対応するため、石碑を建立する一般墓地と共同で多くの方のご遺骨を埋蔵する合葬式墓地があり、墓地の円滑かつ適正な管理・運営に取り組んでいます。



< 檀原市営斎場 >

表 4-2-35 斎場・墓園の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
192	檀原市営斎場	南山町777	1986	RC2	4,610.00	3,170	4,179	818	3,788
193	檀原市営香久山墓園	南山町694	1987	RC1	301.83	816	59	136	781
194	飛騨町墓地管理棟・休憩所	上飛騨町69-3	1990	W1	68.85	5	0	0	0
195	大久保町共同墓地休憩所	山本町118-2	1997	W1	20.35	0	0	0	0

#### ② 建物の状況

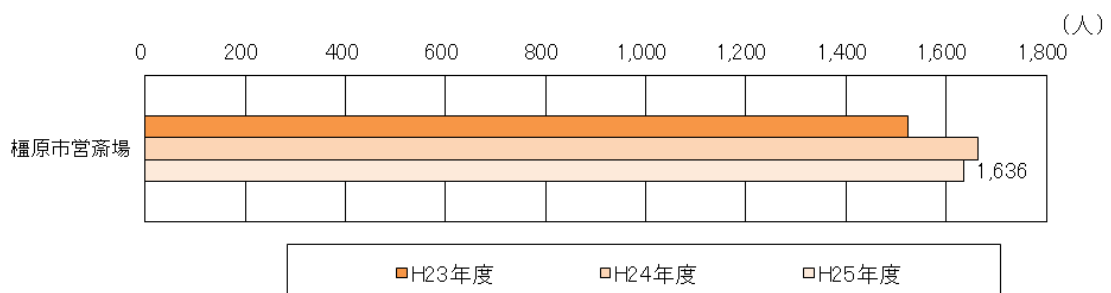
延床面積をみると、檀原市営斎場は 4,610 m<sup>2</sup>、檀原市営香久山墓園は約 300 m<sup>2</sup>となっています。檀原市営斎場は築 28 年を経過しており、施設の老朽化が進行しています。

#### ③ 利用の状況

平成 25 年度の檀原市営斎場の利用者数をみると、1,636 人となっており、平成 23 年度からの推移をみると増加傾向にあります。

その他の施設の利用状況は把握していません。

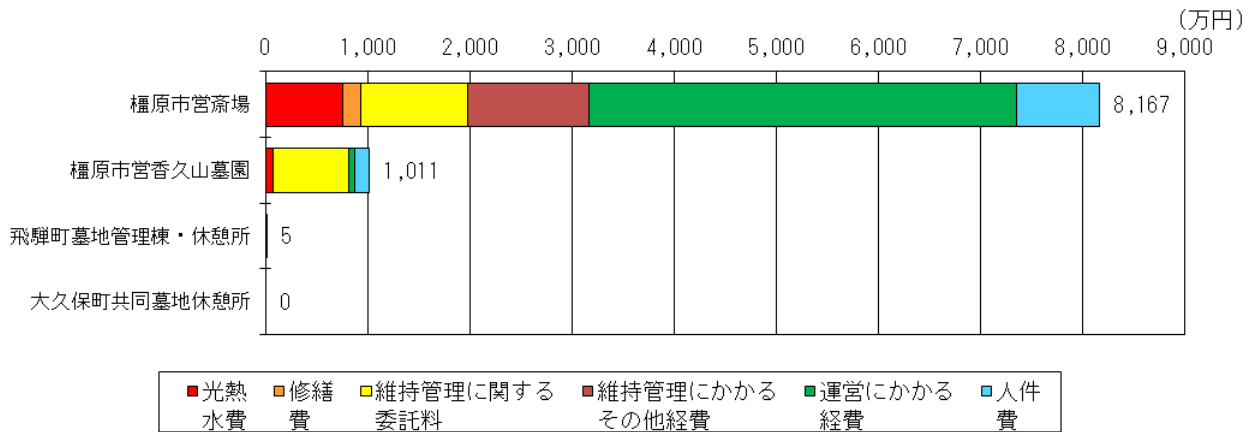
図 4-2-123 利用者数の推移



#### ④ 施設に関する総費用の状況

平成 25 年度における施設に関する費用をみると、橿原市営斎場では 8,167 万円となっています。橿原市営香久山墓園の費用は、1,011 万円となっていますが、ここでの費用は墓園センター及び合葬式墓地の施設維持に係る費用を計上しており、一般墓地に係る費用は含んでいません。

図 4-2-124 施設に関する費用と内訳（平成 25 年度）



## 4) その他施設

### ① 概要

本市では、他に分類できないその他施設を8箇所設置しています。

檜原市観光交流センター（市民相談広場・男女共同参画広場・檜原市消費生活センター・市民活動交流広場）は、観光センター、こども広場との複合施設です。

昆虫館石垣島圃場は、市外に立地する施設であり、昆虫館で飼育しているチョウの幼虫が食べる食草の安定した供給とあわせて、現地でのチョウの飼育と増殖を行っています。

旧かしの木園は発達支援事業を行っていましたが、平成26年度に供用開始した子ども総合支援センターにその機能を移管したため、現在は閉鎖しています。

旧給食管理室については、平成24年度より給食保健課として使用していましたが、平成25年8月に、かしはら万葉ホールに移転したため現在は閉鎖しています。

（仮称）今井地区内における文化財建造物等を活用した地域活性化事業用施設については、現在改修中で、平成28年度より放課後児童健全育成施設などの目的で供用開始予定です。



＜ 昆虫館石垣島圃場 ＞

表 4-2-36 その他施設の概要

No.	基礎情報					コスト情報(万円)			収入(万円)
	施設名	所在	主な棟の建築年度	主な棟の構造・階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	維持管理にかかる経費	運営にかかる経費	人件費	
196	檜原市観光交流センター(市民相談広場・男女共同参画広場・檜原市消費生活センター・市民活動交流広場)	内膳町1-6-8	2010	RC5	559.24	0	52	0	8
197	旧欽傍公民館	久米町922-2	1971	W2	363.54	1	0	0	27
198	旧白権児童センター	白権町8-1-25	1978	RC1	334.50	0	0	0	0
199	旧空港リムジンバス乗務員休憩所	新賀町240-1	2003	LS1	11.42	0	0	0	0
200	昆虫館石垣島圃場	沖縄県石垣市字宮良1090	1993	LS1	800.09	5	162	0	0
201	旧かしの木園	久米町678	1974	RC2	442.37	0	0	0	0
202	旧給食管理室	白権町3-1-1	2002	S2	136.08	0	0	0	0
203	(仮称)今井地区内における文化財建造物等を活用した地域活性化事業用施設	今井町3-1-25	不明	W1	144.78	0	0	0	0

### ② 建物の状況

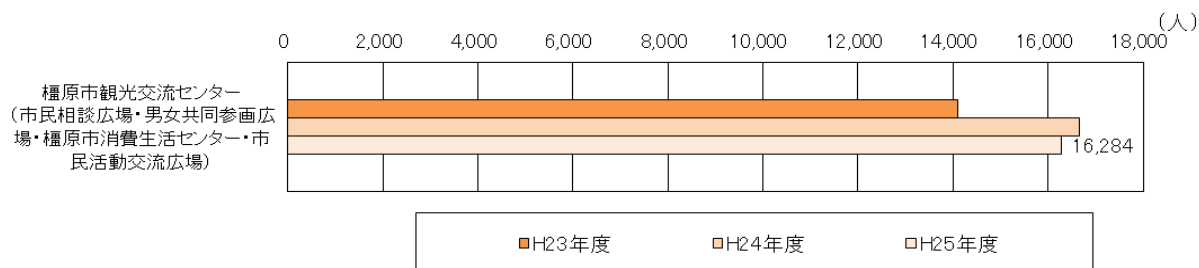
延床面積をみると、檜原市観光交流センター（市民相談広場・男女共同参画広場・檜原市消費生活センター・市民活動交流広場）は約560㎡、昆虫館石垣島圃場は約800㎡となっています。旧かしの木園及び旧給食管理室は用途廃止に伴い解体を予定しています。



### ③ 利用の状況

平成 25 年度の橿原市観光交流センター（市民相談広場・男女共同参画広場・橿原市消費生活センター・市民活動交流広場）の利用者数をみると、16,284 人（うち、市民相談広場・橿原市消費生活センター分：2,888 人、男女共同参画広場分：1,613 人、市民活動交流広場分：11,783 人）となっており、供用開始となった平成 23 年度からの推移をみると増加傾向がみられます。旧かしの木園及び旧給食管理室は平成 25 年度で用途廃止したため、表れていません。それ以外の施設の利用状況は把握していません。

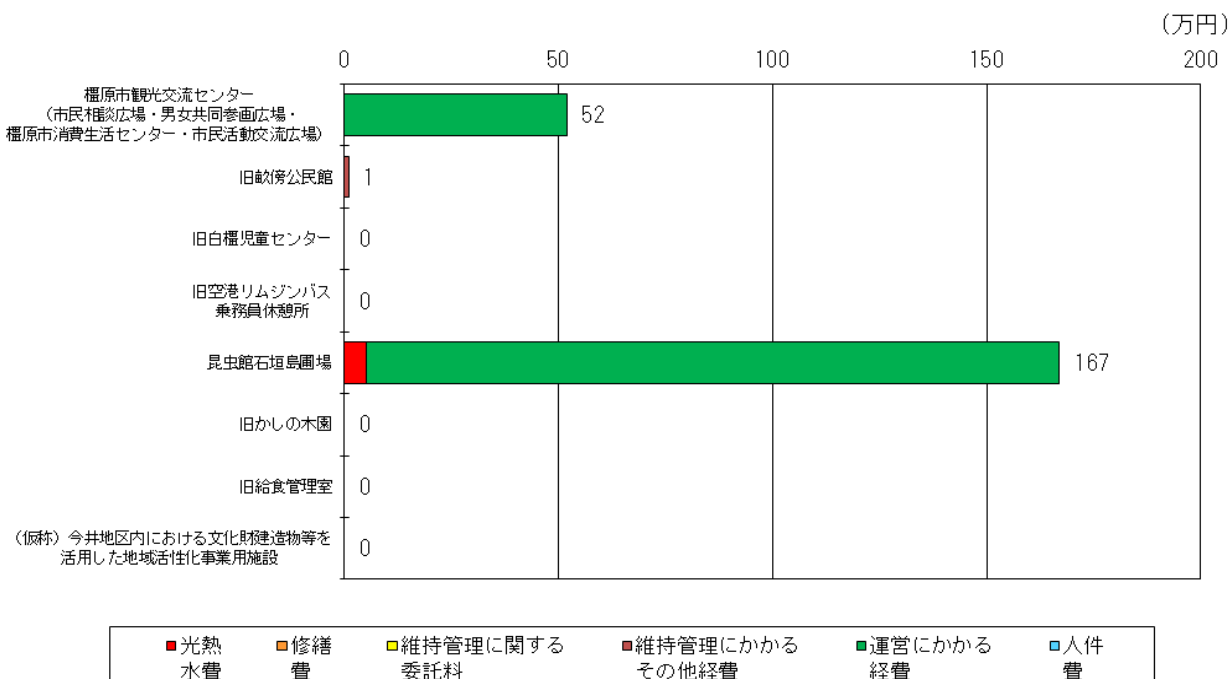
図 4-2-125 利用者数の推移



### ④ 施設に関する総費用の状況

平成 25 年度における施設に関する費用について、橿原市観光交流センター（市民相談広場・男女共同参画広場・橿原市消費生活センター・市民活動交流広場）の費用は、施設運営にかかる経費のみを計上しており、施設維持管理にかかる経費は橿原市観光交流センター（観光センター）で一括計上しています。

図 4-2-126 施設に関する費用と内訳（平成 25 年度）



## 5 公共施設を取り巻く現状と課題

### 5-1 本市の公共施設の主な状況

#### (1) 市民文化・社会教育施設

- ・市民文化・社会教育施設は公共施設全体に占める延床面積の割合が約 10%となっており、学校教育施設、市営住宅に次いで多くなっています。
- ・中央公民館ならびに地区公民館については、個別に今後の修繕の優先順位付けなどについて長寿命化の検討が行われています。いずれも災害時においては避難場所に位置付けられていますが、中央公民館では耐震性が確保されていません。
- ・伝統的建造物群が今も残る今井町をはじめとして、文化財施設も多く配置されています。

#### (2) スポーツ施設

- ・スポーツ施設は公共施設全体に占める延床面積の割合が約 3%となっています。
- ・体育館はスポーツ・レクリエーションの拠点としてだけではなく、災害時の避難場所に指定されていますが、一部の施設で耐震性が確認されていません。
- ・香久山体育館と曾我川緑地体育館は、指定管理者によって運営されています。

#### (3) 観光施設

- ・観光施設は公共施設全体に占める延床面積の割合が約 1%となっています。
- ・本市は貴重な歴史文化資源を多く有しており、交通や宿泊の拠点であることから、近隣の市町村を含めた広域的な観光地としての魅力発信と観光客の利便性の向上に取り組んでいます。
- ・橿原市観光交流センター（観光センター）は指定管理者により運営されています。

#### (4) 学校教育施設

- ・学校教育施設は公共施設全体に占める延床面積の割合が約 44%と最も多く、かつ、概ね同時期に整備しているため、将来の大規模改修や建替えの時期が集中することが予想され、市の財政への影響が大きいと考えられます。
- ・小学校は地域にバランスよく立地し、一定の規模を持ち、住民の愛着や防災機能、コミュニティ活動の拠点など多様な価値を持つ施設ですが、本市の年少人口も減少が予想されることから、今後は余裕教室などの有効活用についての検討も必要になって

きます。

- ・幼稚園・小学校・中学校の耐震化は今年度（平成 27 年度）で完了の見込みです。

## （５）子育て支援施設

- ・子育て支援施設は公共施設全体に占める延床面積の割合が約 6%となっています。
- ・女性の社会進出が進む中、子育て支援施設の重要性は増しており、今後も充実が求められます。
- ・幼稚園、こども園（幼稚園・保育所）については、学校教育施設同様に耐震性は確保されているものの、築年数の古い施設は老朽化が進んでいます。また、地域によって園児数・児童数に差がみられることから、学校教育施設なども含めて再編を検討していく必要があります。

## （６）保健・福祉施設

- ・保健・福祉施設は公共施設全体に占める延床面積の割合が約 2%となっています。
- ・将来にわたって高齢者人口の増加が見込まれる中、高齢者福祉施策のあり方について検討を進める必要があります。

## （７）行政施設

- ・行政施設は公共施設全体に占める延床面積の割合が約 4%となっています。
- ・行政施設は市民の生命と財産を守り、行政サービスを継続的に提供していくための中枢となる施設ですが、拠点となるべき本庁舎において老朽化が進み、また、耐震性が確保されていないため、建替えなどの早急な検討が求められます。

## （８）市営住宅

- ・市営住宅は公共施設全体に占める延床面積の割合が約 14%となっており、学校教育施設に次いで多くなっています。
- ・市営住宅は平成 26 年度に策定した「櫃原市営住宅整備・管理計画」において、将来的な需要推計を行った上で棟別の整備方針を定めており、これを踏まえて平成 22 年度に策定した「櫃原市公営住宅等長寿命化計画」の見直しを行いながら、用途廃止・建替え・個別改善・維持保全などの対策を進めています。

## (9) 環境施設

- ・環境施設は公共施設全体に占める延床面積の割合が約8%となっています。
- ・環境施設は比較的新しい施設であり、耐震構造に問題はありません。クリーンセンターかしはら、リサイクル館かしはらでは、長期包括運営委託を導入しており、将来にわたる事業費を削減するとともに、財政支出の平準化を行っています。
- ・施設を安全かつ安定的に稼働させるため、建物に比べ耐用年数の短い設備機器を中心として計画的に整備を進めています。

## (10) その他施設

- ・その他施設は公共施設全体に占める延床面積の割合が約8%となっています。
- ・駐車場、自転車駐車場については、利用者が多く、一定のニーズが見込まれます。

# 檀原市公共施設白書

平成 28 年 3 月

檀原市 総務部 財産契約課

〒634-8586

檀原市八木町 1 丁目 1-18

TEL 0744-22-4001 (代表)

FAX 0744-24-9721

